Cisco WiFi Engage with CUWN 設定ガイド

リリース 3.1

2016 年 12 月

Cisco Systems, Inc.
www.cisco.com

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。
各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は
当社の Web サイトをご覧ください。
www.cisco.com/go/offices

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco HealthPresence, the Cisco logo, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco WebEx, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn and Cisco Store are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

Cisco WiFi Engage with CUWN 設定ガイド

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

CONTENTS

はじめに iii
対象読者 iii
マニュアルの構成 iv
表記法 iv
略語の一覧 v
関連資料 v

CHAPTER 1 はじめに 1-1
概要 1-1
ルールに基づくキャプティブ ポータルの表示 1-2
通知を送信する WiFi ビーコンとしての機能 1-2
プロキシミティ ルール 1-2
プロセス フロー 1-3
WiFi Engage ライセンス パッケージ 1-3
システム要件 1-4

CHAPTER 2 WiFi Engage の機能と前提条件 2-1
WiFi Engage 機能 2-1
WiFi Engage のアイコン 2-3
Enterprise Mobility Services Platform 導入の前提条件 2-3
ポートと IP アドレス 2-3
ホワイトリストに登録する Enterprise Mobility Services Platform IP アドレス 2-4
WiFi Engage を導入するための帯域幅要件 2-4

CHAPTER 3 WiFi Engage のロケーション階層 3-1
WiFi Engage ロケーション階層 3-1
ロケーション階層の定義 3-2
ゾーンの作成とアクセス ポイントの追加 3-4
グループの作成 3-5
キャンパスへのビルディングの追加 3-6
ビルディングへのフロアの追加 3-6
ロケーションの検索 3-6

アクセス ポイントの検索 3-7
ロケーション要素のメタデータの定義 3-7
ロケーションのタイム ゾーンの定義または変更 3-8
MSE の詳細の手動アップロードによるロケーション階層の作成 3-8

CHAPTER 4 キャプティブ ポータル ルールの定義 4-1
キャプティブ ポータル ルールの作成 4-1
アクセス ポイントのモードの設定、ワイヤレス LAN コントローラ(WLC)での SSID および ACL の作成 4-2
インターネット プロビジョニングおよびRADIUS認証に関する CUWN の設定 4-2
WiFi Engage へのアクセス 4-3
手動での SSID のインポート 4-3
ロケーション階層の定義 4-4
ポータルの作成 4-4
タグの作成 4-5
キャプティブ ポータル ルールの定義 4-5
ワイヤレス LAN コントローラの設定 4-11

CHAPTER 5 通知を送信するエンゲージメント ルールの定義 5-1
エンゲージメント ルールの定義 5-1
通知を送信するための MSE/CMX の設定 5-2
WiFi Engage へのアクセス 5-2
ロケーション階層の定義 5-3
アプリケーションの設定 5-3
BLE ビーコンの設定 5-4
タグの作成 5-5
ポータルを使用した WiFi Engage への顧客の追加 5-5
エンゲージメント ルールの作成 5-5
エンゲージメント URL 5-18
通知基準 5-18
通知タイプ 5-19
通知頻度 5-19
EMSP SDK のダウンロード 5-20
エンゲージメント ルール レポート 5-20
Rule Activity 5-21
User Insight 5-21

CHAPTER 6 タグを管理するプロファイル ルールの定義 6-1
プロファイル ルールを使用したタグの作成または既存のタグへの顧客の追加または除外 6-1
タグによるフィルタリング 6-5
オプトイン ユーザ 6-6

CHAPTER 7 ポータルの作成と管理 7-1
ポータル モジュール 7-1
ポータル管理 7-2
ポータルの言語の選択 7-3
ポータルへの認証の設定 7-5
ポータルへの [Data Capture] モジュールの追加 7-9
ポータルのブランド名の定義 7-11
ポータルへの通知の追加 7-11
ポータルへのウェルカム メッセージの追加 7-12
ポータルでの施設詳細の表示 7-13
ポータルへのビデオのアップロード 7-14
ポータルでの [Feedback] セクションの提供 7-15
ポータルへのヘルプ オプションの追加 7-16
ポータルへのアプリケーションの追加 7-17
ポータルからのインターネットへのアクセスの提供 7-18
ポータルへのカスタマイズされたメニュー アイテムの追加 7-19
ポータルへのプロモーションとオファーの追加 7-20
ポータルのエクスポート 7-21
ポータルのスタイル シートの編集 7-22
ポータルの検索 7-23
ポータルのインポート 7-23
ポータルの削除 7-23
ポータルの編集 7-24
ポータル URL の電子メールでの送信 7-24
ポータルの QR コードの表示 7-25
エクスペリエンス ゾーン別のポータルのプレビュー 7-25
さまざまなデバイス上のポータルのプレビュー 7-25
ポータルの管理 7-26
Enterprise Mobility Services Platform Studio URL のキャプティブ ポータル URL としての設定 7-26
WiFi Engage の SMS ゲートウェイの設定 7-28
ポータルへのソーシャル認証 7-29
ソーシャル認証のための CUWN の設定 7-29
ソーシャル認証のためのソーシャル アプリケーションの追加 7-30

ソーシャル認証のためのアプリケーションの設定 7-30
ポータルの認定デバイス リスト 7-32
WiFi Engage キャプティブ ポータルの動作 7-33
iOS 7.x、8.x、9.x 7-33
Android 5.x 以降：CNA 使用 7-34
Android 4.x 以前 7-35
Windows Phone 7-35
Windows PC またはラップトップ 7-35
Macbook 7-36
顧客のための認証手順 7-37
利用規約による認証 7-37
Soft SMS による認証 7-38
Hard SMS with Verification Code による認証 7-38
電子メールによる認証 7-40
ソーシャル認証の認証手順 7-41
Smart Link 7-42

CHAPTER 8 既存のエクスペリエンス ゾーンの管理 8-1
エクスペリエンス ゾーンの表示 8-1
エクスペリエンス ゾーンの編集 8-2
エクスペリエンス ゾーンの削除 8-2
ロケーション要素のエクスペリエンス ゾーンの変更 8-2
ロケーション要素のエクスペリエンス ゾーンの削除 8-3

CHAPTER 9 WiFi Engage 設定の管理 9-1
顧客名の管理 9-1
顧客名の変更 9-1
MSE アカウントの管理 9-2
MSE の名前変更 9-2
MSE の編集 9-2
MSE の削除 9-3
MSE のマップの表示 9-3
MSE のユーザの管理 9-3
キャンパスの管理 9-4
キャンパスの名前変更 9-4
キャンパスの削除 9-4
キャンパスのマップの表示 9-5
キャンパスのユーザの管理 9-5
ビルディングの管理 9-6

ビルディング名の変更 9-6
ビルディングの削除 9-6
ビルディングのマップの表示 9-7
ビルディング内のユーザの管理 9-7
フロアの管理 9-7
フロアの名前変更 9-8
フロアの削除 9-8
フロアのマップの管理 9-8
フロアのユーザの管理 9-10
グループの管理 9-10
グループの名前変更 9-11
グループの編集 9-11
グループの削除 9-11
グループのマップの表示 9-12
グループのユーザの管理 9-12
ゾーンの管理 9-13
ゾーンの名前変更 9-13
ゾーンの削除 9-13
ゾーンのユーザの管理 9-14
アクセス ポイントの管理 9-14
ゾーンへのアクセス ポイントの追加 9-15
ゾーンからのアクセス ポイントの削除 9-15
キャプティブ ポータル ルールの管理 9-15
キャプティブ ポータル ルールの一時停止 9-16
キャプティブ ポータル ルールの再起動 9-16
キャプティブ ポータル ルールの変更 9-16
キャプティブ ポータル ルールの削除 9-17
ロケーション要素のキャプティブ ポータル ルールの表示 9-17
エンゲージメント ルールの管理 9-17
エンゲージメント ルールの一時停止 9-18
エンゲージメント ルールの再起動 9-18
エンゲージメント ルールの変更 9-18
エンゲージメント ルールの削除 9-19
ロケーション要素のエンゲージメント ルールの表示 9-19
プロファイル ルールの管理 9-19
プロファイル ルールの一時停止 9-20
プロファイル ルールの再起動 9-20
プロファイル ルールの変更 9-20
プロファイル ルールの削除 9-21

ロケーション要素のプロファイル ルールの表示 9-21
アプリケーションの管理 9-21
アプリケーションの名前の変更 9-21
アプリケーションの変更 9-22
アプリケーションの削除 9-22
ソーシャル ネットワーク アプリケーションの管理 9-22
Facebook アプリケーションの変更 9-23
Twitter アプリケーションの変更 9-23
LinkedIn アプリケーションの変更 9-23
BLE ビーコンの管理 9-24
ビーコン UUID の削除 9-24
BLE ビーコンの変更 9-25
BLE ビーコンの削除 9-25

CHAPTER 10 レポート 10-1
レポートの表示 10-1
顧客獲得レポート 10-2
ユーザ アクティビティ レポート 10-4
エンゲージメント レポート 10-5

CHAPTER 11 ユーザとアカウントの管理 11-1
WiFi Engage ユーザの管理 11-1
WiFi Engage へのユーザの招待 11-1
ユーザ権限の編集 11-2
WiFi Engage ユーザの削除 11-3
WiFi Engage ユーザの検索 11-3
WiFi Engage アカウントの管理 11-3
WiFi Engage パスワードの変更 11-3
WiFi Engage からのサインアウト 11-4

はじめに

ここでは、『Cisco WiFi Engage with CUWN 設定ガイド』の対象読者と構成、ならびに文書中で使用する略語および表記法について説明します。

- 対象読者、iii ページ
- マニュアルの構成、iv ページ
- 表記法、iv ページ
- 略語の一覧、v ページ

対象読者

このガイドは、Cisco Unified Wireless Network（CUWN）と WiFi Engage を使用してウェブ ポータルを作成するサイト作成者を対象としています。たとえば、ポータルのコンテンツを管理するポータル管理者です。

また、このガイドは、WiFi Engage を使用してプロキシミティ ルールを作成し、顧客やビジネス ユーザに通知を送信する事業および店舗の管理者、または WiFi Engage のユーザ アカウントを管理するアカウント管理者も対象としています。

マニュアルの構成

章番号	章タイトル	説明
第 1 章	はじめに	Cisco WiFi Engage のプロセス フローおよびシステム要件について説明します。
第 2 章	WiFi Engage の機能と前提条件	さまざまな WiFi Engage 機能および WiFi Engage 導入の前提条件について説明します。
第 3 章	WiFi Engage のロケーション階層	CUWN のための WiFi Engage ロケーション階層を定義する方法について説明します。
第 4 章	キャプティブ ポータル ルールの定義	キャプティブ ポータルを設定するために定義するキャプティブ ポータル ルールについて説明します。
第 5 章	通知を送信するエンゲージメント ルールの定義	顧客およびビジネス ユーザに通知を送信するために定義するエンゲージメント ルールについて説明します。
第 6 章	タグを管理するプロファイル ルールの定義	タグの作成または既存タグの修正をするために定義するプロファイル ルールについて説明します。
第 7 章	ポータルの作成と管理	さまざまなポータル モジュールの概要および使用方法について説明します。
第 8 章	既存のエクスペリエンス ゾーンの管理	既存のエクスペリエンス ゾーンを表示および管理する方法について説明します。
第 9 章	WiFi Engage 設定の管理	WiFi Engage のグループ、ロケーション、フロア、アプリケーションなどを管理する方法について説明します。
第 10 章	レポート	WiFi Engage レポートについて説明します。
第 11 章	ユーザとアカウントの管理	WiFi Engage ユーザ、WiFi Engage アカウント、および MSE/CMX アカウントを管理する方法について説明します。

表記法

表記法	説明
太字	コマンド、コマンド オプションおよびキーワードは**太字**で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、*イタリック体*で表記されています。
[オプション] > [オプション]	一連のメニュー オプションを選択するときに使用します。

(注) 「*注釈*」です。役立つ情報や、このドキュメント以外の参照資料などを紹介しています。

略語の一覧

表 i-1　略語の一覧

略語	説明
ACL	Access Control List
BLE	Bluetooth Low Energy
CUWN	Cisco Unified Wireless Network
CNA	Captive Network Assistant
EMSP	Enterprise Mobility Services Platform
RSSI	Received Signal Strength Indication
MSE	Mobility Service Engine
SSID	Service Set Identifier
UUID	Universally Unique Identifier
WLC	Wireless LAN Controller

関連資料

Cisco Enterprise Mobility Services Platform SDK Guide：iOS および Android アプリケーションの EMSP ソフトウェア開発キット（SDK）との統合に関する情報については、このドキュメントを参照してください。EMSP ダッシュボードに関するドキュメントは、EMSP SDK のライセンスがあればアクセスできます。

CHAPTER 1

はじめに

この章では、WiFi Engage の概要、プロセス フロー、ライセンス パッケージ、および WiFi Engage with CUWN のシステム要件について説明します。

- 概要（1-1 ページ）
- プロセス フロー（1-3 ページ）
- WiFi Engage ライセンス パッケージ（1-3 ページ）
- システム要件（1-4 ページ）

概要

Cisco WiFi Engage は、Cisco Enterprise Mobility Services Platform に含まれているアプリケーションの 1 つです。Cisco Enterprise Mobility Services Platform はモバイルアプリケーション プラットフォームであり、これを使用すると、モバイル デバイスでユーザにアプローチできるコンテキスト認識型のサービスをすばやく作成および導入でき、クラウドベースの Enterprise Mobility Services Platform は、既存のシスコ モバイル ネットワーク インフラストラクチャとより安全に統合できます。また、位置情報、ユーザ プロファイルの情報などのコンテキスト認識型データを使用してパーソナライズされたサービスを提供し、モバイル デバイスのユーザにアプローチできます。

このプラットフォームには、Cisco Meraki クラウド コントローラ、Cisco Connected Mobile Experience、および Cisco Wireless LAN コントローラとのインターフェイスを提供するアダプタが含まれています。そのため、既存のモバイル ネットワーク インフラストラクチャとより安全に統合できます。

WiFi Engage は、ロケーション固有のキャプティブ ポータルを作成し、WiFi ネットワークに接続しているユーザにロケーション固有のエクスペリエンスを提供することができる Wi-Fi ソリューションです。このアプリケーションはまた、ビジネス構内の顧客を検出し、エンゲージメント ルールを使用して顧客に通知を送信できるようにするビーコン機能も顧客に提供します。企業は、訪問者や顧客のモバイル デバイスに個人向けのコンテンツをプッシュして、顧客エンゲージメントや収益の新たな機会を創出できます。

WiFi Engage の主な機能は次のとおりです。

- ルールに基づくキャプティブ ポータルの表示（1-2 ページ）
- 通知を送信する WiFi ビーコンとしての機能（1-2 ページ）

ルールに基づくキャプティブ ポータルの表示

キャプティブ ポータルとは、特定のロケーションから固有の Wi-Fi ネットワーク ID（SSID）で Wi-Fi にアクセスするユーザに表示されるポータルのことです。

キャプティブ ポータルの顧客は、空港、ショッピング モール、ホテルなどの公共の Wi-Fi ネットワークから Wi-Fi やモバイル デバイス経由でインターネットに接続するインターネット ユーザです。

WiFi Engage を使用すると、SSID のさまざまなロケーションおよび期間に対してキャプティブ ポータルを定義するキャプティブ ポータル ルールを作成することができます。ロケーション、顧客の訪問回数、顧客の種類、顧客のアプリケーション ステータスなどに基づいてキャプティブ ポータルを表示するように設定することができます。このポータルは、訪問者が Wi-Fi 経由でインターネットにアクセスするためのゲートウェイとしても動作します。

通知を送信する WiFi ビーコンとしての機能

WiFi Engage は Wi-Fi ベースのビーコンとしても機能し、Wi-Fi 対応デバイスを持つ顧客が構内および付近にいるときに、顧客に対して適切な情報を送信することができます。ビーコン機能を使用すると、個々の顧客に異なるプロモーションおよびオファーを提供することができます。顧客が使用可能なオファーやメンバーシップの詳細について顧客に通知することができます。また、特定の店舗でのみオファーを提供するように設定することもできます。

エンゲージメント ルールを使用して通知を送信するように設定できます。WiFi Engage を使用すると、顧客が Wi-Fi に接続したときか、顧客がビーコン構内にいるときに通知を送信することができます。

WiFi Engage は、次の方法で通知を送信できます。

- SMS
- 電子メール
- アプリケーションを使用したプッシュ通知
- 外部アプリケーションを使用した API 通知

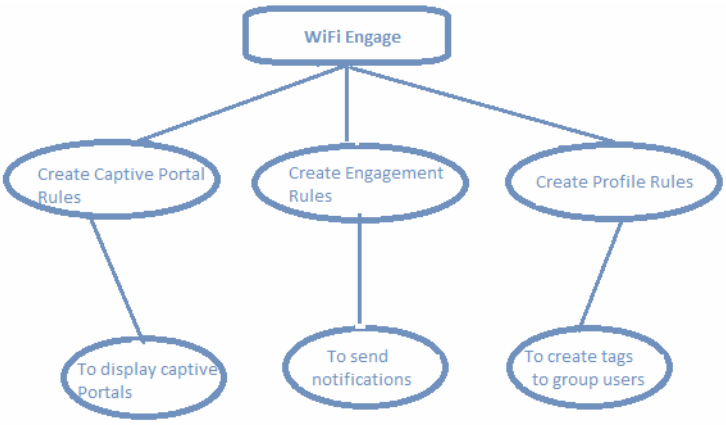
このドキュメントでは、CUWN で WiFi Engage を使用する方法について説明します。

プロキシミティ ルール

WiFi Engage では、次の 3 種類のプロキシミティ ルールを作成できます。

- **キャプティブポータル ルール**：特定の時間に特定のロケーションから特定の SSID に接続している顧客に対して表示するキャプティブ ポータルを設定します。
- **エンゲージメントルール**：顧客がビジネス構内にいるときに顧客またはビジネス ユーザに対して通知を送信します。
- **プロファイルルール**：顧客のグループ化に使用されるタグを作成します。このルールを使用すると、既存のタグに追加の顧客を追加したり、既存のタグから特定の顧客を削除することもできます。

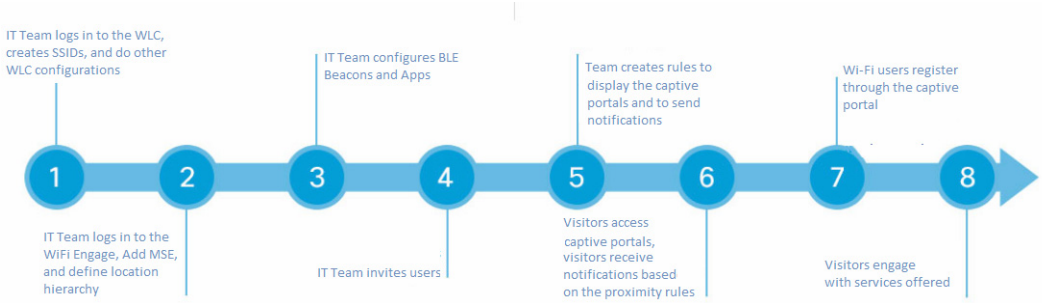
図 1-1　WiFi Engage のプロキシミティ ルール



プロセス フロー

図 1-2は、WiFi Engage のプロセス フローを示しています。

図 1-2　WiFi Engage のプロセス フロー



WiFi Engage ライセンス パッケージ

WiFi Engage は、Base、Advance、および Enterprise の 3 つのライセンス パッケージで使用できます。アカウントで使用できる機能は、所有する WiFi Engage ライセンス パッケージのタイプによって異なります。

システム要件

Cisco WiFi Engage をインストールする前に、以下のシステム要件がすべて満たされていることを確認してください。

表 1-1　システム要件

項目	サポート要件
オペレーティング システム	• Microsoft® Windows® XP 以降 • Mac OS X 10.6 以降
ブラウザ	Windows OS • Internet Explorer バージョン 9 以降 • Firefox バージョン 30 以降 • Chrome バージョン 34 以降 • Safari バージョン 5.1.7 以降 Mac OS • Firefox バージョン 30 以降 • Chrome バージョン 34 以降 • Safari バージョン 5.1.7 以降
WLC（CUWN）	8.0 以降
CMX/MSE	8.0 以降

CHAPTER 2

WiFi Engage の機能と前提条件

この章では、WiFi Engage のさまざまな機能について説明します。この章ではまた、WiFi Engage のアイコンと、WiFi Engage を展開するための前提条件も説明します。

- WiFi Engage 機能（2-1 ページ）
- WiFi Engage のアイコン（2-3 ページ）
- Enterprise Mobility Services Platform 導入の前提条件（2-3 ページ）

WiFi Engage 機能

WiFi Engage を使用すると、次のことが実行できます。

- Wi-Fi または BLE ビーコン ネットワークでアプリケーションの有無にかかわらず自動的にすべてのスマートフォン ユーザを検出し、関与する。
- Wi-Fi に接続するユーザに表示されるキャプティブ ポータルを作成する。
- ロケーション、時間、およびユーザ フィルタを持つキャプティブ ポータル ルールを使用して、同じ SSID に接続している一連の顧客に対して異なるキャプティブ ポータルを表示する。
- ロケーション、時間、およびユーザ フィルタを持つエンゲージメント ルールを使用して、通知によって、必要な一連の顧客およびビジネス ユーザに関与する。
- 強力なプロファイル ルールを使用して顧客のタグを作成する。
- 顧客レベルのロイヤルティ プログラムおよびオファーを提供する。
- 構内の顧客の統計情報に基づく即時のオファーおよびプログラムを導入する。
- 特定のカテゴリの顧客にのみ通知を送信する。
- 顧客エンゲージメントとキャプティブ ポータルの使用状況を分析するレポートを生成する。
- ロケーション、フロア、ゾーンなどの特定のロケーション要素に対してキャプティブ ポータル、プロキシミティ ルール、およびユーザを作成する。
- WiFi Engage から複数の MSE に同時に接続する。
- 既存のエクスペリエンス ゾーンを管理する。

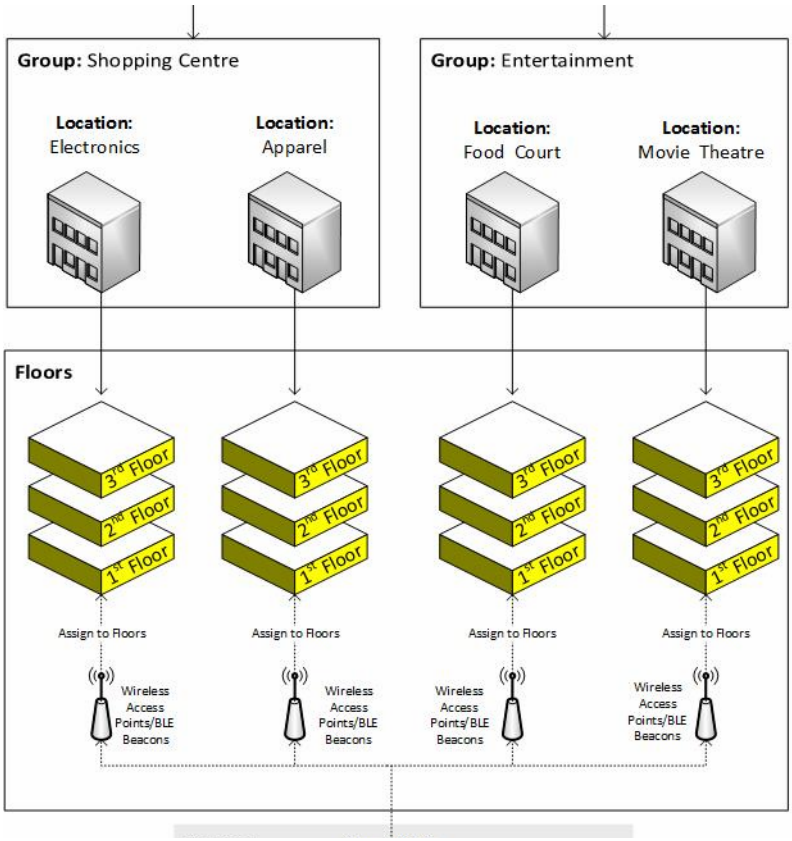
ABC ショッピング モールでは、無料の Wi-Fi を利用するために、顧客はモールに入ってから SSID に接続する必要があります。ABC は、顧客の購入履歴や訪問頻度に基づき、Wi-Fi に接続する各顧客にパーソナライズされたエクスペリエンスを提供したいと考えました。WiFi Engage をインストールすることで、ABC はキャプティブ ポータルを介して Wi-Fi ユーザの詳細を収集し、この詳細を利用して、利用可能なオファーやサービスに関する通知を顧客に送信することが可能になりました。Wi-Fi に一度接続された顧客はキャプティブ ポータルに誘導され、ここで、名

前、電子メール アドレス、電話番号などの詳細を入力して登録するオプションが示されます。キャプチャされたこの情報は、WiFi Engage に保存されます。顧客がモールを再訪問すると、プッシュ通知、SMS、電子メールを通じて顧客にプロモーション オファーが送信されます。

WiFi Engage はまた、顧客のアクティビティについて、従業員などのビジネス ユーザに通知するように設定することもできます。たとえば、WiFi Engage ダッシュボードでリピート顧客をプラチナ メンバーとして特定し、タグ付けすることができます。プラチナ顧客がレストランに入り、顧客のデバイスがワイヤレス アクセス ポイントまたは BLE ビーコンによって検出されると、レストランの担当者がデバイスでアラートを受信します。これによって、顧客にパーソナライズされたサービスを提供することができます。

図 2-1 は、WiFi Engage をロケーションに展開する方法について図で示しています。

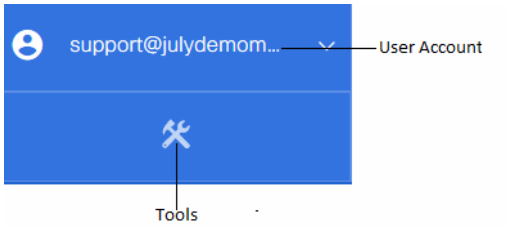
図 2-1　WiFi Engage 導入モデル



WiFi Engage のアイコン

WiFi Engage のアイコンを図 2-2 に示します。

図 2-2　WiFi Engage のアイコン



- [User Account]アイコン：WiFi Engage ダッシュボードからログアウトしたり、WiFi Engage アカウントにアクセスするパスワードを変更したりできます。
- [Tools]アイコン：SMS ゲートウェイ、ソーシャル アプリケーション、カスタマイズされたアプリケーションを設定できます。また、BLE ビーコンの BLE UUID を追加することもできます。

Enterprise Mobility Services Platform 導入の前提条件

このセクションでは、Enterprise Mobility Services Platform を導入するためのポート設定および帯域幅要件について説明します。

ポートと IP アドレス

WiFi Engage はクラウドベース ソリューションであり、物理的な設置は必要ありません。ただし、特定のインスタンスがあり、そこで WiFi Engage が CUWN（MSE）と相互に通信する必要があります。この接続は、パブリック IP または VPN により確立することができます。また、特定の Enterprise Mobility Services Platform IP アドレスのホワイトリスト登録が必要な場合があります。

CUWN は、Enterprise Mobility Services Platform の顧客が MSE への接続を確立する次のシナリオのため、パブリックでアクセスできるにする必要があります（デフォルト CUWN インストールの場合、ポート 80 および 443 を開く必要があります）。

- MSE/CMX への接続
- ロケーションおよびアクセス ポイントのインポート
- MSE マップの表示
- プロキシミティ ルールのパブリッシュ
- レポートの生成
- ロケーションベースの Enterprise Mobility Services Platform モジュールの使用（Micello WayFinder、Context Aware Container など）。

ホワイトリストに登録する Enterprise Mobility Services Platform IP アドレス

Enterprise Mobility Services Platform と CUWN 間の接続を確立するには、特定の Enterprise Mobility Services Platform IP アドレスをホワイトリストに登録する必要があります。ホワイトリストに登録する IP アドレスを表示するには、WiFi Engage ダッシュボードの [SSIDs] ウィンドウで [Configuration Instructions] リンクをクリックします。

(注)　VPN 接続の確立についてはシスコにお問い合わせください。

(注)　Enterprise Mobility Services Platform に接続するためにパブリックで解決可能なドメイン名が存在している必要はありません。

特定のドメインは顧客のインフラストラクチャでホワイトリストに登録する必要があります。顧客のネットワーク内に展開された MSE インスタンスが Enterprise Mobility Services Platform 分析および通知サーバと通信できる必要があるためです。ホワイトリストに登録するドメインを確認するには、WiFi Engage で、[SSIDs] ウィンドウの [Configuration Instructions] リンクをクリックします。

WiFi Engage を導入するための帯域幅要件

次の表に、さまざまな帯域幅で受信される応答、およびユーザ数を示します。

表 2-1　帯域幅の応答

帯域幅	ユーザ数	応答(秒)
1 Mbps	1	9.2
	2	10.41
	3	12.18
	4	13.5
	5	16.56
	6	17.84
2 Mbps	1	9.06
	2	9.15
	3	10.48
	4	11.28
	5	12.06
	6	12.34
	7	13.5
	8	15.5
	9	15.7
	10	16.85
	11	17.7

表 2-1　帯域幅の応答（続き）

帯域幅	ユーザ数	応答（秒）
5 Mbps	5	9.34
	10	11.56
	11	11.92
	12	11.51
	13	12.5
	14	12
	15	13.82
	16	13.18
	17	14.91
	18	16.72
	19	15.96
	20	16.98
	21	17.41
7 Mbps	25	13.93
	30	15.41
	31	15.21
	32	15.64
	33	16.31
	34	18.92
9 Mbps	30	10.56
	35	12.11
	40	14.79
	41	14.7
	42	13.27
	43	13.93
	44	15.68
	45	16.81
	46	16.13
	47	19.25

表 2-1　帯域幅の応答（続き）

帯域幅	ユーザ数	応答（秒）
11 Mbps	35	9.57
	40	10.07
	50	11.85
	55	13.51
	56	13.96
	57	14.67
	58	15.86
	59	16.36
	60	16.08
	61	17.11

WiFi Engage のロケーション階層

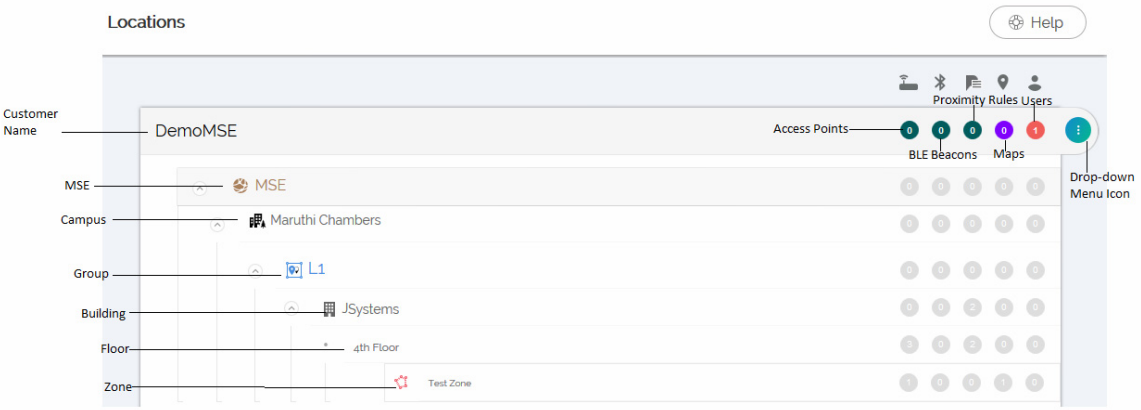
この章では、WiFi Engage のロケーション階層の構造と、WiFi Engage でロケーション階層を定義する方法について説明します。

WiFi Engage ロケーション階層

WiFi Engage の各顧客にはデフォルトの顧客名が提供され、この顧客名は WiFi Engage ロケーション階層の最上位の要素として機能します。この顧客名の下のロケーション階層には、MSE を追加できます。その後、MSE キャンパスをインポートできます。MSE キャンパスをインポートすると、そのビルディングおよびフロアもインポートされます。アクセス ポイントをグループ化すると、ビルディングまたはフロア レベルでゾーンを作成できます。ロケーション要素は、顧客名、MSE、またはキャンパス レベルでグループ化できます。顧客名を変更することもできます。

WiFi Engage のロケーション階層を図 3-1に示します。

図 3-1　　ロケーション階層



キャプティブ ポータル ルール、エンゲージメント ルール、プロファイル ルールなどのプロキシミティ ルールを作成し、顧客名、MSE、グループ、キャンパス、ビルディング、フロア、またはゾーン レベルでアクセス ポイント、BLE ビーコン、マップ、およびユーザを表示できます。ロケーション階層の各要素のアクセス ポイント、BLE ビーコン、プロキシミティ ルール、マップ、およびユーザの数は、その特定の要素に対して表示されます。たとえば、あるグループのプロキシミティ ルール、マップ、およびユーザの数は、ロケーション階層のそのグループに対して表示されます。

(注)　既存のエクスペリエンス ゾーンがある WiFi Engage アカウントでは、ロケーション階層から各ロケーション要素のエクスペリエンス ゾーンの表示および編集を行うことができます。

- ロケーション階層の定義（3-2 ページ）
- ゾーンの作成とアクセス ポイントの追加（3-4 ページ）
- グループの作成（3-5 ページ）
- キャンパスへのビルディングの追加（3-6 ページ）
- ビルディングへのフロアの追加（3-6 ページ）
- ロケーションの検索（3-6 ページ）
- アクセス ポイントの検索（3-7 ページ）
- ロケーション要素のメタデータの定義（3-7 ページ）
- ロケーションのタイム ゾーンの定義または変更（3-8 ページ）
- MSE の詳細の手動アップロードによるロケーション階層の作成（3-8 ページ）

ロケーション階層の定義

組織のロケーション階層を作成するには、次の手順を実行します。

1. WiFi Engage へのアクセス（3-2 ページ）
2. MSE アカウントの追加（3-3 ページ）
3. MSE へのキャンパスの追加（3-3 ページ）

WiFi Engage へのアクセス

シスコは、WiFi Engage の各顧客にユーザ資格情報を提供しています。

WiFi Engage にアクセスするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　emsp.cisco.com にアクセスします。

ステップ 2　[Sign in] ウィンドウで、Enterprise Mobility Services Platform アカウントに提供されたユーザ クレデンシャルを入力し、矢印ボタンをクリックしてサインインします。

ステップ 3　[WiFi Engage]アイコンをクリックします。

ステップ 4　[Select Customer] ドロップダウン リストから、CUWN に対応する顧客名を選択し、[Proceed]をクリックします。

WiFi Engage ダッシュボードが表示されます。

MSE アカウントの追加

WiFi Engage でロケーション階層を作成するには、ロケーション階層にロケーション要素をインポートする MSE アカウントを最初に追加する必要があります。MSE を追加すると、WiFi Engage は自動的にその MSE に接続されます。WiFi Engage では、ロケーション階層に複数の MSE を追加できるため、複数の MSE に同時に接続することができます。

MSE を追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]をクリックします。

ステップ 2　[Locations] ページで、顧客名の右端のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Add MSE] をクリックします。

ステップ 4　表示される [Add MSE] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a. [Display Name] テキスト フィールドに、ロケーション階層の MSE に対して表示する名前を入力します。

b. [URL] テキスト フィールドに、ロケーション階層に追加する MSE アカウントの URL を入力します。

c. [User Name] フィールドに、MSE アカウントに接続するためのユーザ名を入力します。

d. [Password] フィールドに、MSE アカウントに接続するためのパスワードを入力します。

e. [Add]をクリックします。

MSE が顧客名の下のロケーション階層に表示されます。

（注）　WiFi Engage では、同じアクセス ポイントを使用する 2 つの MSE を追加することはできません。

（注）　MSE は、顧客名、または顧客名を含むグループの下に追加できます。つまり、顧客名を含むロケーション要素全部を使用してグループを作成している場合、そのグループには MSE を追加できます。

MSE へのキャンパスの追加

WiFi Engage では、MSE のロケーション階層に従ってキャンパス、ビルディング、およびフロアの構造を維持することができます。MSE をロケーション階層に追加すると、MSE のキャンパスと、関連付けられたビルディングおよびフロアをインポートすることができます。

キャンパスと、関連付けられたビルディングおよびフロアをロケーション階層にインポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]をクリックします。

ステップ 2　[Locations] ページで、キャンパスを追加する MSE の右端のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Add Campus] をクリックします。

ステップ 4　表示される [Add Campus] ウィンドウで、ロケーション階層に追加するキャンパスを選択します。

[Add Campus] ウィンドウに、その MSE アカウントで使用可能なすべてのキャンパスが表示されます。キャンパスを選択すると、そのビルディングおよびフロアがキャンパスの右側に表示されます。

注　ロケーション階層にキャンパスの特定のビルディングまたはフロアを追加したくない場合は、該当するチェックボックスをオフにすることで削除することができます。必要に応じて、後でいつでもロケーション階層に追加することができます。キャンパスにビルディングを追加する方法の詳細については、キャンパスへのビルディングの追加（3-6 ページ）を参照してください。ビルディングにフロアを追加する方法の詳細については、ビルディングへのフロアの追加（3-6 ページ）を参照してください。

ステップ 5　[Add]をクリックします。

追加されたキャンパスは、関連付けられたビルディングおよびフロアとともにロケーション階層にリストされます。

（注）　CUWN で、キャンパスの下に重複するビルディング名がないことを確認します。

ゾーンの作成とアクセス ポイントの追加

ゾーンを使用して、ビルディングまたはフロアのアクセス ポイントをグループ化することができます。ゾーンは、ビルディングまたはフロア レベルで作成できます。

（注）　フロアのアクセス ポイントを変更することはできません。

ロケーションまたはフロアに対してゾーンを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ステップ 2　[Locations] ページで、ゾーンを作成するロケーションまたはフロアの右端のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　表示される [Add Zone] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a.　[Enter Zone Name Here] テキスト フィールドに、ゾーンの名前を入力します。

b.　[Select Access Points] 領域で、ゾーンに追加するアクセス ポイントのチェックボックスをオンにします。

c.　[Add]をクリックします。

（注）　ビルディングまたはフロアのアクセス ポイントをゾーンに追加すると、そのアクセス ポイントはそのビルディングまたはフロアでは使用できなくなります。ゾーンに追加されたアクセス ポイントは、別のゾーンでは使用できません。

グループの作成

ロケーション階層の MSE またはキャンパスはグループ化できます。顧客名レベルでグループを作成することもできます。また、これらのグループの下にサブグループを作成することもできます。たとえば、あるグループの下で Campus 1 と Campus 2 をグループ化し、別のグループの下で Campus 3 と Campus 4 をグループ化することができます。

グループ化を使用すると、そのグループに固有のプロキシミティ ルールを作成することができます。

ロケーション要素に対してグループを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]をクリックします。

ステップ 2　[Locations] ページで、グループを追加する顧客名、MSE、またはキャンパスの右端のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Add Group] をクリックします。

ステップ 4　表示されるウィンドウで、次の手順を実行します。

a. グループの名前を入力します。

b. このグループの下に追加するロケーション要素を選択します。

注　選択可能なロケーション要素は、ロケーション階層においてグループを追加する場所によって異なります。たとえば、顧客名の下にグループを追加する場合、すべての MSE を選択することができます。同様に、MSE の下にグループを追加する場合、キャンパスを選択することができます。

c. [Create]をクリックします。

ヒント　ロケーション要素のない親グループと、ロケーション要素（MSE、キャンパスなど）を含むサブグループが必要な場合は、まず、サブグループの一部になる必要がある必要なロケーション要素すべてを含む親グループを作成します。それから親グループの下にサブグループを作成します。親グループに追加されたロケーション要素を選択することができます。サブグループの下に追加するロケーション要素を選択します。同様に、親グループの下にさらにサブグループを作成することができます。

（注）　グループへのロケーション要素の追加はいつでも可能です。MSE/CMX で定義されているロケーション要素のみ追加できます。

（注）　アクセス ポイントをインポートするには、MSE がパブsリック アクセス可能である必要があります。デフォルトの CUWN のインストールでは、ポート 80 および 443 が開いている必要があります。詳細については、「ポートと IP アドレス」セクション（2-3 ページ）を参照してください。

キャンパスへのビルディングの追加

ビルディングをキャンパスに追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]をクリックします。

ステップ 2　[Locations] ページで、ビルディングを追加するキャンパスの右端のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Add Building] をクリックします。

ステップ 4　表示される [Add Building] ウィンドウで、キャンパスに追加するビルディングを選択します。

ステップ 5　[Add]をクリックします。

ビルディングがロケーション階層のキャンパスの下にリストされます。

ビルディングへのフロアの追加

フロアをビルディングに追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]をクリックします。

ステップ 2　[Locations] ページで、フロアを追加するビルディングの右端のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Add Floor]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Add Floor] ウィンドウで、ビルディングに追加するフロアを選択します。

ステップ 5　[Add]をクリックします。

フロアがフロアの下に表示されます。

ロケーションの検索

ロケーション ページで名前を使用してロケーションを検索できます。ロケーション階層のロケーションを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション ウィンドウが表示されます。

ステップ 2　[Search] テキスト フィールドに、検索するロケーションの名前を入力します。

ロケーションがロケーション階層で強調表示されます。

アクセス ポイントの検索

名前または MAC アドレスを使用してアクセス ポイントを検索できます。

ロケーション階層のアクセス ポイントを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

[Locations] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2　[Search] テキスト フィールドに、検索するアクセス ポイントの名前または MAC アドレスを入力します。

アクセス ポイントが強調表示されます。

ロケーション要素のメタデータの定義

WiFi Engage では、変数を使用してロケーション要素のメタデータを定義することができます。メタデータはロケーション階層のどのレベルでも定義できます。プロキシミティ ルールを作成するときにロケーションをフィルタリングするためにこのメタデータを使用することができます。たとえば、ロケーションを Corporate Branch、Division Branch、Local Branch として分類する場合、キーとして Branch、値としてそれぞれ CB、DB、および LB を使用するロケーション メタデータを定義することができます。それから、プロキシミティ ルールを作成するときにロケーションをフィルタリングするためにこのメタデータを使用することができます。

ロケーション要素に対してメタデータを定義するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]をクリックします。

ステップ 2　[Locations] ページで、ロケーション メタデータを追加するロケーション要素（MSE、キャンパス、ロケーションなど）の右端のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Add Metadata] をクリックします。

ステップ 4　表示される [Add Metadata] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a.　[Add Metadata] ボタンをクリックします。

b.　[Key] テキスト フィールドに、変数キーの名前を入力します。

c.　[Value] テキスト フィールドに、変数キーの値を入力します。

d.　[Save]をクリックします。

（注）　そのメタデータの [Delete] ボタンをクリックすると、ロケーション メタデータを削除できます。

ロケーションのタイム ゾーンの定義または変更

ロケーション階層のさまざまなロケーションにタイム ゾーンを定義できます。ロケーションのタイム ゾーンを定義するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、タイム ゾーンを定義するロケーションのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 2　[Time Zone]をクリックします。

[Change TimeZone] ウィンドウが表示されます。[Current Time Zone] フィールドに、ロケーションに設定されたタイム ゾーンが表示されます。タイム ゾーンがまだ定義されていないロケーションでは、[Current Time Zone] フィールドに [No Time Zone]が表示されます。

ステップ 3　[Time Zone] ドロップダウン リストから、このロケーションに設定するタイム ゾーンを選択します。

ステップ 4　[Change]をクリックします。

タイム ゾーンがロケーションに定義されます。

（注）　ロケーションでは設定されたタイム ゾーンに基づいて通知が送信されます。

MSE の詳細の手動アップロードによるロケーション階層の作成

パブリック アクセス不可能な MSE のロケーション階層を使用する場合、MSE のロケーション階層の詳細を含む JSON ファイルをアップロードすることにより、WiFi Engage にロケーション階層をインポートすることができます。

JSON ファイルを使用して作成されたロケーション階層の場合、ロケーション、フロアなどのロケーション要素は名前変更と削除を行うことができますが、ロケーション要素を編集することはできません。ロケーション階層にはグループとゾーンを作成できます。

（注）　この方法には多くの制限があるため、このオプションは、WiFi Engage ダッシュボードから MSE に接続できない場合にのみ使用することを推奨します。

JSON ファイルを使用して MSE のロケーション階層を作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]をクリックします。

ステップ 2　[Locations] ページで、顧客名の右端のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Add MSE] をクリックします。

ステップ 4　表示される [Add MSE] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a.　モードを右に切り替え、[Upload JSON File] 領域を表示します。

b.　[Display Name] テキスト フィールドに、ロケーション階層の MSE に対して表示する名前を入力します。

c.　[Browse]ボタンを使用して、アップロードする JSON ファイルを選択します。

d. [Upload]をクリックします。

JSON ファイルがアップロードされ、WiFi Engage ダッシュボードの MSE に対してロケーション階層が作成されます。

(注) MSE の JSON ファイルをアップロードしてロケーション階層を作成すると、その MSE の JSON ファイルを再インポートしてロケーション階層を更新することはできません。

CHAPTER 4

キャプティブ ポータル ルールの定義

キャプティブ ポータル ルールにより、キャプティブ ポータルの表示および SSID に接続している顧客のインターネット プロビジョニングを管理できます。

キャプティブ ポータル ルールを使用して、次の方法で、キャプティブ ポータルの表示およびインターネット プロビジョニングを管理できます。

- キャプティブ ポータルの表示:ルールに応じてフィルタリングされた顧客が、ルールに応じて設定された SSID に接続すると、キャプティブ ポータルが表示されます。顧客は必要な認証の手順が完了すると、ポータルのメニュー項目をクリックして、インターネットにアクセスできます。顧客のロケーション、アクセス数、顧客が属するタグ、ユーザのロケーションへのアクセス数、アクセスの時間などに基づき、顧客に合ったさまざまなキャプティブ ポータルを表示するように設定できます。
- 直接インターネット アクセス:ルールに応じてフィルタリングされた顧客が、ルールに応じて設定された SSID に接続すると、認証プロセスなしで、インターネットが即座にプロビジョニングされます。この場合、キャプティブ ポータルは表示されません。
- インターネット アクセスの拒否:ルールに応じてフィルタリングされた顧客が SSID に接続しようとすると、インターネットが拒否されて接続を確立できません。

また、キャプティブ ポータル ルールにより、次の操作を行うことができます。

- ルールのフィルタリングに基づいて、タグを作成または既存のタグを変更します。
- 外部 API へのキャプティブ ポータルにサインインする顧客の詳細を送信します。

キャプティブ ポータル ルールでは、定義された条件が満たされているときに実行するアクションを設定できます。ロケーション、タグ、顧客のアクセスの数や時間、アプリケーションのステータスなど、さまざまなパラメータに基づいて、ルールに応じて顧客をフィルタリングできます。

この章では、キャプティブ ポータル ルールを作成する方法について説明します。

キャプティブ ポータル ルールの作成

キャプティブ ポータル ルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクセス ポイントのモードの設定、ワイヤレス LAN コントローラ(WLC)での SSID および ACL の作成(4-2 ページ)
2. インターネット プロビジョニングおよび RADIUS 認証に関する CUWN の設定(4-2 ページ)
3. WiFi Engage へのアクセス(3-2 ページ)
4. 手動での SSID のインポート(4-3 ページ)
5. ロケーション階層の定義(3-2 ページ)

6. ポータルの作成（4-4 ページ）
7. タグの作成（4-5 ページ）
8. キャプティブ ポータル ルールの定義（4-5 ページ）

（注）　キャプティブ ポータルを設定するには、CUWN アカウント（MSE/CMX と WLC）および WiFi Engage アカウントが必要です。CUWN プロパティは、ワイヤレス LAN コントローラ（WLC）で設定されます。

アクセス ポイントのモードの設定、ワイヤレス LAN コントローラ（WLC）での SSID および ACL の作成

キャプティブ ポータル ルールを作成するには、まずアクセス ポイントのモードを定義し、ワイヤレス LAN コントローラで SSID と ACL を作成します。キャプティブ ポータルの設定に必要な WLC の設定の詳細については、「ワイヤレス LAN コントローラの設定」セクション（4-11 ページ）を参照してください。

インターネット プロビジョニングおよび RADIUS 認証に関する CUWN の設定

ポータルにセキュリティのその他の層を提供するために、WiFi Engage はキャプティブ ポータルのインターネット プロビジョニングに対する RADIUS 認証をサポートします。また、インターネット プロビジョニングを管理するには、CUWN に特定の設定が必要です。キャプティブ ポータル ルールを使用するには、CUWN で次の設定を行う必要があります。

ステップ 1　WLC のクレデンシャルで WLC にログインします。

ステップ 2　WLC のメイン ウィンドウで、[Security]タブをクリックします。

ステップ 3　[Radius] > [Authentication]の順に選択します。

ステップ 4　[New]をクリックします。

ステップ 5　表示された [New] ページで、サーバの IP アドレス、ポート番号、秘密鍵などの認証用の RADIUS サーバの詳細を入力し、[Server Status] に [Enabled]を選択し、[Apply] をクリックします。

- Port Number：1812

注　WiFi Engage の RADIUS サーバだけを設定できます。RADIUS サーバの IP アドレスと秘密鍵については、Cisco EMSP のサポート チームに連絡する必要があります。

ステップ 6　[Radius] > [Accounting]の順に選択します

ステップ 7　[New]をクリックします。

ステップ 8　表示された [New] ページで、サーバの IP アドレス、ポート番号、秘密鍵などのアカウンティング用の RADIUS サーバの詳細を入力し、[Server Status] に [Enabled]を選択し、[Apply] をクリックします。

- Port Number: 1813

注　WiFi Engage の RADIUS サーバだけを設定できます。RADIUS サーバの IP アドレスと秘密鍵については、Cisco EMSP のサポート チームに連絡する必要があります。

ステップ 9　WLC のメイン ウィンドウで、[WLANs]タブをクリックします。

ステップ 10　キャプティブ ポータル ルールの SSID の WLAN をクリックします。

ステップ 11　[Security]を選択します。

ステップ 12　[Layer 2] タブで、[MAC Filtering]チェックボックスをオンにします。

ステップ 13　[Layer 3] タブで、次が設定されていることを確認します。

- [Layer 3 security] ドロップダウン リストで、[Web Policy]と [Mac Filter Failure] ラジオ ボタンが選択されています。

（注）　SSID を作成するときに、[Layer 3] でこれらの設定が実行されます。

ステップ 14　[AAA Servers] タブの、[Radius Servers] 領域で、次の手順を実行します。

a. [Authentication Servers] の [Enabled]チェックボックスをオンにします。

b. [Server 1] ドロップダウン リストで、先に定義した RADIUS サーバを選択します。

ステップ 15　[web-auth user] 領域の認証の優先順位に、[Order Used for Authentication] ボックスで、[Radius]を順序の先頭に設定します。

注　[Up] および [Down] ボタンを使用し、順序を並び替えます。

ステップ 16　[Advanced]タブをクリックし、[Allow AAA Override] の [Enabled] チェックボックスをオンにします。

ステップ 17　[Apply]をクリックします。

ステップ 18　ウォールガーデンが ACL に応じて設定されていることを確認します。ウォールガーデンの設定の詳細については、「ワイヤレス LAN コントローラの設定」セクション（4-11 ページ）を参照してください。

WiFi Engage へのアクセス

WiFi Engage へアクセスする手順については、「WiFi Engage へのアクセス」セクション（3-2 ページ）で説明しています。

手動での SSID のインポート

SSID とは、Wi-Fi 経由でインターネットにアクセスするために接続するネットワーク ID のことです。CUWN の SSID のキャプティブ ポータル ルールを作成するには、ワイヤレス LAN コントローラ（WLC）からその SSID を手動でインポートする必要があります。

(注)　CUWN では、SSID を WiFi Engage に手動でインポートする必要があります。WiFi Engage で指定した SSID 名は、WLC で設定されている SSID 名と一致する必要があります。WLC の SSID 名を表示できます。WiFi Engage に SSID を追加するには、最初にワイヤレス LAN コントローラ（WLC）でその SSID を定義する必要があります。WLC で SSID を作成する方法については、「ワイヤレス LAN コントローラの設定」セクション（4-11 ページ）を参照してください。

(注)　SSID は MSE/CMX ではなく WLC で設定されます。

SSID を WiFi Engage に手動でインポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで [SSIDs]を選択し、[Import] をクリックします。

ステップ 2　[Please Select SSID To Import] ウィンドウで、インポートする必要のある SSID の名前を入力し、[Add SSID]をクリックします。

インポートされた SSID が [SSIDs] ウィンドウに表示されます。

(注)　インポートされた SSID をロードするときには WiFi Engage を CUWN と同期させる必要があるので、ウィンドウを更新してインポートされた SSID を表示することが必要な場合があります。

ロケーション階層の定義

ルールのロケーションを選択するには、ロケーション階層を定義する必要があります。ロケーション階層を定義する手順については、「ロケーション階層の定義」セクション（3-2 ページ）で説明しています。

ポータルの作成

ポータルは、Wi-Fi ユーザが SSID に接続したときに表示されるユーザ インターフェイスです。キャプティブ ポータルを作成し、WiFi Engage から提供されるさまざまなポータル モジュールを使用して、ポータルを強化できます。

ポータルを定義するときに、ポータルを利用可能にする必要があるロケーションを設定することもできます。

(注)　この手順はキャプティブ ポータル ルールのポータルを設定するときにのみ必要です。

ポータルを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Portal]を選択し、[Create New] をクリックします。

ステップ 2　表示される [Portal] ウィンドウで、ポータルの名前を [Name]フィールドに入力します。

ステップ 3　すべてのロケーションでポータルを利用可能にする場合は、[This portal will be available in all locations] チェックボックスをオンにします。それ以外の場合は、ポータルを利用可能にする必要があるロケーションを選択します。

ステップ 4　[Create]をクリックします。

ポータル ページでは、左側にポータル モジュールが、右側にポータル プレビューが表示されます。

ステップ 5　ポータル モジュールを使用してポータルに機能を追加します。

（注）　名前や電話番号などの顧客の詳細をキャプチャするには、キャプティブ ポータルに [Data Capture] モジュールを追加します。インターネットをプロビジョニングする前に、データ キャプチャ フォームが顧客に表示されます。キャプチャされた顧客の詳細は、WiFi Engage データベースに保存されます。[Data Capture] モジュールは、Hard SMS with Verification Code および Email 認証タイプで使用できます。

ステップ 6　[Save]をクリックして、各モジュールに加えた変更を保存します。

ステップ 7　ポータルをパブリッシュするには、[Portal] ウィンドウで、ポータルの [Publish]ボタンをクリックします。

タグの作成

キャプティブ ポータル ルールでタグ フィルタを使用するには、タグを作成する必要があります。タグを定義する手順は、「プロファイル ルールを使用したタグの作成または既存のタグへの顧客の追加または除外」セクション（6-1 ページ）で定義されています。

（注）　この手順はキャプティブ ポータル ルールでタグ フィルタを使用するときにのみ必要です。

キャプティブ ポータル ルールの定義

CUWN 設定、ロケーション階層などの前提条件を満たした後、キャプティブ ポータル ルールを定義できます。前提条件は、ルールで使用するフィルタによって異なります。

顧客のロケーション、顧客がオプトイン ユーザかどうか、顧客が属するタグ、顧客のアクセス回数、顧客のデバイスのアプリケーションの状態などに基づいて、ルールを適用する顧客をフィルタリングできます。ロケーションまたはそのロケーションに関連付けられているメタデータに基づいて、ルールが適用されるロケーションをフィルタリングできます。指定された時間内に指定したロケーションへの顧客によるアクセス回数に基づき、ルールを適用できます。また、特定の期間だけ、特定の曜日だけ、および特定の時間だけ、ルールを適用するように設定できます。キャプティブ ポータル ルールにより、ルールに応じてフィルタリングされた顧客が SSID に接続する際に、直接インターネット接続を提供するように設定することもできます。この場合、キャプティブ ポータルは表示されませんが、顧客はインターネットへアクセスできるようになります。また、ルールに応じてフィルタリングされた顧客にインターネット アクセスを拒否するようにも設定できます。

キャプティブ ポータル ルールを使用して、新しいタグを作成、またはルールに応じてフィルタリングされた顧客の既存のタグを変更できます。キャプティブ ポータル ルールはまた、ルールに応じて設定されている SSID に接続されている顧客の詳細を外部 API へ送信します。

ポータルを表示するキャプティブ ポータル ルールを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Captive Portal Rule]の順に選択します。

ステップ 2　[Create a new rule]をクリックします。

ステップ 3　[Rule Name] テキスト フィールドに、キャプティブ ポータル ルールの名前を入力します。

ステップ 4　[Sense] 領域で、次の手順を実行します。

a. [When a user is on] の後のドロップダウン リストから、[WiFi]を選択します。

b. [and connected to] の後のドロップダウン リストから、キャプティブ ポータルを表示する SSID を選択します。

(注)　SSID は SSID をインポートした場合にのみ選択することができます。SSID のインポートの詳細については、「手動での SSID のインポート」セクション(4-3 ページ)を参照してください。

ステップ 5　[Location] 領域で、ルールを適用するロケーションを指定します。

ロケーション階層全体、1 つまたは複数の MSE、キャンパス、グループ、ビルディング、フロア、ゾーンにルールを適用するように設定できます。ロケーション階層の作成の詳細については、「ロケーション階層の定義」セクション(3-2 ページ)を参照してください。

また、選択したロケーション、またはその親や子のロケーションに定義されているメタデータに基づいてロケーションをフィルタリングできます。ロケーションに対するメタデータの設定の詳細については、「ロケーション要素のメタデータの定義」セクション(3-7 ページ)を参照してください。特定のメタデータのロケーションにルールを適用するか、または特定のメタデータのロケーションを除外することができます。

ルールを適用するロケーションを指定するには、次の手順を実行します。

a. [Add Locations]ボタンをクリックします。

b. 表示される [Choose Location] ウィンドウで、キャプティブ ポータル ルールを適用するロケーションを選択します。

c. [OK]をクリックします。

特定のメタデータのロケーションにルールを適用するには、次の手順を実行します。

a. [Filterby Metadata] チェックボックスをオンにします。

b. [Filter] 領域で、[Add Metadata] ボタンをクリックします。

[Choose Location Metadata] ウィンドウが表示されます。

c. ドロップダウン リストから、メタデータの変数を選択し、隣接フィールドに変数の値を選択します。

d. [OK]をクリックします。

特定のメタデータのロケーションを除外するには、次の手順を実行します。

a. [Filterby Metadata] チェックボックスをオンにします。

b. [Exclude] 領域で、[Add Metadata] ボタンをクリックします。

[Choose Location Metadata] ウィンドウが表示されます。

c. ドロップダウン リストから、メタデータの変数を選択し、隣接フィールドに変数の値を選択します。

d. [OK]をクリックします。

ステップ 6　[IDENTIFY] 領域には、ポータルを表示する顧客のタイプを指定します。

(注)　顧客がオプトイン ユーザかどうか、顧客が属するタグ、顧客のアクセス回数、顧客のデバイスのアプリケーションの状態などに基づいてルールを適用する顧客をフィルタリングできます。これらのフィルタをすべて適用することも、要件に応じて一部を適用することもできます。

キャプティブ ポータル ルールが適用される顧客を指定するには、次の手順を実行します。

a. オプトイン ステータスにより顧客をフィルタリングする場合、[Filter by OptIn Status] チェックボックスをオンにし、[Only for] ドロップダウン リストから、オプトイン ユーザまたは非オプトイン ユーザのどちらをフィルタリングするかを選択します。

注　オプトイン ユーザの詳細については、「オプトイン ユーザ」セクション（6-6 ページ）を参照してください。

b. タグに基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by Tags]チェックボックスをオンにします。

注　2 つの異なる方法でタグをフィルタリングできます。ルールを適用する必要のあるタグを指定することも、ルールを適用しないタグを指定することもできます。要件に基づいて、最適なフィルタリング方法を選択できます。たとえば、1 つのタグを除くすべてのタグの顧客にルールを適用する場合、除外オプションを選択し、ルールを適用しない特定のタグを指定する方法が簡単です。

- 選択したタグの顧客にルールが適用されるようにタグを含めるには、[Add Tags] ボタンを使用して「含め」ます。
- 除外したタグの顧客にルールを適用しないようにするには、[Add Tags]ボタンを使用して「除外」します。

タグ フィルタの使用の詳細については、「タグによるフィルタリング」セクション（6-5 ページ）を参照してください。

c. 選択したロケーションの顧客のアクセスの数に基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by Previous Visits]チェックボックスをオンにします。

[Add Locations]ボタンをクリックします。[Choose location] ウィンドウで、フィルタリングについて検討する必要がある顧客のアクセス先を選択します。次のフィールドで、フィルタリング対象のアクセス数と時間を指定します。自分で設定できるアクセスと時間の詳細については、「通知基準」セクション（5-18 ページ）を参照してください。

d. 顧客のアプリケーションのステータスに基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by App Status]チェックボックスをオンにします。[Filter by the users who] ドロップダウン リストから、ルールを適用できるアプリケーションのステータスを選択します。

ステップ 7　[Schedule] 領域で、ルールを適用する期間を指定します。

a. [Set a time range for the rule] チェックボックスをオンにし、表示されるフィールドに、キャプティブ ポータル ルールを適用する時間範囲を指定します。

b. [Set a date range for the rule] チェックボックスをオンにし、表示されるフィールドに、キャプティブ ポータル ルールを適用する期間の開始日と終了日を指定します。

c. 特定の曜日にだけルールを適用するには、[Filter by days of the week] チェックボックスをオンにし、表示される曜日のリストから、ルールを適用する曜日を選択します。

ステップ 8　[Actions] 領域で、前述の条件が満たされたときに実行する操作を設定します。

a. ルールに応じてフィルタリングされた顧客のインターネットのプロビジョニングを管理するには、次から必要なオプションを選択してください。

- Show CaptivePortal：キャプティブ ポータル ルールに応じてフィルタリングされた顧客が、ルールを設定した SSID に接続するときに、キャプティブ ポータルを表示するには、このオプションを選択します。[Show them Portal] ドロップダウン リストから、このルールで定義された条件が満たされているときに表示するキャプティブ ポータルを選択します。選択したロケーションに作成したポータルを選択することができます。ポータルの作成の詳細については、「ポータルの作成」セクション（4-4 ページ）を参照してください。
- Seamlessly ProvisionInternet：顧客が SSID に接続するとすぐに顧客にインターネットを提供するには、このオプションを選択します。この場合、顧客は認証の手順を実行する必要がありません。[Seamlessly Provision Internet] オプションを使用するには、WLC で必要な設定が行われていることを確認します。WLC で必要な設定の詳細については、「インターネット プロビジョニングおよび RADIUS 認証に関する CUWN の設定」セクション（4-2 ページ）を参照してください。
  - [Session Duration] フィールドには、各接続にインターネット アクセスを提供する期間を指定します。
  - [Bandwidth Limit] フィールドで、提供する帯域幅を選択します。1 tbps の最大帯域幅を選択できます。

注　ワイヤレス ネットワークが CUWN の場合、ルール/ポリシー名は不要です。

- DenyInternet：顧客が SSID に接続しようとしたときに、ルールに応じてフィルタリングされた顧客にインターネットを拒否するには、このオプションを選択します。この場合、顧客は SSID への接続が許可されません。

b. このキャプティブ ポータル ルールに基づいてフィルタリングされた顧客にタグを作成する、または、フィルタリングされた顧客を既存のルールに追加または削除するには、[Add Tags]ボタンをクリックします。タグ フィルタの使用の詳細については、「タグによるフィルタリング」セクション（6-5 ページ）を参照してください。

c. 外部 API に通知を送信するには、[Trigger API] チェックボックスをオンにします。

- [Method] ドロップダウン リストから、API をトリガーするメソッドを選択します。

注　API URI またはメソッド パラメータにスマート リンク変数を追加することで、通知メッセージに顧客の詳細を追加できます。

  - Get：get メソッドを使用して API に通知を送信します。このメソッドを選択すると、要求パラメータを指定できる追加のフィールドが表示され、顧客の名、姓、携帯番号などの追加情報を通知に含めることができます。API で定義された要求パラメータのキーを追加し、スマート リンクを使用して、これらの値を指定できます。値はハードコード値または変数のどちらでもかまいません。隣接する [Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、または値フィールドに「$」を入力して、スマート リンク変数を追加できます。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。[add]ボタンを使用して、さらに「get パラメータ」を追加できます。

- Post Form：post form メソッドを使用して API に通知を送信します。このメソッドを選択すると、form パラメータを指定できる追加のフィールドが表示され、顧客の名、姓、携帯番号などの追加情報を通知に含めることができます。API に定義されている form パラメータのキーを追加し、それらの値を指定できます。値は、ハードコード値または変数のどちらでもかまいません。隣接する [Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、または値フィールドに「$」を入力して、form パラメータ変数として変数を追加できます。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。[add] ボタンを使用して、さらに「form パラメータ」を追加できます。
- Post Json：post json メソッドを使用して API に通知を送信します。このメソッドを選択すると、API に通知メッセージとして送信する json データを指定できるテキスト ボックスが表示されます。API で定義されるさまざまな json フィールドの json 値を指定できます。値はハードコード値または変数のどちらでもかまいません。隣接する [Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、またはテキスト ボックスに「$」を入力して、json 値として変数を追加できます。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。
- Post Body：post body メソッドを使用して API に通知を送信します。このメソッドを選択すると、API に送信する通知に含める必要がある内容を指定できる追加のフィールドが表示されます。

- [URI] テキスト フィールドに、API の URI を入力します。スマート リンクを使用して通知メッセージに顧客の詳細を含めることができます。[Add Variable] ドロップダウン リストをクリックするか、テキスト ボックスに「$」を入力して変数を表示します。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください

注　ポータルの [Data Capture] モジュールを使用してキャプチャするように設定されたこれらのスマート リンク変数だけが通知に含まれます。

（注）　ルールの概要がページの右側に表示されます。

ステップ 9　[Save]をクリックします。

ルールは [Captive Portal Rules] ページに表示されます。

ステップ 10　ルールの右端の [Make Rule Live]アイコンをクリックします。

キャプティブ ポータル ルールがパブリッシュされます。

例

XYZ は、モバイル ストアからスーパーマーケットまで、さまざまな事業のストリームラインに関わっているビジネス グループです。XYZ はニューヨークの各地に 5 軒のモバイル ストアと 4 軒のスーパーマーケットを展開しています。ニューヨークの XYZ の SSID は XYZID です。XYZ は顧客が XYZ のスーパーマーケットから XYZID に接続すると、スーパーマーケットのさまざまな品目が利用可能なオファーを表示する、キャプティブ ポータル C1 を表示したいと考えています。同様に、キャプティブ ポータル C2 は、XYZ のモバイル ストアから XYZID に接続する顧客に表示される必要があります。キャプティブ ポータルは、オプトインではないユーザに表示される必要があります。

スーパー マーケットのロケーション：L1、L2、L3、L4、L5

モバイル ストアのロケーション：L7、L8、L9、L10

前述のシナリオを実現するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WLC で、アクセスポイントのモードを定義し、ACL を作成し、SSID の XYZID を作成します。WLC 設定の詳細については、ワイヤレス LAN コントローラの設定（4-11 ページ）を参照してください。

ステップ 2　WiFi Engage にログインします。

ステップ 3　[Import SSID] オプションを使用して、WiFi Engage に XYZID を追加します。

ステップ 4　XYZ のロケーション階層を作成します。ロケーション階層では、ニューヨークの XYZ のすべてのスーパーマーケットとモバイル ストアが、ロケーション [New York] の下のロケーション要素として定義される必要があります。キーが[StoreType]、値が [SM]の、ロケーション L1、L2、L3、L4、L5 のロケーション メタデータを追加します。キーが[StoreType]、値が [MS]の、ロケーション L7、L8、L9、L10 のロケーション メタデータを追加します。ロケーション メタデータの定義の詳細については、「ロケーション要素のメタデータの定義」セクション（3-7 ページ）を参照してください。

ステップ 5　スーパーマーケットのポータル **C1** と、モバイル ストアのポータル **C2** を作成します。ポータルの作成の詳細については、「ポータルの作成」セクション（4-4 ページ）を参照してください。

ステップ 6　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Captive Portal Rule]の順に選択します。

ステップ 7　[Create a new rule]をクリックします。

ステップ 8　[RULE NAME] フィールドに、キャプティブ ポータル ルールの名前 **R1** を入力します。

ステップ 9　[When a user is on] ドロップダウン リストから [WiFi]を、[and connected to] ドロップダウン リストから [XYZID] を選択します。

ステップ 10　[Locations] 領域で、次の手順を実行します。

a.　[Add Locations]ボタンをクリックし、表示される [Choose Location] ウィンドウで、ニューヨークのロケーションを選択し、[OK] をクリックします。

b.　[Filter by metadata] チェックボックスをオンにし、フィルタの [Add Metadata]ボタンをクリックします。

c.　[Choose Location Metadata] ウィンドウで、キーに [StoreType]を選択し、値に [SM] を選択します。

注　ロケーション メタデータ「StoreType」は、ロケーション「New York」の下にあるロケーションに定義されているため、[Choose Location Metadata] ウィンドウで選択することができます。

ステップ 11　[Identify] 領域で、[Filter by OptIn Status] チェックボックスをオンにし、[Only for] ドロップダウン リストから[not Opted In Users] を選択します。

ステップ 12　[Schedule] 領域で、[Set a date range for the rule] チェックボックスをオンにし、開始日に今日の日付を、終了日に今年の最後の日付を指定します。

ステップ 13　[Actions] 領域で、[Show them Portal] ドロップダウン リストから [C1]を選択します。

ステップ 14　[Save]をクリックします。

ルールは [Captive Rules] ページでパブリッシュされます。

ステップ 15　[Captive Rules] ページの [Make Rule Live]アイコンをクリックして、ルールをパブリッシュします。

ステップ 16　同様に、ロケーション メタデータ キーが[StoreType]、値が [MS]、キャプティブ ポータルが [C2]の、別のルール **R2** を、モバイル グループ用に作成します。

これで、顧客が XYZ のスーパーマーケットにアクセスして XYZID に接続すると、**C1** が表示されます。同じ顧客が XYZ のモバイル ストアから XYZID に接続すると、**C2** が表示されます。

ワイヤレス LAN コントローラの設定

CUWN の設定は WLC で行われます。ローカルと flexconnect モードの WLC の設定は異なります。

- WiFi Engage を使用するためのローカル モード設定（4-11 ページ）
- WiFi Engage を使用するための FlexConnect モードの設定（4-14 ページ）

（注）　設定は、WLC で行われ、これは Enterprise Mobility Services Platform の一部ではありません。またこのマニュアル内のメニュー パス、タブに指定された名前、ウィンドウ、オプションなどが変更されることがあります。

（注）　SSID と ACL は MSE/CMX ではなく WLC で作成されます。

WiFi Engage を使用するためのローカル モード設定

ローカル モードで WiFi Engage を使用するように WLC を設定するには、次の手順を実行します。

1. アクセス ポイントのローカル モードを設定する（4-11 ページ）
2. アクセス コントロール リストの作成（4-11 ページ）
3. CUWN で SSID を作成する（4-12 ページ）
4. 仮想インターフェイスの設定（4-13 ページ）

アクセス ポイントのローカル モードを設定する

アクセス ポイントのローカル モードを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WLC のクレデンシャルで WLC にログインします。

ステップ 2　WLC のメイン ウィンドウで、[WIRELESS]タブをクリックします。
すべてのアクセス ポイントが一覧表示されます。

ステップ 3　モードをローカルに設定するアクセス ポイントをクリックします。

ステップ 4　[General]タブをクリックします。

ステップ 5　[AP Mode] ドロップダウン リストから、[local]を選択して、[Apply] をクリックします。

アクセス コントロール リストの作成

アクセス コントロール リストを作成するには、次の手順を行います。

ステップ 1　WLC のクレデンシャルで WLC にログインします。

ステップ 2　[Security] > [Access Control Lists] > [Access Control Lists]を選択します。

ステップ 3　ACL を追加するには、[New]をクリックします。

ステップ 4　表示される [New] ページに次の情報を入力します。

a. [Access Control List Name] フィールドに新しい ACL の名前を入力します。

注　最大 32 文字の英数字を入力できます。

b. ACL タイプとして [IPv4]を選択します。

c. [Apply]をクリックします。

ステップ 5　[Access Control Lists] ページが再度表示されたら、新しい ACL の名前をクリックします。

ステップ 6　表示される [Edit] ページで、[Add New Rule]をクリックします。

[Rules > New] ページが表示されます。

ステップ 7　必要なウォールガーデンの範囲にこの ACL のルールを設定します。

ウォールガーデンの範囲を表示するには、WiFi Engage で [SSIDs] ウィンドウの [Configuration Instructions] リンクをクリックします。

ACL ルールを定義するときには、次のように値を設定します。

- **Direction**：Any
- **Protocol**：Any
- **Source Port Range**：0-65535
- **Destination Port Range**：0-65535
- **DSCP**：Any
- **Action**：Permit

CUWN で SSID を作成する

（注）　SSID は MSE/CMX ではなく WLC で作成されます。

WLC で SSID を作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WLC のメイン ウィンドウで、[WLANs]タブをクリックします。

ステップ 2　WLAN を作成するには、ページの右端にあるドロップダウン リストで [Create New]を選択し、[Go] をクリックします。

ステップ 3　表示される [New] ページで、[Type]、[Profile Name]、[SSID] などの WLAN の詳細を入力します。

ステップ 4　[Apply]をクリックします。

[SSID Name] ページが表示されます。

ステップ 5　[General] タブでは、[Broadcast SSID] チェックボックスをオフにします。

ステップ 6　[Security] > [Layer 2]を選択し、[Layer 2 Security] を [None] に設定します。

ステップ 7　[Layer 3]タブで、次を設定します。

a. [Layer 3 security] ドロップダウン リストから、[Web Policy]を選択します。

b. [On Mac Filter Failure]ラジオ ボタンを選択します。

c. [Preauthentication ACL] 領域で、[IPv4] ドロップダウン リストから、先に定義した ACL を選択します。

d. [Sleeping Client] の [Enable] チェックボックスをオンにします。

e. [Override Global Config] の [Enable] チェックボックスをオンにします。

f. [Web Auth Type] ドロップダウン リストから [External (Redirect to External Server)]を選択します。

g. 表示される [URL] フィールドに、WiFi Engage のスプラッシュ URL を入力します。

CUWN アカウントのスプラッシュ URL を表示するには、WiFi Engage で、[SSIDs] ウィンドウの [Configuration Instructions] リンクをクリックします。

注　また、スプラッシュ URL として スタジオ URL を設定できます。キャプティブ ポータル URL としてのスタジオ URL の設定の詳細については、「Enterprise Mobility Services Platform Studio URL のキャプティブ ポータル URL としての設定」セクション（7-26 ページ）を参照してください。

h. [Apply]をクリックします。

ステップ 8　[Advanced]タブをクリックします。

ステップ 9　[Enable Session Timeout] フィールドに、**1800** と入力して [Apply] をクリックします。

ステップ 10　[General] タブで、[Status] および [Broadcast SSID] オプションの [Enabled] チェックボックスをオンにし、SSID を有効にします。

ステップ 11　コマンド プロンプトで次のコマンドを実行して、キャプティブ バイパスを無効にします。その後、WLC を再起動します。

config network web-auth captive-bypass disable

ステップ 12　[Management] > [HTTP-HTTPS]を選択します。

ステップ 13　表示される [HTTP-HTTPS configuration] ページで、次を実行します。

a. [HTTP Access] ドロップダウン リストから、[Disabled]を選択します。

b. [HTTPS Access] ドロップダウン リストから、[Enabled]を選択します。

c. [WebAuth SecureWeb] ドロップダウン リストから、[Disabled]を選択します。

d. [Apply]をクリックします。

ステップ 14　[Security] >[Web Auth] > [Web Login Page] の順に選択し、[Redirect URL after login] フィールドが空白であることを確認します。

（注）　[Management] タブに変更を加えた場合は、変更を反映するために WLC を再起動します。

仮想インターフェイスの設定

仮想インターフェイスを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[Controller]> [Interfaces] の順に選択します。

ステップ 2　[Virtual]リンクをクリックします。

ステップ 3　表示される[Interfaces > Edit] ページで、次のパラメータを入力します。

a. [IP address] フィールドに、未割り当ておよび未使用のゲートウェイ IP アドレス（存在する場合）を入力します。

b. [DNS Host Name] フィールドに、DNS ホスト名（存在する場合）を入力します。

注　理想的には、このフィールドは空白になります。

注　接続して Web 認証を確立するには、DNS サーバは常に仮想インターフェイスをポイントしている必要があります。仮想インターフェイスに DNS ホスト名が設定されている場合は、クライアントが使用する DNS サーバ上で同じ DNS ホスト名が設定されている必要があります。

c. [Apply]をクリックします。

（注）　仮想インターフェイスに変更を加えた場合は、変更を反映するために WLC を再起動します。

WiFi Engage を使用するための FlexConnect モードの設定

中央スイッチまたはローカル スイッチのモードに FlexConnect を設定できます。

FlexConnect 中央スイッチ モード

FlexConnect 中央スイッチ モードで WiFi Engage を使用するように WLC を設定するには、次の手順を実行します。

1. アクセス ポイントの FlexConnect モードを設定する（4-14 ページ）。
2. FlexConnect 中央スイッチ モードのアクセス コントロール リストの作成（4-15 ページ）
3. FlexConnect 中央スイッチ モードの CUWN での SSID の作成（4-15 ページ）
4. 仮想インターフェイスの設定（4-13 ページ）

FlexConnect ローカル スイッチ モード

FlexConnect ローカル スイッチ モードで WiFi Engage を使用するように WLC を設定するには、次の手順を実行します。

1. アクセス ポイントの FlexConnect モードを設定する（4-14 ページ）
2. FlexConnect のローカル スイッチ モードでのアクセス コントロール リストの作成（4-15 ページ）
3. FlexConnect のローカル スイッチ モードの CUWN での SSID の作成（4-16 ページ）
4. 仮想インターフェイスの設定（4-13 ページ）

アクセス ポイントの FlexConnect モードを設定する

この設定は、FlexConnect 中央スイッチおよびローカル スイッチ モードに適用されます。アクセスポイントに FlexConnect 中央スイッチ モードを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WLC のメイン ウィンドウで、[WIRELESS]タブをクリックします。

すべてのアクセス ポイントが一覧表示されます。

注　アクセス ポイントの詳細については、ワイヤレス LAN コントローラのユーザ ガイドを参照してください。

ステップ 2　モードを FlexConnect に設定するアクセス ポイントをクリックします。

ステップ 3　[General]タブをクリックします。

ステップ 4　[AP Mode] ドロップダウン リストから [FlexConnect]を選択します。

ステップ 5　[Apply]をクリックして変更を適用し、アクセス ポイントをリブートします。

FlexConnect 中央スイッチ モードのアクセス コントロール リストの作成

ローカル モードの場合と同じ手順を使用して、アクセス コントロール リストを作成します。詳細については、「アクセス コントロール リストの作成」セクション（4-11 ページ）を参照してください。

FlexConnect 中央スイッチ モードの CUWN での SSID の作成

ローカル モードの場合と同じ手順で SSID を作成します。詳細については、「CUWN で SSID を作成する」セクション（4-12 ページ）を参照してください。

FlexConnect のローカル スイッチ モードでのアクセス コントロール リストの作成

FlexConnect のローカル スイッチ モードでのアクセス コントロール リストを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WLC のクレデンシャルで WLC にログインします。

ステップ 2　[Security] > [Access Control Lists] > [FlexConnect ACLs]の順に選択します。

ステップ 3　ACL を追加するには、[New]をクリックします。

ステップ 4　表示される [New] ページに次の情報を入力します。

a.　[Access Control List Name] テキスト フィールドに新しい ACL の名前を入力します。

注　最大 32 文字の英数字を入力できます。

b.　[Apply]をクリックします。

ステップ 5　[Access Control Lists] ページが再度表示されたら、新しい ACL の名前をクリックします。

ステップ 6　表示される [Edit] ページで、[Add New Rule]をクリックします。

[Rules > New] ページが表示されます。

ステップ 7　必要なウォールガーデンの範囲にこの ACL のルールを設定します。

ウォールガーデンの範囲を表示するには、WiFi Engage で [SSIDs] ウィンドウの [Configuration Instructions] リンクをクリックします。

ACL ルールを定義するときには、次のように値を設定します。

- **Direction**：Any
- **Protocol**：Any
- **Source Port Range**：0-65535
- **Destination Port Range**：0-65535
- **DSCP**：Any
- **Action**：Permit

FlexConnect のローカル スイッチ モードの CUWN での SSID の作成

（注）　SSID は MSE/CMX ではなく WLC で作成されます。

FlexConnect のローカル スイッチ モードの CUWN で SSID を作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WLC のメイン ウィンドウで、[WLANs]タブをクリックします。

ステップ 2　WLAN を作成するには、ページの右端にあるドロップダウン リストで [Create New]を選択し、[Go] をクリックします。

ステップ 3　表示される [New] ページで、[Type]、[Profile Name]、[SSID] などの WLAN の詳細を入力します。

ステップ 4　[Apply]をクリックします。

[SSID Name] ページが表示されます。

ステップ 5　[General] タブでは、[Broadcast SSID] チェックボックスをオフにします。

ステップ 6　[Security] > [Layer 2]を選択し、[Layer 2 Security] を [None] に設定します。

ステップ 7　[Layer 3]タブで、次を設定します。

a. [Layer 3 security] ドロップダウン リストから、[Web Policy]を選択します。

b. [On Mac Filter Failure]ラジオ ボタンを選択します。

c. [Preauthentication ACL] 領域で、[WebAuth FlexACL] ドロップダウン リストから、事前に定義されている ACL を選択します。

d. [Sleeping Client] の [Enable] チェックボックスをオンにします。

注　Web 認証に成功したゲスト アクセスを持つクライアントは、ログイン ページから別の認証プロセスを実行せずにスリープおよび復帰することを許可されています。再認証が必要になるまでスリープ状態にあるクライアントが記録される期間を設定できます。有効な範囲は 1 時間から 720 時間（30 日）で、デフォルトは 12 時間です。これがセッション タイムアウトと同じになるのが理想的です。

e. [Override Global Config] の [Enable] チェックボックスをオンにします。

f. [Web Auth Type] ドロップダウン リストから、[External]を選択します。

g. 表示される [URL] フィールドに、WiFi Engage のスプラッシュ URL を入力します。

CUWN アカウントのスプラッシュ URL を表示するには、WiFi Engage で、[SSIDs] ウィンドウの [Configuration Instructions] リンクをクリックします。

注　また、スプラッシュ URL として スタジオ URL を設定できます。キャプティブ ポータル URL としてのスタジオ URL の設定の詳細については、「Enterprise Mobility Services Platform Studio URL のキャプティブ ポータル URL としての設定」セクション（7-26 ページ）を参照してください。

h. [Apply]をクリックします。

ステップ 8　[Advanced]タブをクリックします。

ステップ 9　[Enable Session Timeout] フィールドに「**1800**」と入力します。

ステップ 10　[FlexConnect] 領域で、FlexConnect のローカル スイッチに [Enabled]チェックボックスをオンにし、[Apply] をクリックします。

ステップ 11　[General] タブで、[Status] および [Broadcast SSID] オプションの [Enabled] チェックボックスをオンにし、SSID を有効にします。

ステップ 12　コマンド プロンプトで次のコマンドを実行して、キャプティブ バイパスを無効にします。その後、WLC を再起動します。

config network web-auth captive-bypass disable

ステップ 13　[Management] > [HTTP-HTTPS]を選択します。

ステップ 14　表示される [HTTP-HTTPS configuration] ページで、次を実行します。

a. [HTTP Access] ドロップダウン リストから、[Disabled]を選択します。

b. [HTTPS Access] ドロップダウン リストから、[Enabled]を選択します。

c. [WebAuth SecureWeb] ドロップダウン リストから、[Disabled]を選択します。

d. [Apply]をクリックします。

ステップ 15　[Security]>[Web Auth] > [Web Login Page] の順に選択し、[Redirect URL after login] フィールドが空白であることを確認します。

CHAPTER 5

通知を送信するエンゲージメント ルールの定義

WiFi Engage は、WiFi Engage 対応の構内にいる顧客を特定し、定義されたエンゲージメント ルールに基づいて顧客とビジネス ユーザに通知を送信する WiFi ビーコンとして機能します。

この章では、ビジネスの構内に近い顧客に通知を送信できるようにするエンゲージメント ルールを作成する方法について説明します。顧客は、ビジネスの構内から以前購入したことがあるユーザ、潜在的な購入者、訪問者のいずれかにすることができます。また、従業員などのビジネス ユーザまたは API エンド ポイントに対して通知を送信するようにエンゲージメント ルールを設定することもできます。たとえば、カスタマー ケア担当者が顧客に付加価値サービスを提供できるように、権限のある顧客が構内に入るとカスタマー ケア担当者に通知するエンゲージメント ルールを設定できます。

顧客の WiFi への接続、または BLE ビーコンへの接近に基づいて通知を送信するように設定できます。

(注) エンゲージメント ルールは、ルールで指定したロケーションに定義されているすべての SSID または BLE ビーコンに対して適用されます。

- エンゲージメント ルールの定義(5-1 ページ)
- エンゲージメント URL(5-18 ページ)
- 通知基準(5-18 ページ)
- 通知タイプ(5-19 ページ)
- 通知頻度(5-19 ページ)
- EMSP SDK のダウンロード(5-20 ページ)
- エンゲージメント ルール レポート(5-20 ページ)

エンゲージメント ルールの定義

エンゲージメント ルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. 通知を送信するための MSE/CMX の設定(5-2 ページ)
2. WiFi Engage へのアクセス(5-2 ページ)
3. ロケーション階層の定義(5-3 ページ)

4. アプリケーションの設定（5-3 ページ）
5. BLE ビーコンの設定（5-4 ページ）
6. タグの作成（5-5 ページ）
7. ポータルを使用した WiFi Engage への顧客の追加（5-5 ページ）
8. エンゲージメント ルールの作成（5-5 ページ）

通知を送信するための MSE/CMX の設定

WiFi Engage が通知を送信できるようにするには、MSE/CMX アプリケーションで特定の設定を行う必要があります。

（注）　WiFi Engage では MSE 8.0 以降がサポートされます。MSE 10.0 以降を使用している場合、通知を送信するために必要な設定はこのセクションで説明します。

通知を送信するように MSE/CMX を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　MSE/CMX アカウントのログイン クレデンシャルを使用して Cisco CMX にログインします。

ステップ 2　[Manage] > [Notifications]の順に選択します。

ステップ 3　[New Notification]をクリックします。

ステップ 4　[CREATE NEW NOTIFICATION] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a. [Name] テキスト フィールドに、通知の名前を入力します。
b. [Type] ドロップダウン リストから、[Location Update]を選択します。
c. [DeviceType] ドロップダウン リストから、[All]を選択します。
d. [Hierarchy] ドロップダウン リストから、[All Locations]を選択します。
e. [Receiver] ドロップダウン リストから、[https]を選択し、テキスト フィールドに次の詳細を入力します。
   - **Hostaddress**：livenotification.wifi-mx.com
   - **PortNo**：443
   - **URL**：notifications/MSE/<customerIdentifier>

ステップ 5　[MAC Scrambling] が [OFF]に設定され、メッセージ形式が [JSON] であることを確認します。

ステップ 6　[Create]をクリックします。

WiFi Engage へのアクセス

WiFi Engage へアクセスする手順については、「WiFi Engage へのアクセス」セクション（3-2 ページ）で説明しています。

ロケーション階層の定義

WiFi Engage のロケーション階層を定義する手順については、「ロケーション階層の定義」セクション（3-2 ページ）で説明しています。

アプリケーションの設定

プッシュ通知については、プッシュ通知を送信するアプリケーションを設定する必要があります。

（注）　プッシュ通知を送信する場合にのみアプリケーションを設定する必要があります。

アプリケーションを WiFi Engage に追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインに表示される [Tools] アイコンをクリックします。

ステップ 2　表示されるウィンドウで、[Notification Channels]タブをクリックします。

ステップ 3　[Add Apps]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Apps] 画面で、次の詳細を入力します。

a. [APP NAME] フィールドに、アプリケーションの名前を入力します。
b. IOS デバイスでアプリケーションが使用可能な場合、[IOS] チェックボックスをオンにします。
c. [APP ID] テキスト フィールドに、IOS アプリケーションの ID を入力します。
d. [UPLOAD APNS P12] 領域で、アプリケーションの APNS P12 をアップロードします。
   [Select File] ボタンを使用してファイルをアップロードすることができます。
e. [UPLOAD APNS CERTIFICATE] 領域で、アプリケーションの APNS 証明書をアップロードします。
   [Select File] ボタンを使用してファイルをアップロードすることができます。
f. [APNS CERTIFICATE PASSWORD] テキスト フィールドに、APNS 証明書のパスワードを入力します。
g. Android デバイスでアプリケーションが使用可能な場合、[ANDROID] チェックボックスをオンにします。
h. [APP ID] テキスト フィールドに、Android アプリケーションの ID を入力します。
i. [API KEY] テキスト フィールドに、Android アプリケーションの API キーを入力します。
j. [Save]をクリックします。

BLE ビーコンの設定

BLE ビーコン通知を有効にするには、BLE UUIDS および BLE ビーコンを WiFi Engage に追加する必要があります。

(注)　BLE ビーコンへのプロキシミティに基づいて通知を送信する場合にのみ BLE ビーコンを設定する必要があります。

WiFi Engage で BLE ビーコンを設定するには、次の手順を実行します。

- BLE UUID の追加（5-4 ページ）
- BLE ビーコンの追加（5-4 ページ）

BLE UUID の追加

BLE UUID を WiFi Engage に追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインに表示される [Tools] アイコンをクリックします。

ステップ 2　表示されるウィンドウで、[BLE UUIDs]タブをクリックします。

ステップ 3　[BLE UUIDs] テキスト フィールドに、BLE の UUID を入力します。

ステップ 4　[Confirm]をクリックします。

(注)　デバイスの制限により、WiFi Engage に設定できる UUID は 15 個のみです。

BLE ビーコンの追加

WiFi Engage では、ビルディング、フロア、またはゾーンに BLE ビーコンを追加することができます。

(注)　同じ UUID の場合、異なるメジャーおよびマイナー番号を使用して複数の BLE ビーコンを定義することができます。

ビルディング、フロア、またはゾーンに BLE ビーコンを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

[Location] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2　BLE ビーコンを追加するビルディング、フロア、またはゾーンをクリックします。

ステップ 3　[BLE Beacons] タブで、[Add BLE Beacon]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Add BLE Beacon] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a.　[BLE Beacon UUID] ドロップダウン リストから、[BLE Beacon UUID] を選択します。

Beacon UUID の WiFi Engage への追加に関する詳細については、「BLE UUID の追加」セクション（5-4 ページ）を参照してください。

b. [BLE Beacon Name] テキスト フィールドに、BLE ビーコンの名前を入力します。
c. [Manufacturer] テキスト フィールドに、ビーコン製造者の名前を入力します。
d. [Major Version] ドロップダウン リストから、BLE ビーコンのメジャー バージョン値を選択します。
e. [Minor Version] ドロップダウン リストから、BLE ビーコンのマイナー バージョン値を選択します。
f. [Advanced]リンクをクリックし、必要に応じてビーコンの追加の詳細を設定します。
g. [Max RSSI] 選択リストから、BLE ビーコンの最大の受信信号強度表示を選択します。
h. [Min RSSI] 選択リストから、BLE ビーコンの最小の受信信号強度表示を選択します。
i. [Latitude] 選択リストから、グローバル地図において BLE ビーコンが存在する緯度を選択します。
j. [Longitude] 選択リストから、グローバル地図において BLE ビーコンが存在する経度を選択します。
k. [X Coordinates] 選択リストから、フロア内の BLE ビーコンの X 座標を選択します。
l. [Y Coordinates] 選択リストから、フロア内の BLE ビーコンの Y 座標を選択します。
m. [Add]をクリックします。

タグの作成

タグを定義する手順は、「プロファイル ルールを使用したタグの作成または既存のタグへの顧客の追加または除外」セクション（6-1 ページ）で定義されています。

（注）　この手順は、エンゲージメント ルールでタグ フィルタを使用する場合にのみ必要です。

ポータルを使用した WiFi Engage への顧客の追加

データ キャプチャ フォームを使用して、名前、電子メール、電話番号などの顧客の詳細を WiFi Engage に追加することができます。キャプティブ ポータルを作成すると、ポータルで [Data Capture] モジュールを設定できます。顧客獲得中、このデータ キャプチャ フォームは顧客の詳細をキャプチャするために顧客に表示されます。[Hard SMS with Verification Code] と [Email] の認証タイプに対して [Data Capture] モジュールを設定できます。

ポータルの作成の詳細については、「ポータルの作成」セクション（4-4 ページ）を参照してください。

エンゲージメント ルールの作成

エンゲージメント ルールとは、対象ユーザに送信される通知に基づく条件のことです。顧客および従業員などのビジネス ユーザ、または API エンドポイントに対してエンゲージメント ルールを作成できます。

通知を送信する頻度を設定できます。また、通知を送信するための必要条件を定義できます。通知は単一ユーザまたは複数のロケーションのユーザ グループに送信するように設定できます。

顧客の場合、SMS、電子メール、BLE ビーコン、またはアプリケーションを通じて通知を送信できます。ビジネス ユーザの場合、SMS、電子メールを通じて、または外部 API に対して通知を送信できます。顧客の場合、BLE ビーコンに対する顧客のプロキシミティ、または SSID に対する顧客の接続に基づいて通知を送信するように設定することができます。ビジネス ユーザの場合、SSID に対する顧客の接続に基づいて通知を送信するように設定することができます。ユーザが複数の形式の通知を取得できるように、エンゲージメント ルールには複数の通知タイプを設定できます。これにより、通知がユーザに通知される確率が向上します。

- 顧客に対するエンゲージメント ルールの作成（5-6 ページ）
- ビジネス ユーザに対するエンゲージメント ルールの作成（5-12 ページ）

顧客に対するエンゲージメント ルールの作成

SMS、電子メール、BLE ビーコン、またはアプリケーションによって顧客に通知を送信できます。

顧客に通知を送信するエンゲージメント ルールを定義するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Engagement Rule]の順に選択します。

ステップ 2　[Create a New Rule]をクリックします。

ステップ 3　[Rule Name] テキスト フィールドに、新しいエンゲージメント ルールの名前を入力します。

ステップ 4　[Sense] 領域で、[When a user is on] ドロップダウン リストから、ユーザの Wi-Fi への接続に基づいて通知を送信するか、BLE ビーコンへのプロキシミティに基づいて通知を送信するかを選択します。

a. [WiFi] を選択すると追加のフィールドが表示され、次のいずれかを選択できます。

- Entering Location：Wi-Fi に接続されている顧客がロケーションに入ると通知が送信されます。
- Exiting Location：Wi-Fi に接続されている顧客がロケーションを離れると通知が送信されます。
- Present at location：顧客が Wi-Fi に接続され、指定された期間または特定の時間にロケーションにいると通知が送信されます。このオプションを選択すると、追加のフィールドが表示され、通知の送信に必要な期間または時間を指定できます。

b. [Beacon] を選択すると追加のフィールドが表示され、次のいずれかを選択できます。

- Beacon Enter：顧客がビーコン構内に入ると通知が送信されます。
- Beacon Exit：顧客がビーコン構内を離れると通知が送信されます。
- Far：顧客がビーコン構内にいるが BLE ビーコンからは遠い場合に通知が送信されます。
- Near：顧客が BLE ビーコンに近いと通知が送信されます。
- Immediate：顧客が BLE ビーコンに非常に近いと通知が送信されます。
- Present at location：顧客が指定された期間または特定の時間にロケーションにいると通知が送信されます。このオプションを選択すると、追加のフィールドが表示され、通知の送信に必要な期間または時間を指定できます。

（注）　[Beacon] を選択すると、顧客の Bluetooth がオンの場合にのみ通知が送信されます。

（注）　[Sense] を [Beacon] として選択すると、BLE 通知としてのみ通知を送信できます。

ステップ 5　[Locations] 領域で、通知を送信するロケーションを指定します。

ロケーション階層全体または単一または複数の MSE、グループ、ビルディング、フロア、またはゾーンに対して通知の送信を設定できます。ロケーション階層の作成の詳細については、「ロケーション階層の定義」セクション（3-2 ページ）を参照してください。

また、選択したロケーションまたはその親あるいは子のロケーションに対して定義されているメタデータに基づいて通知を送信するロケーションをフィルタリングすることもできます。ロケーションに対するメタデータの設定の詳細については、「ロケーション要素のメタデータの定義」セクション（3-7 ページ）を参照してください。特定のメタデータを持つロケーションに対して通知を送信することも、特定のメタデータを持つロケーションを除外することもできます。

通知を送信するロケーションを指定するには、次の手順を実行します。

a. [Add Locations]ボタンをクリックします。

b. 表示される [Choose Location] ウィンドウで、通知を送信するロケーションを選択します。

c. [OK]をクリックします。

特定のメタデータを持つロケーションに対して通知を送信するには、次の手順を実行します。

a. [Filterby Metadata] チェックボックスをオンにします。

b. [Filter] 領域で、[Add Metadata]ボタンをクリックします。

[Choose Location Metadata] ウィンドウが表示されます。

c. ドロップダウン リストから、メタデータの変数を選択し、隣接フィールドに変数の値を選択します。

d. [OK]をクリックします。

特定のメタデータを持つロケーションに対する通知の送信を除外するには、次の手順を実行します。

a. [Filter by Metadata]チェックボックスをオンにします。

b. [Exclude] 領域で、[Add Metadata]ボタンをクリックします。

[Choose Location Metadata] ウィンドウが表示されます。

c. ドロップダウン リストから、メタデータの変数を選択し、隣接フィールドに変数の値を選択します。

d. [OK]をクリックします。

ステップ 6　[IDENTIFY] 領域で、通知を送信する顧客のタイプを指定します。

（注）　通知を送信する顧客は、顧客がオプトイン ユーザかどうか、顧客が属するタグ、顧客の訪問回数、および顧客デバイスのアプリケーションのステータスに基づいてフィルタリングすることができます。これらのフィルタをすべて適用することも、要件に応じて一部を適用することもできます。

通知を送信する顧客を指定するには、次の手順を実行します。

a. オプトイン ステータスにより顧客をフィルタリングする場合、[Filter by OptIn Status] チェックボックスをオンにして、[Only for] ドロップダウン リストから、オプトイン ユーザまたは非オプトイン ユーザのどちらに通知を送信するかを選択します。

注　オプトイン ユーザの詳細については、「オプトイン ユーザ」セクション（6-6 ページ）を参照してください。

b. タグに基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by Tags]チェックボックスをオンにします。

注　タグの作成の詳細については、「プロファイル ルールを使用したタグの作成または既存のタグへの顧客の追加または除外」セクション（6-1 ページ）を参照してください。

注　2 つの異なる方法でタグをフィルタリングできます。通知を送信するタグを指定するか、通知を送信してはならないタグを指定することができます。要件に基づいて、最適なフィルタリング方法を選択できます。たとえば、1 つのタグを除くすべてのタグに対して通知を送信する場合、除外オプションを選択し、通知を送信しない特定のタグを指定する方法が簡単です。

- 通知が選択したタグの顧客のみに送信されるようにタグを含めるには、[Include] の [Add Tags]ボタンを使用します。
- 除外するタグの顧客に通知を送信しないようにするには、[Exclude] の [Add Tags]ボタンを使用します。

タグ フィルタの使用の詳細については、「タグによるフィルタリング」セクション（6-5 ページ）を参照してください。

c. 選択したロケーションの顧客のアクセスの数に基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by Previous Visits]チェックボックスをオンにします。

[Add Locations]ボタンをクリックします。[Choose location] ウィンドウで、フィルタリングについて検討する必要がある顧客のアクセス先を選択します。次のフィールドで、通知を送信するために必要な訪問回数および継続時間を指定します。設定可能な訪問回数および継続時間の詳細については、「通知基準」セクション（5-18 ページ）を参照してください。

d. 顧客のアプリケーションのステータスに基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by App Status]チェックボックスをオンにします。[Filter by the users who] ドロップダウン リストから、通知を送信するアプリケーション ユーザのステータスを選択します。

ステップ 7　[Schedule] 領域で、ルールを適用する期間を指定します。

a. [Set a time range for the rule] チェックボックスをオンにし、表示されるフィールドで、エンゲージメント ルールを適用する時間範囲を指定します。

b. [Set a date range for the rule] チェックボックスをオンにし、表示されるフィールドで、エンゲージメント ルールを適用する期間の開始日と終了日を指定します。

c. 特定の日にのみエンゲージメント ルールを適用する場合、[Filter by days of the week] チェックボックスをオンにし、表示される曜日のリストから通知を送信する曜日をクリックします。

ステップ 8　[Actions] 領域で、次の手順を実行します。

a. [Notify]ドロップダウン リストから [Notify Consumer] を選択し、隣のドロップダウン リストから次のいずれかを選択します。

- Only Once：通知は一度だけ顧客に送信されます。
- Once In：通知は指定した通知頻度に基づいて複数回顧客に送信されます。このオプションを選択すると表示される追加のフィールドで、通知頻度を指定します。通知頻度の詳細については、「通知頻度」セクション（5-19 ページ）を参照してください。

注　検知を [Beacon] として選択すると、BLE 通知のみを送信できます。検知を [WiFi] として選択すると、プッシュ通知、SMS、または電子メールとして通知を送信できます。

注　名、姓、携帯電話の番号などの変数を通知メッセージに表示するには、ポータルで [Data Capture] モジュールを設定する必要があります。ポータルで [Data Capture] モジュールを設定する方法の詳細については、「ポータルへの [Data Capture] モジュールの追加」セクション（7-9 ページ）を参照してください。

b. プッシュ通知としてアプリケーションによって顧客に通知を送信する場合、[Via App Push Notification] チェックボックスをオンにします。[App] ドロップダウン リストから、通知の送信に使用するアプリケーションを選択します。アプリケーションの設定の詳細については、「アプリケーションの設定」セクション（5-3 ページ）を参照してください。顧客に送信されるメッセージの内容は、次のテキスト ボックスに表示されます。スマート リンクを使用してメッセージの内容を強化することができます。デフォルトでは、顧客の名および姓が変数として追加されます。追加のスマート リンク変数は、[Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、テキスト ボックスに「$」を入力することにより追加できます。スマート リンクの作成の詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

   エンゲージメント URL を追加する場合は、テキスト ボックスに $URL を入力します。表示される [Link] フィールドで、プッシュ通知に含める必要があるエンゲージメント URL を入力します。このエンゲージメント URL の作成の詳細については、「エンゲージメント URL」セクション（5-18 ページ）を参照してください。Smart Link オプションを使用すると、URL を強化することができます。スマート リンクに追加できるパラメータを表示するには、[Link] フィールドの横の [Add Variable] ドロップダウン リストをクリックするか、「$」を入力します。スマート リンクの作成の詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

c. BLE 通知として通知を送信する場合、[BLE Notification] チェックボックスをオンにします。顧客に送信されるメッセージの内容は、次のテキスト ボックスに表示されます。スマート リンクを使用してメッセージの内容を編集できます。デフォルトでは、顧客の名および姓、およびエンゲージメント URL が変数として追加されます。追加のスマート リンク変数は、[Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、テキスト ボックスに「$」を入力することにより追加できます。スマート リンクの作成の詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

   [Link] フィールドで、通知に表示する必要があるエンゲージメント URL を入力します。エンゲージメント URL の作成の詳細については、「エンゲージメント URL」セクション（5-18 ページ）を参照してください。Smart Link オプションを使用すると、URL を強化することができます。スマート リンクで追加できる変数を表示するには、[Link] フィールドに「$」を入力するか、[Link] フィールドの横の [Add Variable] ドロップダウン リストをクリックします。スマート リンクの作成の詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

注　BLE ビーコン通知またはプッシュ通知を送信するには、BLE ビーコンまたは通知を送信するアプリケーションを EMSP SDK と統合する必要があります。EMSP SDK のダウンロードと統合の方法の詳細については、「EMSP SDK のダウンロード」セクション（5-20 ページ）を参照してください。SDK アイコンは、EMSP SDK ライセンスがある場合にのみ [Tools] オプションに表示されます。

d. SMS で通知を送信する場合、[Via SMS] チェックボックスをオンにします。[SMS Gateway] ドロップダウン リストから、SMS 通知を送信する SMS ゲートウェイを選択します。シスコが提供する有料のデフォルト ゲートウェイを使用できます。[ADD SMS Gateway] ボタンを使用して [SMS Gateways] を [WiFi Engage] に追加できます。顧客に送信されるメッセージの内容は、次のテキスト ボックスに表示されます。スマート リンクを使用してメッセージの内容を強化することができます。デフォルトでは、顧客の名および姓、およびエンゲージメント

URL が変数として追加されます。追加のスマート リンク変数は、[Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、テキスト ボックスに「$」を入力することにより追加できます。スマート リンクの作成の詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

[Link] フィールドで、通知に表示する必要があるエンゲージメント URL を入力します。エンゲージメント URL の作成の詳細については、「エンゲージメント URL」セクション（5-18 ページ）を参照してください。Smart Link オプションを使用すると、URL を強化することができます。スマート リンクで追加できるパラメータを表示するには、[Link] フィールドに「$」を入力するか、[Link] フィールドの横の [Add Variable] ドロップダウン リストをクリックします。スマート リンクの作成の詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

e. 電子メールで通知を送信する場合、[Via Email] チェックボックスをオンにします。[From Name] で顧客が電子メールを受信する名前を指定し、[From Email] フィールドで顧客が電子メールを受信する電子メール ID を指定し、[Subject] フィールドで通知の電子メールの件名を入力します。顧客に送信されるメッセージの内容は、次のテキスト ボックスに表示されます。スマート リンクを使用してメッセージの内容を強化することができます。デフォルトでは、顧客の名および姓、およびエンゲージメント URL が変数として追加されます。追加のスマート リンク変数は、[Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、テキスト ボックスに「$」を入力することにより追加できます。スマート リンクの作成の詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

[Link] フィールドで、通知に表示する必要があるエンゲージメント URL を入力します。エンゲージメント URL の作成の詳細については、「エンゲージメント URL」セクション（5-18 ページ）を参照してください。Smart Link オプションを使用すると、URL を強化することができます。スマート リンクで追加できる変数を表示するには、[Link] フィールドに「$」を入力するか、[Link] フィールドの横の [Add Variable] ドロップダウン リストをクリックします。スマート リンクの作成の詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

注　変数「$firstName」は顧客の名前を表示し、「$lastName」は顧客の姓を表示し、「$email」は顧客の電子メール アドレスを表示し、「$mobile」は顧客の携帯電話の番号表示し、「URL」はエンゲージメント URL を表示し、「gender」は顧客の性別を表示し、「locationName」はメッセージが送信されるロケーションを表示します。定義されたビジネス タグとロケーション メタデータも選択に使用できます。

（注）　アプリケーションの通知を選択する場合、SMS および電子メールの通知は設定されていても送信されません。アプリケーションの通知が失敗した場合は、いかなる場合も、設定されている場合は SMS または電子メールの通知が送信されます。

（注）　ルールの概要がページの右側に表示されます。

ステップ 9　[Save]をクリックします。

ルールが [Engagement Rules] ページにリストされます。

ステップ 10　ルールをパブリッシュするには、ルールの右端にある [Make Rule Live]アイコンをクリックします。

エンゲージメント ルールがパブリッシュされます。

例

小売店 ABC は欧州全域に店舗があります。サマー セールの一環として、ABC は顧客に対してオファーを提供することを決めました。オファーは、ロケーション A の ABC 店舗とロケーション B のフロア 1 を訪れる顧客のみが対象です。今年 5 回以上 ABC のいずれかの店舗を訪問したすべての顧客がオファーの資格者です。ABC は、今年 5 回以上 ABC のいずれかの店舗を訪問した顧客に対してオファーに関する通知を送信します。通知は、顧客が WiFi に接続してロケーション A またはロケーション B のフロア 1 に入るときに送信する必要があります。オファーは週末の間だけなので、通知は週末にのみ送信します。通知はオプトイン ユーザに 2 週間だけ送信します。ABC は、アプリケーション A1 によって訪問時に毎回通知を送信します。

上記のシナリオの条件を満たすには、次の手順を実行します。

ステップ 1　アプリケーション **A1** を EMSP SDK と統合します。アプリケーションと SDK の統合の詳細については、「EMSP SDK のダウンロード」セクション(5-20 ページ)を参照してください。

ステップ 2　EMSP Studio を使用してプロモーション オファーの詳細を含むサイト ページを作成します。EMSP Studio を使用してサイトを作成する方法の詳細については、『Cisco Enterprise Mobility Services Platform Studio Configuration Guide』を参照してください。

ステップ 3　WiFi Engage にログインします。

ステップ 4　ABC のすべてのロケーションを含むロケーション階層を作成します。

ステップ 5　WiFi Engageでアプリケーション **A1** を設定します。アプリケーションの追加の詳細については、「アプリケーションの設定」セクション(5-3 ページ)を参照してください。

ステップ 6　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Engagement Rule]の順に選択します。

ステップ 7　[Create a new rule]をクリックします。

ステップ 8　[RULE NAME] フィールドに、新しいエンゲージメント ルールの名前を入力します。

ステップ 9　[When a user is on] ドロップダウン リストから [Wi-Fi]を選択し、表示されるドロップダウン リストから、[Entering Location] を選択します。

ステップ 10　[Locations] 領域で、ロケーションを選択するために [Add Locations]ボタンをクリックし、ロケーション A およびロケーション B のフロア 1 を選択します。

ステップ 11　[IDENTIFY] 領域で、以下を実行します。

a. [Filter by OptIn Status] チェックボックスをオンにし、[Only for] ドロップダウン リストから [Opted In users]を選択します。

b. [Filter by Previous Visits]チェックボックスをオンにし、[Add Locations]ボタンをクリックします。顧客名のチェックボックスをオンにして、ABC のすべてのロケーションへの訪問を考慮します。

c. 次のドロップダウン リストから、[Atleast]、[This Year]で [5] 回を選択します。

ステップ 12　[Schedule] 領域で、以下を実行します。

a. [Set a date range for the rule] チェックボックスをオンにし、オファーを提供する 2 週間の日付範囲を指定します。必要に応じて、時間も設定します。

b. [Filter by days of the week] チェックボックスをオンにし、[sat]および [sun] をクリックします。

ステップ 13　[Actions] 領域で、以下を実行します。

a. [Notify] ドロップダウン リストから、[Notify Consumer]を選択します。

b. 隣接する 3 つのドロップダウン リストから、[Oncein]、[1] および [Visits] をそれぞれ選択します。

c. [Via App Push Notification] チェックボックスをオンにし、次のドロップダウン リストから [A1]を選択し、[App deep link] フィールドにステップ 2 で作成したサイトの URL を入力します。必要に応じて、次のテキスト ボックスのメッセージを編集します。

d. [Via SMS] チェックボックスをオンにし、ステップ 2 で作成した URL を入力します。必要に応じて、次のテキスト ボックスの内容を編集します。

注　この設定の目的は、アプリケーションの通知が失敗した場合にも通知を送信することです。また、アプリケーション ユーザではない顧客は SMS によって通知を取得します。

ステップ 14　[Save]をクリックします。

ルールが [Engagement Rules] ページにパブリッシュされます。

ステップ 15　ルールの右端にある [Make Rule Live]アイコンをクリックし、ルールをパブリッシュします。

エンゲージメント ルールがパブリッシュされます。

ビジネス ユーザに対するエンゲージメント ルールの作成

SMS または電子メールによって従業員などのビジネス ユーザに通知を送信できます。外部 API に通知を送信することもできます。

ビジネス ユーザまたは外部 API に通知を送信するエンゲージメント ルールを定義するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules]> [Engagement Rule] の順に選択します。

ステップ 2　[Create a New Rule]をクリックします。

ステップ 3　[Rule Name] テキスト フィールドに、新しいエンゲージメント ルールの名前を入力します。

ステップ 4　[Sense] 領域で、[When a user is on] ドロップダウン リストから、[WiFi] を選択し、ユーザの Wi-Fi への接続に基づいてビジネス ユーザに対して通知を送信するようにします。

a. [WiFi] を選択すると追加のフィールドが表示され、次のいずれかを選択できます。

- Entering Location：Wi-Fi に接続されている顧客がロケーションに入るとビジネス ユーザに対して通知が送信されます。
- Exiting Location：Wi-Fi に接続されている顧客がロケーションを離れるとビジネス ユーザに対して通知が送信されます。
- Present at location：顧客が Wi-Fi に接続され、指定された期間または特定の時間にロケーションにいるとビジネス ユーザに対して通知が送信されます。このオプションを選択すると、追加のフィールドが表示され、通知の送信に必要な期間または時間を指定できます。

注　ビジネス ユーザの場合、検知を [Beacon] として選択してはなりません。

ステップ 5　[Locations] 領域で、通知を送信するロケーションを指定します。

顧客名全体または単一または複数の MSE、キャンパス、ビルディング、フロア、グループ、またはゾーンに対して通知の送信を設定できます。ロケーションの作成の詳細については、「ロケーション階層の定義」セクション（3-2 ページ）を参照してください。

また、選択したロケーションまたはその親あるいは子のロケーションに対して定義されているメタデータに基づいて通知を送信するロケーションをフィルタリングすることもできます。ロケーションに対するメタデータの設定の詳細については、「ロケーション要素のメタデータの定義」セクション（3-7 ページ）を参照してください。特定のメタデータを持つロケーションに対して通知を送信することも、特定のメタデータを持つロケーションを除外することもできます。

ルールのロケーションを指定するには、次の手順を実行します。

a. [Add Locations]ボタンをクリックします。

b. 表示される [Choose Location] ウィンドウで、エンゲージメント ルールを適用するロケーションを選択します。

c. [OK]をクリックします。

特定のメタデータを持つロケーションに対して通知を送信するには、次の手順を実行します。

a. [Filterby Metadata] チェックボックスをオンにします。

b. [Filter] 領域で、[Add Metadata]ボタンをクリックします。

[Choose Location Metadata] ウィンドウが表示されます。

c. ドロップダウン リストから、メタデータの変数を選択し、隣接フィールドに変数の値を選択します。

d. [OK]をクリックします。

特定のメタデータを持つロケーションに対する通知の送信を除外するには、次の手順を実行します。

a. [Filter by]チェックボックスをオンにします。

b. [Filter] 領域で、[Add Metadata]ボタンをクリックします。

[Choose Location Metadata] ウィンドウが表示されます。

c. ドロップダウン リストから、メタデータの変数を選択し、隣接フィールドに変数の値を選択します。

d. [OK]をクリックします。

ステップ 6　[IDENTIFY] 領域で、ビジネス ユーザに通知を送信する顧客のタイプを指定します。

（注） ビジネス ユーザに通知を送信する顧客は、顧客がオプトイン ユーザかどうか、顧客が属するタグ、顧客の訪問回数、および顧客デバイスのアプリケーションのステータスに基づいてフィルタリングすることができます。これらのフィルタをすべて適用することも、要件に応じて一部を適用することもできます。

ビジネス ユーザに通知を送信する顧客を指定するには、次の手順を実行します。

a. オプトイン ステータスにより顧客をフィルタリングする場合、[Filter by OptIn Status] チェックボックスをオンにして、[Only for] ドロップダウン リストから、オプトイン ユーザまたは非オプトイン ユーザのどちらに通知を送信するかを選択します。

注　オプトイン ユーザの詳細については、「オプトイン ユーザ」セクション（6-6 ページ）を参照してください。

b. タグに基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by Tags]チェックボックスをオンにします。

注　2 つの異なる方法でタグをフィルタリングできます。通知を送信するタグを指定するか、通知を送信してはならないタグを指定することができます。要件に基づいて、最適なフィルタリング方法を選択できます。たとえば、1 つのタグを除くすべてのタグに対してビジネス ユーザに通知を送信する場合、除外オプションを選択し、通知を送信しない特定のタグを指定する方法が簡単です。

- 通知が選択したタグの顧客のビジネス ユーザに送信されるようにタグを含めるには、[Include] の [Add Tags]ボタンを使用します。
- 除外するタグの顧客のビジネス ユーザに通知を送信しないようにするには、[Exclude] の [Add Tags]ボタンを使用します。

タグ フィルタの使用の詳細については、「タグによるフィルタリング」セクション（6-5 ページ）を参照してください。

c. 選択したロケーションの顧客のアクセスの数に基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by Previous Visits]チェックボックスをオンにします。

[Add Locations]ボタンをクリックします。[Choose location] ウィンドウで、フィルタリングについて検討する必要がある顧客のアクセス先を選択します。次のフィールドで、通知を送信するために必要な訪問回数および継続時間を指定します。自分で設定できるアクセスと時間の詳細については、「通知基準」セクション（5-18 ページ）を参照してください。

d. 顧客のアプリケーション ステータスに基づく顧客のフィルタリングを行う場合は、[Filter by App Status]チェックボックスをオンにします。[Filter by the users who] ドロップダウン リストから、通知を送信するアプリケーション ユーザのステータスを選択します。

ステップ 7　[Schedule] 領域で、エンゲージメント ルールを適用する期間を指定します。

a. [Set a time range for the rule] チェックボックスをオンにし、表示されるフィールドで、エンゲージメント ルールを適用する時間範囲を指定します。

b. [Set a date range for the rule] チェックボックスをオンにし、表示されるフィールドで、エンゲージメント ルールを適用する期間の開始日と終了日を指定します。

c. 特定の日にのみルールを適用する場合、[Filter by days of the week] チェックボックスをオンにし、表示される曜日のリストからエンゲージメント ルールを適用する曜日をクリックします。

ステップ 8　[Actions] 領域で、次の手順を実行します。

a. [Notify]ドロップダウン リストから [Notify Business User] を選択し、隣のドロップダウン リストから次のいずれかを選択します。

- Only Once：通知は一度だけビジネス ユーザに送信されます。
- Once In：通知は指定した通知頻度に基づいて複数回ビジネス ユーザに送信されます。このオプションを選択すると表示される追加のフィールドで、通知頻度を指定します。通知頻度の詳細については、「通知頻度」セクション（5-19 ページ）を参照してください。

注　名、姓、携帯電話の番号などの変数を通知メッセージに表示するには、ポータルで [Data Capture] モジュールを設定する必要があります。ポータルで [Data Capture] モジュールを設定する方法の詳細については、「ポータルへの [Data Capture] モジュールの追加」セクション（7-9 ページ）を参照してください。

b. SMS で通知を送信する場合、[Via SMS] チェックボックスをオンにします。[SMS Gateway] ドロップダウン リストから、SMS 通知を送信する SMS ゲートウェイを選択します。シスコが提供する有料のデフォルト ゲートウェイを使用できます。[ADD SMS Gateway] ボタンを使用して [SMS Gateways] を [WiFi Engage] に追加できます。表示される [To] フィールドで、通知を送信するビジネス ユーザの携帯電話の番号を入力します。[Link] フィールドで、通知に表示する必要があるエンゲージメント URL を入力します。エンゲージメント URL の設定の詳細については、「エンゲージメント URL」セクション（5-18 ページ）を参照してください。Smart Link オプションを使用すると、URL を強化することができます。追加できる変数を表示するには、「$」を入力するか、隣の [Add Variable] ドロップダウン リストをクリックします。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

ビジネス ユーザに送信されるメッセージの内容は、次のテキスト ボックスに表示されます。スマート リンクを使用してメッセージを強化することができます。デフォルトでは、顧客の名および姓、およびエンゲージメント URL が変数として追加されます。追加のスマート リンク変数は、[Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、テキスト ボックスに「$」を入力することにより追加できます。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

c. 電子メールで通知を送信する場合、[Via Email] チェックボックスをオンにします。[From] フィールドで電子メールに表示する差出人の電子メール ID を指定し、[To] テキスト フィールドで通知を送信するビジネス ユーザの電子メール ID を入力し、[Subject] フィールドで通知の電子メールの件名を入力します。[Link] フィールドで、通知に表示する必要があるエンゲージメント URL を入力します。エンゲージメント URL の設定の詳細については、「エンゲージメント URL」セクション（5-18 ページ）を参照してください。Smart Link オプションを使用すると、URL を強化することができます。[Link] フィールドで、スマート リンクで追加できる変数を表示するために「$」を入力するか、横の [Add Variable] ドロップダウン リストをクリックします。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

ビジネス ユーザに送信されるメッセージの内容は、次のテキスト ボックスに表示されます。スマート リンクを使用してメッセージを強化することができます。デフォルトでは、顧客の名および姓、およびエンゲージメント URL が変数として追加されます。追加のスマート リンク変数は、[Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、テキスト ボックスに「$」を入力することにより追加できます。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

d. 外部 API に通知を送信するには、[Trigger API] チェックボックスをオンにします。

- [URI] テキスト フィールドに、API の URI を入力します。スマート リンクを使用して通知メッセージに顧客の詳細を含めることができます。[Add Variable] ドロップダウン リストをクリックするか、テキスト ボックスに「$」を入力して変数を表示します。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。
- [Method] ドロップダウン リストから、API をトリガーするメソッドを選択します。

注　API URI またはメソッド パラメータにスマート リンク変数を追加することで、通知メッセージに顧客の詳細を追加できます。

  - Get：get メソッドを使用して API に通知を送信します。このメソッドを選択すると、要求パラメータを指定できる追加のフィールドが表示され、顧客の名、姓、携帯番号などの追加情報を通知に含めることができます。API で定義された要求パラメータのキーを追加し、スマート リンクを使用して、これらの値を指定できます。値はハードコード値または変数のどちらでもかまいません。隣接する [Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、または値フィールドに「$」を入力して、スマート リンク変数を追加できます。ス

マート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。[add]ボタンを使用して、さらに「get パラメータ」を追加できます。

- Post Form：post form メソッドを使用して API に通知を送信します。このメソッドを選択すると、form パラメータを指定できる追加のフィールドが表示され、顧客の名、姓、携帯番号などの追加情報を通知に含めることができます。API に定義されている form パラメータのキーを追加し、それらの値を指定できます。値は、ハードコード値または変数のどちらでもかまいません。隣接する [Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、または値フィールドに「$」を入力して、form パラメータ変数として変数を追加できます。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。[add] ボタンを使用して、さらに「form パラメータ」を追加できます。
- Post Json：post json メソッドを使用して API に通知を送信します。このメソッドを選択すると、API に通知メッセージとして送信する json データを指定できるテキスト ボックスが表示されます。API で定義されるさまざまな json フィールドの json 値を指定できます。値はハードコード値または変数のどちらでもかまいません。隣接する [Add Variable] ドロップダウン リストを使用するか、またはテキスト ボックスに「$」を入力して、json 値として変数を追加できます。スマート リンクの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。
- Post Body：post body メソッドを使用して API に通知を送信します。このメソッドを選択すると、API に送信する通知に含める必要がある内容を指定できる追加のフィールドが表示されます。

注　ポータルの [Data Capture] モジュールを使用してキャプチャするように設定されたこれらのスマート リンク変数だけが通知に含まれます。

（注）　ルールの概要がページの右側に表示されます。

ステップ 9　[Save]をクリックします。

ルールが [Engagement Rules] ページにパブリッシュされます。

ステップ 10　ウィンドウの右端に表示される [Make Rule Live]アイコンをクリックします。

エンゲージメント ルールがパブリッシュされます。

例

ABC は、世界中にホテルを持つホテル グループです。ABC には特権のある多数の顧客がいて、主にホテルを利用するビジネス ユーザです。25 周年記念の一環として、ABC はロケーション A の最初のホテルを訪問するプラチナ ロイヤルティ メンバーに特別なギフトを提供します。ABC は、ロケーション A またはロケーション C にあるホテルを過去 2 年間に 10 回以上訪問したことがあるすべての顧客をプラチナ ロイヤルティ メンバーとみなしています。ABC は、カスタマー ケア担当者が顧客に直接会って顧客にギフトを渡すことを考えています。ABC は、SMS によってプラチナ ロイヤルティ メンバーの到着についてカスタマー ケア担当者に通知を送信します。通知は、顧客がロケーションに入るときにオプトイン ユーザに対して送信する必要があります。通知は今月の間だけ送信します。ABC は顧客について 1 回だけ通知を送信します。

上記のシナリオの条件を満たすには、次の手順を実行します。

ABC は、世界中にホテルを持つホテル グループです。ABC には特権のある多数の顧客がいて、主にホテルを利用するビジネス ユーザです。25 周年記念の一環として、ABC はロケーション A の最初のホテルを訪問するプラチナ ロイヤルティ メンバーに特別なギフトを提供します。ABC は、ロケーション A またはロケーション C にあるホテルを過去 2 年間に 10 回以上訪問したことがあるすべての顧客をプラチナ ロイヤルティ メンバーとみなしています。ABC は、カスタマー ケア担当者が顧客に直接会って顧客にギフトを渡すことを考えています。ABC は、電子メールによってプラチナ ロイヤルティ メンバーの到着についてカスタマー ケア担当者に通知を送信します。通知は、顧客がロケーションに入るときにオプトイン ユーザに対して送信する必要があります。通知は今月の間だけ送信します。ABC は顧客について 1 回だけ通知を送信します。

上記のシナリオの条件を満たすには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage にログインします。

ステップ 2　ABC のすべてのロケーションを含むロケーション階層を作成します。

ステップ 3　[Profile Rule] を使用して、プラチナ ロイヤルティ メンバーに対するタグ **Platinum** を作成します。ルールでは、ロケーション A またはロケーション C を過去 2 年間に 10 回以上訪問した顧客をフィルタリングする必要があります。この条件のタグの作成方法の詳細については、「プロファイル ルールを使用したタグの作成または既存のタグへの顧客の追加または除外」セクション（6-1 ページ）の例を参照してください。

ステップ 4　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Engagement Rule]の順に選択します。

ステップ 5　[Create a new rule]をクリックします。

ステップ 6　[RULE NAME] フィールドに、新しいエンゲージメント ルールの名前を入力します。

ステップ 7　[When a user is on] ドロップダウン リストから [WiFi]を選択し、表示されるドロップダウン リストから、[Entering Location] を選択します。

ステップ 8　[Locations] 領域で、[Add Locations]ボタンをクリックし、ロケーション A を選択します。ABC が顧客にギフトを提供するロケーションです。

ステップ 9　[IDENTIFY] 領域で、以下を実行します。

a. [Filter by OptIn Status] チェックボックスをオンにし、[Only for] ドロップダウン リストから [Opted In Users]を選択します。

b. [Filter by Tags]チェックボックスをオンにし、フィルタの [Add Tags] ボタンをクリックします。

c. [Choose Tags] ウィンドウで、ステップ 3 で作成した **Platinum1** の [Include] ラジオ ボタンをクリックし、[Done] をクリックします。

ステップ 10　[Schedule] 領域で、以下を実行します。

a. [Set a date range for the rule] チェックボックスをオンにし、ABC がオファーを提供する今月の開始日と終了日を指定します。

ステップ 11　[Actions] 領域で、以下を実行します。

a. [Notify] ドロップダウン リストから、[Notify Business User]を選択します。

b. 隣のドロップダウン リストから、[Only Once]を選択します。

c. [Via Email] チェックボックスをオンにします。[From] フィールドで電子メールに表示する差出人の電子メール ID を指定し、[To] テキスト フィールドで通知を送信するビジネス ユーザの電子メール ID を入力し、[Subject] フィールドで通知の電子メールの件名を入力します。必要に応じて、[Link] フィールドで顧客に提供するサービスを決定するためにカスタマー ケア担当者が表示できるサイトの URL を指定します。

注　サイトは EMSP Studio を使用して作成できます。

ステップ 12　[Save]をクリックします。

ルールが [Engagement Rules] ページにリストされます。

ステップ 13　ルールをパブリッシュするには、ルールの右端にある [Make Rule Live]アイコンをクリックします。

エンゲージメント ルールがパブリッシュされます。

これで、Bluetooth をオンにしてオプトイン プラチナ ロイヤルティ メンバーがロケーション A のビーコン構内の遠くにいると、ロケーション A のカスタマー ケア担当者に通知が送信されます。

エンゲージメント URL

エンゲージメント URL とは、ユーザに送信されるプッシュおよび SMS 通知メッセージで提供される URL のことです。ユーザがこの URL をクリックすると、通知に関連するサイト ページを表示することができます。たとえば、顧客が使用可能なディスカウントおよびオファーの詳細情報をサイト ページで提供することができます。

サイト ページは、Enterprise Mobility Services Platform Studio を使用して作成できます。このサイト ページは、他のサイト作成アプリケーションを使用して作成することもできます。プッシュ通知にエンゲージメント URL を使用するには、Enterprise Mobility Services Platform Studio を使用してサイト ページを作成する必要があります。Enterprise Mobility Services Platform Studio を使用してサイト ページを作成する方法の詳細については、『Cisco Enterprise Mobility Services Platform Studio Configuration Guide』を参照してください。

通知基準

通知を送信する基準となる各種の条件を定義することができます。

- Atleast ..Times：顧客の訪問回数が指定した数になるとルールが適用されます。
  - Last 7 days：過去 7 日間の顧客の訪問回数が指定した数になるとルールが適用されます。
  - Last 15 days：過去 15 日間の顧客の訪問回数が指定した数になるとルールが適用されます。
  - Last 30 days：過去 30 日間の顧客の訪問回数が指定した数になるとルールが適用されます。
  - Last 90 days：過去 90 日間の顧客の訪問回数が指定した数になるとルールが適用されます。
  - This Week：今週の顧客の訪問回数が指定した数になるとルールが適用されます。
  - This Month：今月の顧客の訪問回数が指定した数になるとルールが適用されます。
  - This Year：今年の顧客の訪問回数が指定した数になるとルールが適用されます。
  - Date Range：特定の期間の顧客の訪問回数が指定した数になるとルールが適用されます。このオプションを選択すると、追加のフィールドが表示され、期間の開始日と終了日を指定できます。
- Between, ..Times：顧客の訪問回数が指定した数の範囲内にあるときにルールが適用されます。
  - Last 7 days：過去 7 日間の顧客の訪問回数が指定した数の範囲になるとルールが適用されます。
  - Last 15 days：過去 15 日間の顧客の訪問回数が指定した数の範囲になるとルールが適用されます。

- Last 30 days：過去 30 日間の顧客の訪問回数が指定した数の範囲になるとルールが適用されます。
- Last 90 days：過去 90 日間の顧客の訪問回数が指定した数の範囲になるとルールが適用されます。
- This Week：今週の顧客の訪問回数が指定した数の範囲になるとルールが適用されます。
- This Month：今月の顧客の訪問回数が指定した数の範囲になるとルールが適用されます。
- This Year：今年の顧客の訪問回数が指定した数の範囲になるとルールが適用されます。
- Date Range：特定の期間の顧客の訪問回数が指定した数の範囲になるとルールが適用されます。このオプションを選択すると、追加のフィールドが表示され、期間の開始日と終了日を指定できます。

通知タイプ

WiFi Engage は、次の形式で通知を送信できます。

- SMS：SMS として通知を送信します。
- Push Notification：アプリケーションからプッシュ メッセージとして通知を送信します。このオプションを選択すると、このルールの SMS または電子メール通知は設定されていても送信されません。ただし、プッシュ通知の送信が失敗した場合、WiFi Engage は通知を送信するために設定されたその他の通知タイプを使用します。このオプションを使用するには、アプリケーションを設定する必要があります。アプリケーションの設定の詳細については、「アプリケーションの設定」セクション（5-3 ページ）を参照してください。
- BLE Notification：BLE 通知として通知を送信します。この通知方法は、[Sense] が [BLE Beacon] として選択されている場合にのみ使用できます。
- Email：電子メールとして通知を送信します。ビジネス ユーザの場合、通知の送信先とする電子メール アドレスを定義できます。
- API Notifications：外部アプリケーションに API 通知を送信します。WiFi Engage はサードパーティ アプリケーションに通知を送信することができます。

通知頻度

エンゲージメント ルールで通知を送信する頻度です。エンゲージメント ルールには次の通知頻度を設定できます。

- Only Once：ユーザに一度だけ通知を送信します。
- Once in：指定された期間に一度通知を送信します。
  - Visits：顧客の訪問回数が指定した数になると通知を送信します。
  - Hours：指定した時間数に一度通知を送信します。
  - Days：指定した日数に一度通知を送信します。
  - Weeks：指定した週数に一度通知を送信します。
  - Months：指定された月数に一度通知を送信します。

EMSP SDK のダウンロード

WiFi Engage の特定の機能を利用するには、アプリケーションを EMSP SDK と統合する必要があります。WiFi Engage ダッシュボードからこのアプリケーションをダウンロードし、アプリケーションと統合することができます。SDK をアプリケーションと統合する方法について説明しているヘルプ ドキュメントをダウンロードすることもできます。

SDK オプションは、SDK ライセンスがある場合にのみ WiFi Engage ダッシュボードで利用できます。

SDK アプリケーション統合は次の場合に必須です。

- エンゲージメント ルールで BLE ビーコンおよびアプリケーションを使用して通知を送信する場合。
- EMSP Studio モジュールを使用してアプリケーション機能をカスタマイズする場合。

EMSP SDK をダウンロードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの [Tools] アイコンをクリックします。

ステップ 2　[SDK] タブをクリックします。

[SDK] ウィンドウには、iOS と Android アプリケーションの両方の SDK が含まれています。

ステップ 3　SDK が必要なアプリケーションのタイプのダウンロード オプションをクリックします。

ステップ 4　システムに SDK を保存します。

ステップ 5　ヘルプ ドキュメントで提供される手順に基づいてアプリケーションと統合します。

（注）　SDK クレデンシャルにアクセスするには、[Copy SDK Credentials] ボタンをクリックします。

（注）　iOS または Android アプリケーションのヘルプ ドキュメントをダウンロードするには、それぞれのアプリケーションの [Help] ボタンをクリックします。

エンゲージメント ルール レポート

WiFi Engage では、各エンゲージメント ルールに固有のレポートを表示することができます。このレポートは、特定のルールに関するルール アクティビティおよびユーザ エンゲージメントの詳細を表示します。

有効なルールについてのエンゲージメント ルール レポートのみを表示できます。

エンゲージメント ルールのエンゲージメント ルール レポートを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[ProximityRules] > [Engagement Rule] の順にクリックします。

定義されているエンゲージメント ルールがリストされます。

ステップ 2　エンゲージメント ルール レポートを表示するエンゲージメント ルールをクリックします。

そのルールのエンゲージメント ルール レポートが表示されます。

ステップ 3　[Filter] 領域で、レポートを表示する期間を選択します。

レポートは指定された期間に対してフィルタリングされます。

エンゲージメント ルール レポートには次のセクションがあります。

- Rule Activity（5-21 ページ）
- User Insight（5-21 ページ）

Rule Activity

このセクションには、特定のエンゲージメント ルールに基づいて送信された通知の詳細が表示されます。

- Daily Engagements：特定のエンゲージメント ルールに基づく日ごとの「通知の送信先の固有ユーザ」に対する「送信された通知数」の比率を表示します。グラフの各バーは、通知が送信された日の時間を表します。日ごとにその日の全時間を表す 24 本のバーがあります。
- Engagements by Location：このセクションには、対象の各ロケーションに送信された通知の総数が表示されます。
- Engagement by Time of Day：この棒グラフは、1 日の各時間にユーザに送信された通知の数を表示します。これにより、ルールでフィルタリングされたユーザがビジネス構内にいる時間を特定し、それに応じてターゲットにすることができます。
- Notification Channels：この棒グラフは、特定のルールでユーザに通知を送信する際に使用された SMS、電子メール、アプリケーション通知などの通知タイプの比率を表します。

User Insight

このセクションは、特定のルールの対象となったユーザの詳細を表示します。

- User Profile：このセクションは、特定のエンゲージメント ルールで通知が送信されたユーザの総数を表示します。
- このセクションの円グラフは、対象のユーザにおいてタグが付けられなかったユーザに対するタグ付きのユーザの比率を表示します。タグ付きのユーザとは、WiFi Engage で作成された任意のタグに含まれるユーザのことです。また、含まれる対象ユーザの数が大きい 5 つのタグも表示されます。
- このセクションにはまた、ルールに基づいて対象となるユーザの男性と女性の比率も表示されます。
- Dwell Time Distribution：この円グラフは、対象のロケーションにおける各訪問の継続時間を表示します。滞留時間の各範囲に該当する訪問の継続時間もこのセクションに表示されます。たとえば、[<5 MINS] の数は、対象のロケーションに 5 分未満滞在した訪問の数を表します。
- Repeat User Engagement：この円グラフは、ルールでフィルタリングされた各顧客に通知が送信された回数を表示します。繰り返しの訪問回数の各範囲に該当するユーザの数もこのセクションに表示されます。
- Users by Visit Count：この円グラフは、対象のロケーションでの対象ユーザごとの訪問回数の比率を表示します。また、訪問回数の各範囲に該当するユーザの数も表示されます。

CHAPTER 6

タグを管理するプロファイル ルールの定義

タグは、顧客をグループ化して、キャプティブ ポータルを表示または通知を送信するルールを顧客のグループに適用できるようにするために使用します。複数のタグの下に顧客をグループ化できます。

プロファイル ルールを使用して、タグを作成、既存のタグに顧客を追加、または既存のタグから特定の顧客を削除できます。

タグを作成するときに、既存のタグを使用して、選択したロケーションの顧客をフィルタリングできます。たとえば、ロケーション A とロケーション B のタグを作成するときに Android ユーザに限定したい場合、iOS のタグを削除するタグ フィルタを使用できます。

プロファイル ルールを使用したタグの作成または既存のタグへの顧客の追加または除外

タグを作成、または顧客を既存のタグに含めるまたは除外するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Profile Rule]の順に選択します。

ステップ 2 [Create a new rule]をクリックします。

ステップ 3 [Rule Name] テキスト フィールドに、プロファイル ルールの名前を入力します。

ステップ 4 [Sense] 領域で、[When a user is on] ドロップダウン リストから、顧客の Wi-Fi への接続または BLE ビーコンへのアクセスに基づくルールで、顧客をフィルタリングするかどうかを選択します。

a. [WiFi] を選択すると追加のフィールドが表示され、次のいずれかを選択できます。

- Entering Location：Wi-Fi に接続された顧客がそのロケーションに入ったときに、ルールに応じてフィルタリングされます。
- Exiting Location：Wi-Fi に接続された顧客がそのロケーションから出たときに、ルールに応じてフィルタリングされます。
- Present at location：Wi-Fi に接続され、指定した時間または期間に、そのロケーションにいる顧客がルールに応じてフィルタリングされます。このオプションを選択すると、追加のフィールドが表示されて、顧客がフィルタ対象となる期間または時間を指定できます。

b. [Beacon] を選択すると追加のフィールドが表示され、次のいずれかを選択できます。

- Beacon Enter：ビーコン構内に入った顧客が、ルールに応じてフィルタリングされます。
- Beacon Exit：ビーコン構内から出た顧客が、ルールに応じてフィルタリングされます。

- Far：ビーコン構内にいるものの BLE ビーコンから離れている顧客が、ルールに応じてフィルタリングされます。
- Near：BLE ビーコンの近くにいる顧客が、ルールに応じてフィルタリングされます。
- Immediate：BLE ビーコンに非常に近い顧客が、ルールに応じてフィルタリングされます。
- Present at location：指定した時間または期間そのロケーションにいる顧客が、ルールに応じてフィルタリングされます。このオプションを選択すると、追加のフィールドが表示されて、ルールに応じて、フィルタ対象となる期間または時間を指定できます。

ステップ 5　[Location] 領域で、ルールに応じて顧客をフィルタリングするロケーションを指定します。

CUWN の顧客名、または 1 つまたは複数の MSE、グループ、キャンパス、ビルディング、フロア、ゾーンを選択できます。ロケーションの作成の詳細については、「ロケーション階層の定義」セクション（3-2 ページ）を参照してください。

また、選択したロケーション、またはその親や子のロケーションに定義されているメタデータに基づいてロケーションをフィルタリングできます。ロケーションに対するメタデータの設定の詳細については、「ロケーション要素のメタデータの定義」セクション（3-7 ページ）を参照してください。特定のメタデータのロケーションを選択、または特定のメタデータのロケーションを除外することができます。

ロケーションを指定するには、次の手順を実行します。

a.　[Add Locations]ボタンをクリックします。

b.　表示される [Choose Location] ウィンドウで、プロファイル ルールのロケーションを選択します。

c.　[OK]をクリックします。

特定のメタデータのロケーションを含めるには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[Filterby Metadata] チェックボックスをオンにします。

ステップ 2　[Filter] 領域で、[Add Metadata]ボタンをクリックします。

[Choose Location Metadata] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3　ドロップダウン リストから、メタデータの変数を選択し、隣接フィールドに変数の値を選択します。

ステップ 4　[OK]をクリックします。

特定のメタデータのロケーションを除外するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[Filterby Metadata] チェックボックスをオンにします。

ステップ 2　[Exclude] 領域で、[Add Metadata]ボタンをクリックします。

[Choose Location Metadata] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3　ドロップダウン リストから、メタデータの変数を選択し、隣接フィールドに変数の値を選択します。

ステップ 4　[OK]をクリックします。

ステップ 5　[IDENTIFY] 領域で、ルールに応じてフィルタリングする顧客のタイプを指定します。

(注)　顧客がオプトイン ユーザかどうか、顧客が属するタグ、顧客のアクセス回数、顧客のデバイスのアプリケーションの状態などに基づいて顧客をフィルタリングできます。これらのフィルタをすべて適用することも、要件に応じて一部を適用することもできます。

ルールに応じてフィルタリングする顧客を指定するには、次の手順を実行します。

a. オプトイン ステータスにより顧客をフィルタリングする場合、[Filter by OptIn Status] チェックボックスをオンにし、[Only for] ドロップダウン リストから、ルールに対しオプトイン ユーザまたは非オプトイン ユーザのどちらをフィルタリングするかを選択します。

(注)　オプトイン ユーザの詳細については、「オプトイン ユーザ」セクション(6-6 ページ)を参照してください。

b. タグに基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by Tags]チェックボックスをオンにします。

注　既存のタグを含む、または除外することによって、顧客をフィルタリングできます。2 つの異なる方法でタグをフィルタリングできます。ルールに応じて含める顧客の既存のタグ、またはルールに応じて除外する顧客の既存のタグを指定できます。要件に基づいて、最適なフィルタリング方法を選択できます。たとえば、1 つのタグを除くすべての既存のタグの顧客を追加する場合、除外オプションを選択し、顧客を除外する特定のタグを指定する方法が簡単です。

- 含めるタグを指定するには「含める」ために [Add Tags]ボタンを使用します。
- 除外するタグを指定するには「除外する」ために [Add Tags]を使用します。

タグ フィルタの使用の詳細については、「タグによるフィルタリング」セクション(6-5 ページ)を参照してください。

c. 選択したロケーションの顧客のアクセスの数に基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by Previous Visits]チェックボックスをオンにします。

[Add Locations]ボタンをクリックします。[Choose location] ウィンドウで、フィルタリングについて検討する必要がある顧客のアクセス先を選択します。次のフィールドで、ルールに応じてフィルタ対象となる顧客のアクセス数および時間を指定します。自分で設定できるアクセスと時間の詳細については、「通知基準」セクション(5-18 ページ)を参照してください。

d. 顧客のアプリケーションのステータスに基づいて顧客をフィルタリングするには、[Filter by App Status]チェックボックスをオンにします。[Filter by the users who] ドロップダウン リストから、ルールに応じてフィルタ対象となる顧客のアプリケーションのステータスを選択します。

ステップ 6　[Schedule] 領域で、顧客をフィルタリングするルールを適用する期間を指定します。

(注)　指定した期間で前述の条件を満たす顧客のみがルールに応じてフィルタリングされます。

a. [Set a time range for the rule] チェックボックスをオンにし、表示されるフィールドに、プロファイル ルールを適用する時間範囲を指定します。

b. [Set a date range for the rule] チェックボックスをオンにし、表示されるフィールドに、プロファイル ルールを適用する期間の開始日と終了日を指定します。

c. 特定の曜日にだけルールを実行するには、[Filter by days of the week] チェックボックスをオンにし、表示される曜日のリストから、ルールを適用する曜日を選択します。

ステップ 7　[Action] 領域で、前述の条件に基づきフィルタリングされた顧客を含めるまたは除外することで新しいタグを作成するかどうかを指定します。

a. 「選択する」ために +ボタンをクリックします。

- 既存のタグからフィルタリングされた顧客を追加または削除するには、フィルタリングされた顧客を含めるタグ、およびフィルタリングされた顧客を除外するタグを指定します。
  - 既存のタグにこのプロファイル ルールに基づいてフィルタリングされた顧客を追加するには、顧客を追加するタグの [Add] ラジオ ボタンを選択します。
  - 既存のタグからこのプロファイル ルールに基づいてフィルタリングされた顧客を削除するには、顧客を削除するタグの [Remove] ラジオ ボタンを選択します。

注　[Choose Tags] ウィンドウで、[Search] オプションを使用してタグを検索できます。タグの [Clear] ボタンを使用して、選択したタグをクリアすることもできます。選択したタグはウィンドウの右側に表示されます。

- ルールを含む新しいタグを作成するには、[Create New Tag]ボタンをクリックします。フィルタリングされた顧客を追加するか、フィルタリングされた顧客を削除することで、新しいタグを作成できます。表示された [New Tag] フィールドに、タグの名前を入力します。プロファイルルールに基づいてフィルタリングされた顧客の追加によってタグを作成する場合、[Add] ラジオ ボタンを選択します。または、プロファイル ルールに基づいてフィルタリングされた顧客を除外するタグを作成する場合、[Remove]ラジオ ボタンを選択します。[Save] をクリックします。

b. 必要なタグをすべて追加したら、[OK]をクリックします。

(注)　プロファイル ルールを使用して、フィルタリングされた顧客を含む、または除外するタグを作成する、または同様に、フィルタリングされた顧客を含む、または除外することで既存のタグを変更できます。

(注)　ルールの概要がページの右側に表示されます。

ステップ 8　[Save]をクリックします。

ルールは [Profile Rules] ページでパブリッシュされます。

ステップ 9　ルールの右端にある [Make Rule Live]アイコンをクリックし、ルールをパブリッシュします。

プロファイル ルールがパブリッシュされます。

例

ABC ホテル グループは 25 周年記念の一環として、プラチナ メンバーに特別なギフトを提供したいと考えています。ABC はロケーション A またはロケーション C のホテルを過去 2 年間で少なくとも 10 回訪れた顧客をプラチナ メンバーと見なします。WiFi に少なくとも 45 分間接続したすべての訪問者を顧客とみなします。ABC はプラチナ メンバー用のタグを作成する必要があります。現在の月末までに前述の条件を満たすオプトイン顧客がタグに追加されます。

上記のシナリオの条件を満たすには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage にログインします。

ステップ 2　ABC のすべてのロケーションを含むロケーション階層を作成します。

ステップ 3　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Profile Rule]の順に選択します。

ステップ 4　[Create a new rule]をクリックします。

ステップ 5　[RULE NAME] フィールドに、プロファイル ルールの名前を入力します。

ステップ 6　[When a user is on]ドロップダウン リストから、[WiFi]、[Present at Location] の順に選択し、表示されるドロップダウン リストから、[45 Minutes] を選択します。

ステップ 7　[Locations] 領域で、[Add Locations]ボタンをクリックし、ロケーション A、ロケーション C を選択します。

ステップ 8　[IDENTIFY] 領域で、以下を実行します。

a. [Filter by OptIn Status] チェックボックスをオンにし、[Only for] ドロップダウン リストから [Opted In Users]を選択します。

b. [Filter by Previous Visits]チェックボックスをオンにし、[Add Locations] ボタンをクリックして、[Location A]、[Location C] を追加します。

c. 次のフィールドで、[At least]、[10times in] および [Date Range] を選択します。

d. 日付範囲のフィールドに、過去 2 年間の開始日と終了日を入力します。

ステップ 9　[Schedule] 領域で、[Set a date range for the rule] チェックボックスをオンにし、開始日に現在の日付を、終了日に今月の最終日を指定します。

ステップ 10　[Actions] 領域で、以下を実行します。

a. 選択するために +ボタンをクリックします。

b. [Create Tags] ウィンドウで、[Create New Tag]をクリックします。

c. [New Tag] フィールドに、[Platinum1]を入力し、[Add] ラジオ ボタンを選択して、[Done] をクリックします。

ステップ 11　[Save]をクリックします。

ルールは [Profile Rules] ページでパブリッシュされます。

ステップ 12　ルールの右端にある [Make Rule Live]アイコンをクリックし、ルールをパブリッシュします。

プロファイル ルールがパブリッシュされます。

タグによるフィルタリング

フィルタリング用にタグを含む、または除外することを選択できます。

タグを含める

タグを含めるには、次の手順を実行します。

ステップ 1　新しいプロファイル ルールを作成するウィンドウの [Filter by Tags] 領域で、含めるために [Add Tags]ボタンをクリックします。

ステップ 2　[Choose Tags] ウィンドウで、追加するタグの [Include] ラジオ ボタンをクリックします。

ステップ 3　[OK]をクリックします。

タグの除外

タグを除外するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　新しいプロファイル ルールを作成するウィンドウの [Filter by Tags] 領域で、除外するために [Add Tags]ボタンをクリックします。

ステップ 2　[Choose Tags] ウィンドウで、除外するタグの [Exclude] ラジオ ボタンをクリックします。

ステップ 3　[OK]をクリックします。

タグの検索

タグを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　新しいルールを作成するウィンドウの [Filter by Tags] 領域で、含めるまたは除外するために [Add Tags]ボタンをクリックします。

ステップ 2　[Choose Tags] ウィンドウに、検索するタグの名前を入力します。

タグのリストが検索結果でフィルタリングされます。

タグのクリア

タグの [Include] または [Exclude] ラジオ ボタンを選択する場合、そのタグの [Clear] ボタンを使用して、選択内容をクリアすることができます。

オプトイン ユーザ

WiFi Engage により、顧客に通知サブスクリプションからオプトアウトするためのキャプティブ ポータルのオプションを提供できます。

デフォルトでは、顧客はサブスクリプションにオプトインされています。顧客はキャプティブ ポータルにアクセスするときに、サブスクリプションからオプトアウトできます。顧客が SSID に接続することでキャプティブ ポータルにアクセスすると、[opt in] チェックボックスが顧客に表示されます。

ポータルで、[Allow users to opt in to receive message] チェックボックスをオンにし、顧客にサブスクリプションを選択するオプションを提供します。[Allow users to opt in to receive message] オプションは、認証タイプ [Hard SMS with Verification Code] または [Email] で使用できます。

ポータルの作成と管理

この章では、さまざまなポータル モジュールの概要と、ポータル モジュールを使用してポータルを強化する方法を説明します。この章では、SMS ゲートウェイおよびソーシャル認証を設定する方法も説明します。ポータルの認定デバイスのリスト、キャプティブ ポータルの動作、および顧客のための認証手順もこの章に記載します。

- ポータル モジュール（7-1 ページ）
- ポータル管理（7-2 ページ）
- ポータルへのソーシャル認証（7-29 ページ）
- ポータルの認定デバイス リスト（7-32 ページ）
- WiFi Engage キャプティブ ポータルの動作（7-33 ページ）
- 顧客のための認証手順（7-37 ページ）
- Smart Link（7-42 ページ）

ポータル モジュール

WiFi Engage のポータル モジュールは次のとおりです。

- Authentication：このモジュールを使用してポータルの認証モードを設定します。認証なし、または SMS、電子メール、および Social Sign In による認証を使用したポータルへのアクセスを提供できます。
- Data Capture：このモジュールを使用してポータルにデータ キャプチャ フォームを追加します。データ キャプチャ フォームを使用すると、顧客がキャプティブ ポータルを使用してインターネットにアクセスする際に、顧客の詳細を収集することができます。このモジュールは、認証タイプ [Hard SMS with Verification Code] または [Email] を選択した場合のみ使用できます。
- Brand Name：このモジュールを使用してポータルのブランド名を定義します。ブランド名をテキストやロゴのイメージで追加できます。
- Notice：このモジュールを使用してポータルに通知を追加します。これにより、必要に応じてポータル ユーザに通知を表示できます。太字テキスト、テキスト、またはイメージ形式のテキストで通知するように設定できます。
- Welcome Message：このモジュールを使用してポータルにウェルカム メッセージを追加します。
- Venue Map：このモジュールを使用して、施設マップのラベルとアイコンを追加します。施設マップは、ロケーションに基づいて MSE からポータルにアップロードされます。

- Videos：このモジュールを使用してポータルにビデオを追加します。また、ポータルのビデオ セクションに適したキャプションとアイコンも追加できます。またアップロードすると、ビデオのプレビューを表示できます。
- Feedback：このモジュールを使用してポータルのフィードバックの質問を追加します。複数の選択肢と評価の質問を追加できます。このモジュールにより、[Submit] ボタン、[Thank You] メッセージ、および [Post Submission] ボタンのラベルもカスタマイズできます。コメントを追加するためのテキスト ボックスをユーザに表示するかどうかを設定するオプションがあります。また、フィードバックの電子メール アドレスおよび件名を指定することもできます。
- Help：このモジュールを使用して、ユーザがサポートを求める際に連絡するヘルプ ラインの番号を追加します。ヘルプのキャプションおよびアイコンをカスタマイズできます。
- Get Apps：このモジュールを使用してポータルにアプリケーションを追加します。このモジュールを使用して、各アプリケーションに適したキャプションとアイコンを追加できます。
- Get Internet：ユーザがポータルの [Get Internet] セクションから移動できる外部 URL を追加します。この URL にアクセスするには、指定された利用規約をユーザが承認する必要があります。
- Add Menu Item：このモジュールを使用して、ポータルにカスタマイズしたメニュー アイテムを追加します。前述のすべてのモジュールは、WiFi Engage によって提供されるデフォルトのモジュールです。[Add Menu Item] モジュールを使用すると、要件に応じてポータルに別のアイテムを追加できます。
- Promos & Offers：このモジュールを使用してポータルによって表示されるプロモーションやオファーを追加します。プロモーションのタイトルを変更できます。モジュールごとに適したキャプションとイメージを追加し、プロモーションの詳細の URL を指定できます。プロモーションは回転式で表示されます。
- Advertisement：このモジュールを使用してポータルに表示する広告を管理します。それぞれの広告主ごとにポータルの広告領域を分割し、広告主ごとにアカウントおよび領域 ID を設定できます。

ポータル管理

ポータルの作成方法については、「ポータルの作成」セクション（4-4 ページ）を参照してください。この項では、ポータル モジュールの次の機能を説明します。

- ポータルの言語の選択（7-3 ページ）
- ポータルへの認証の設定（7-5 ページ）
- ポータルへの [Data Capture] モジュールの追加（7-9 ページ）
- ポータルのブランド名の定義（7-11 ページ）
- ポータルへの通知の追加（7-11 ページ）
- ポータルへのウェルカム メッセージの追加（7-12 ページ）
- ポータルでの施設詳細の表示（7-13 ページ）
- ポータルでの [Feedback] セクションの提供
- ポータルへのビデオのアップロード（7-14 ページ）
- ポータルへのヘルプ オプションの追加（7-16 ページ）
- ポータルへのアプリケーションの追加（7-17 ページ）
- ポータルからのインターネットへのアクセスの提供（7-18 ページ）

- ポータルへのカスタマイズされたメニュー アイテムの追加（7-19 ページ）
- ポータルへのプロモーションとオファーの追加（7-20 ページ）
- ポータルのエクスポート（7-21 ページ）
- ポータルのスタイル シートの編集（7-22 ページ）
- ポータルの検索（7-23 ページ）
- ポータルのインポート（7-23 ページ）
- ポータルの削除（7-23 ページ）
- ポータル URL の電子メールでの送信（7-24 ページ）
- ポータルの QR コードの表示（7-25 ページ）
- エクスペリエンス ゾーン別のポータルのプレビュー（7-25 ページ）
- さまざまなデバイス上のポータルのプレビュー（7-25 ページ）
- ポータルの管理
- Enterprise Mobility Services Platform Studio URL のキャプティブ ポータル URL としての設定（7-26 ページ）
- WiFi Engage の SMS ゲートウェイの設定（7-28 ページ）

ポータルの言語の選択

WiFi Engage では、ポータル内のモジュールのキャプションや静的コンテンツを表示する言語を設定できます。英語以外の言語で静的コンテンツを表示するには、対応するテキストを WiFi Engage にアップロードする必要があります。WiFi Engage は、英語以外の言語でのコンテンツの入力をサポートしていません。デフォルトの言語は英語に設定されています。デフォルトの言語は変更できます。

（注）　WiFi Engage を使用して、ある言語で作成されたコンテンツを他の言語に翻訳することはできません。

ポータルの言語の設定

ポータルのコンテンツを表示する言語を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　言語を設定するポータルを開きます。

ステップ 2　[Language Support]アイコンをクリックします。

[Language Support] ウィンドウが表示されます

ステップ 3　[Add Language]をクリックします。

ステップ 4　表示される検索フィールドに、言語の名前を入力します。

この言語が WiFi Engage でサポートされている場合、言語名がドロップダウン リストに表示されます。

ステップ 5　言語名の隣に表示される [Add]ボタンをクリックします。

言語が [Added Languages] リストに追加されます。

ステップ 6　[Save]をクリックします。

ポータルで、追加された言語が [Language Support]アイコンの隣のドロップダウン リストに表示されます。

ステップ 7　[Language Support]アイコンの隣のドロップダウン リストからポータルのコンテンツを表示する言語を選択します。

各モジュールのキャプションは、選択された言語で表示されます。

ステップ 8　メッセージ、国名などの静的コンテンツを表示するには、その言語でのキー値をアップロードします。任意の言語のキー値をアップロードするときの詳細については、任意の言語の静的コンテンツのキー値のアップロード（7-4 ページ）を参照してください。

デフォルト言語の設定

デフォルト言語を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ポータルで、[Language Support]アイコンをクリックします。

ステップ 2　[Language Support] ウィンドウで、[Set Default Language] ドロップダウン リストからデフォルト言語を選択します。

ステップ 3　[Save]をクリックします。

任意の言語の静的コンテンツのキー値のアップロード

静的コンテンツを英語以外の言語で表示するように設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[Language Support] ウィンドウで [Download]をクリックしてテンプレートをダウンロードし、保存します。

ステップ 2　テンプレートを開きます。

テンプレートには、さまざまな静的メッセージのキー値と、言語が英語である場合に表示されるメッセージが含まれています。英語の列には、1 行目に「en」と表示されています。

ステップ 3　英語の列の隣に、静的コンテンツを表示する言語の言語識別子を入力します。

たとえば、コンテンツをアラビア語で表示する場合は、1 行目に「AR」と入力します。

ステップ 4　残りの行には、対応するキーに対して表示する必要があるテキストを入力します。

ステップ 5　ファイルを保存します。

ステップ 6　[Language Support] ウィンドウで、[Upload]ボタンを使用してウィンドウをアップロードします。

静的コンテンツを任意の言語で表示する方法については、ポータルの言語の設定（7-3 ページ）を参照してください。

さまざまな言語の言語コードは、図 7-1のとおりです。

図 7-1　言語コード

ポータルへの認証の設定

ハッキングや悪用からポータルを保護するため、ポータルには、さまざまな認証オプションを設定することができます。ユーザは、認証が成功した場合のみアクセスできます。

インターネット プロビジョニングのための認証は、SMS、電子メール、または Facebook や Twitter などのソーシャル ネットワークを介して行うことができます。Hard SMS または Soft SMS を介して認証を行うように設定することもできます。WiFi Engage は、SMS 認証に関してサードパーティー ベンダーの SMS ゲートウェイをサポートしています。Hard SMS では、ポータル用のカスタム認証コードを定義するか、または認証コードを自動生成する設定を行うことができます。

[Hard SMS with Verification Code] オプションと [Email] オプションでは、WiFi Engage への顧客の登録を可能にする [Data Capture] モジュールをキャプティブ ポータルに追加することができます。これらのモジュールには、サブスクリプションのオプトインとオプトアウトを顧客が選択できる [Opted In] オプションもあります。

ポータルへの認証の設定

ポータルへの認証を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　認証の設定が必要なポータルを開きます。

ステップ 2　[Authentication]モジュールをクリックします。

[Authentication] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3　ポータルに適用する認証タイプを選択します。

WiFi Engage は、次の認証タイプをサポートしています。

- **Hard SMS with Verification Code**：顧客がインターネットにアクセスするには、有効な携帯電話の番号を入力する必要があります。すると、リンクと認証コードを含む SMS が携帯電話の番号に送信されます。顧客は、SMS 内の認証コードを入力することで、インターネットにアクセスできます。すると、設定されていれば、顧客が WiFi Engage への登録が

できる [Data Capture] 画面が表示されます。Hard SMS with Verification Code の使用方法の詳細については、「Hard SMS with Verification Code のためのポータル設定」セクション（7-7 ページ）を参照してください。

- **Social Sign In**：認証のために設定されているソーシャル サイトに顧客がログインしている場合のみ、インターネットへのアクセスが提供されます。このオプションを使用するには、少なくとも 1 つのソーシャル サイトを設定する必要があります。Social Sign In 認証を設定するときの詳細については、「Social Sign In 認証のためのポータル設定」セクション（7-8 ページ）を参照してください。
- **Soft SMS**：ユーザがインターネットにアクセスするには、有効な携帯電話の番号を入力する必要があります。すると、その携帯電話の番号に SMS が送信されます。ユーザは、携帯電話の番号が有効である場合のみ、インターネットにアクセスできます。詳細については、「Soft SMS 認証のためのポータルの設定」セクション（7-6 ページ）を参照してください。
- **Email**：ユーザがインターネットにアクセスするには、有効な電子メール ID を入力する必要があります。すると、設定されていれば、ユーザが WiFi Engage への登録ができる [Data Capture] 画面が表示されます。Email 認証を設定するときの詳細については、「Email 認証のためのポータルの設定」セクション（7-9 ページ）を参照してください。
- **認証なし**：認証なしでインターネットへのアクセスが提供されます。

（注）　オプトイン機能と [Data Capture] モジュールは、認証タイプが [Hard SMS with Verification Code] および [Email] の場合のみ使用できます。[Data Capture] モジュールを設定するときの詳細については、「ポータルへの [Data Capture] モジュールの追加」セクション（7-9 ページ）を参照してください。オプトイン機能の詳細については、「オプトイン ユーザ」セクション（6-6 ページ）を参照してください。

ステップ 4　ポータルへのアクセスを提供する前にユーザに利用規約の承認を求める場合、[WiFi Policy Terms and Conditions] チェックボックスをオンにし、テキスト フィールドに利用規約を入力します。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

（注）　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション（4-1 ページ）を参照してください。

Soft SMS 認証のためのポータルの設定

ポータルを Soft SMS 認証に設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ポータルの [Authentication] ウィンドウで、[Soft SMS]を選択します。

ステップ 2　[SMS Gateway] ドロップダウン リストから、SMS ゲートウェイを選択します。

注　ゲートウェイを設定するには、[SMS Gateway] ドロップダウン リストから [ADD SMS Gateway] オプションを選択します。[SMS Gateway] ウィンドウが表示され、そこで必要な SMS ゲートウェイ の設定ができます。SMS ゲートウェイを設定するときの詳細については、「WiFi Engage の SMS ゲートウェイの設定」セクション（7-28 ページ）を参照してください。設定された SMS ゲートウェイは、ここで選択できるようになっています。シスコが提供する有料の Default Gateway も使用できます。

ステップ 3　[Default Country] ドロップダウン リストから、この設定が適用される国を選択します。

ステップ 4　[SMStext] フィールドに、ユーザに送信する SMS に表示する必要があるテキスト メッセージを入力します。

（注）　顧客がキャプティブ ポータルにアクセスできるリンクを表示する際は、テキストメッセージを編集する際に「{Link}」が削除されていないことを確認します。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

Hard SMS with Verification Code のためのポータル設定

ポータルを Hard SMS with Verification Code に設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ポータルの [Authentication] ウィンドウで、[Hard SMS with Verification Code]を選択します。

ステップ 2　通知を受け取るかどうか選択するオプションを顧客に提供する場合は、[Allow users to Opt in to receive message] チェックボックスをオンにします。

（注）　SSID に接続してインターネットにアクセスする場合は、顧客に向けた選択に応じて [Opt In to receive notification] チェックボックスが表示されます。顧客がチェックボックスをオフにしてオプトアウトする場合、その顧客には通知が送信されません。

ステップ 3　[SMS Gateway] ドロップダウン リストから、SMS ゲートウェイを選択します。

[Tools] オプションで設定された SMS ゲートウェイが選択可能になっています。シスコが提供する有料の**Default Gateway** も使用できます。

（注）　ゲートウェイを設定するには、[Add SMS Gateway] ボタンをクリックします。[SMS Gateway] ウィンドウが表示され、そこで必要な SMS ゲートウェイ の設定ができます。SMS ゲートウェイを設定するときの詳細については、「WiFi Engage の SMS ゲートウェイの設定」セクション（7-28 ページ）を参照してください。設定された SMS ゲートウェイは、ここで選択できるようになっています。

ステップ 4　[Default Country] ドロップダウン リストから、この設定が適用される国を選択します。

ステップ 5　[Password Type] を選択します。

- Auto generated：認証要求のたび、認証コードを自動的に生成します。自動生成された認証コードは、ユーザに送信されます。

- Fixed：認証のための認証コードを定義します。この認証コードは、すべてのユーザに認証要求のたびに送信されます。[Fixed] オプションを選択すると表示される [Verification Code] テキスト フィールドに、ユーザに送信する認証コードを入力します。

a. [SMS text] フィールドに、ユーザに送信する SMS に表示する必要があるテキストを入力します。

注　顧客がキャプティブ ポータルにアクセスできるリンクを表示する際は、テキストメッセージを編集する際に「{Link}」が削除されていないことを確認します。同様に、メッセージ内に認証コードを表示する際は、「{Password}」が削除されていないことを確認します。

b. [Save]をクリックします。

Social Sign In 認証のためのポータル設定

WiFi Engage は、次のソーシャル ネットワークを介した認証をサポートしています。

- Facebook
- Twitter
- LinkedIn

（注）　ソーシャル ネットワークを介してインターネットへのアクセスを認証するには、WiFi Engage にそのソーシャル ネットワークのアプリケーションを設定する必要があります。WiFi Engage へのソーシャル アプリケーションの設定は、[Tools] オプションで行うことができます。詳細については、「ソーシャル認証のためのソーシャル アプリケーションの追加」セクション（7-30 ページ）を参照してください。ソーシャル認証のためのアプリケーションに必要な設定については、「ソーシャル認証のためのアプリケーションの設定」セクション（7-30 ページ）を参照してください。

ポータルへのアクセスを Social Sign In で認証するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ポータルの [Authentication] ウィンドウで、[Social Sign In]を選択します。

WiFi Engage で認証のためにサポートされているソーシャル ネットワークが、設定されているカスタム アプリケーションと一緒に表示されます。

ステップ 2　インターネットへのアクセスの認証に使用するソーシャル ネットワークの隣にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 3　[Save]をクリックします。

（注）　[+Add] ボタンをクリックすると [Social Apps] ウィンドウが表示され、そこでカスタマイズされたアプリケーションの設定ができます。

Email 認証のためのポータルの設定

ポータルを Email 認証に設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ポータルの [Authentication] ウィンドウで、[Email]を選択します。

ステップ 2　通知を受け取るかどうか選択するオプションをユーザに提供する場合は、[Allow users to Opt in to receive message] チェックボックスをオンにします。

（注）　SSID に接続してインターネットにアクセスする場合は、ユーザに向けた選択に応じて [Opt In to receive notification] チェックボックスが表示されます。ユーザがチェックボックスをオフにしてオプトアウトする場合、そのユーザには通知が送信されません。

ステップ 3　[Save]をクリックします。

ポータルへの [Data Capture] モジュールの追加

[Authentication] モジュールで [Hard SMS with Verification Code] または [Email] を選択している場合、キャプティブ ポータルに [Data Capture] モジュールを追加することができます。顧客は、このモジュールを使用して、WiFi Engage に自分を登録することができます。このモジュールにより、顧客が名、姓、携帯番号などの個人に関する詳細を指定することが可能になります。顧客のフィルタリング基準となるビジネス タグの追加もできます。

（注）　[Data Capture] モジュールで定義されたビジネス タグは、[Choose Tags] ウィンドウで使用できます。

キャプティブ ポータルに [Data Capture] モジュールを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[Data Capture] モジュールを設定するポータルを開きます。

ステップ 2　[Authentication]をクリックします。

ステップ 3　[Hard SMS with Verification Code]または [Email] を選択します。

[Data Capture] モジュールがモジュール リストに表示されます。

ステップ 4　[Data Capture]モジュールをクリックします。

ステップ 5　[Add Field Element]をクリックします。

モジュールには、次のフィールド要素を追加できます。

- Title：顧客の敬称を指定します。Mr、Ms. など。
- Email：顧客の電子メール ID を指定します。
- Mobile Number：顧客の携帯電話の番号を指定します。携帯電話の番号のデフォルトの国を指定すると、顧客獲得の際にデフォルトの国のコードがデータ キャプチャ フォームに表示されるようにできます。
- First Name：顧客の名を指定します。
- Last Name：顧客の姓を指定します。

- Gender：顧客の性別を指定します。
- Business Tags：ビジネス タグ質問に対して顧客が選択する回答を提供します。このビジネス タグは、顧客の分類に役立ちます。

（注）　[Email] フィールド要素は、Email 認証の場合、電子メール情報は認証時にすでに収集されているため、使用できません。[Mobile Number] フィールド要素は、Hard SMS with Verification Code の場合、顧客は認証時に携帯電話の番号を入力する必要があるため、使用できません。

（注）　WiFi Engage 2.3 以前を使用して作成されたポータルには、[Data Capture] モジュールの追加はできません。

ステップ 6　対応するオプションをクリックして、フィールドを追加します。

ステップ 7　[Place Holder] フィールドに、フィールドのプレースホルダとして表示する必要があるテキストを入力します。

ステップ 8　フィールドを必須にするには、[Make this field mandatory] チェックボックスをオンにします。

ステップ 9　[Mobile Number] フィールド要素には、デフォルトの国を選択し、顧客獲得時にその国の国コードがデータ キャプチャ フォームに表示されるようにします。

ステップ 10　[Business Tag] フィールド要素には、次の追加フィールドを設定する必要があります。

a. [Name] フィールドに、ビジネス タグの名前を入力します。

b. [Place Holder] に、顧客にたずねる質問を入力します。

c. [+Add Option]をクリックします。

d. 表示されるテキスト フィールドに、顧客が選択するために提供する回答を入力します。

e. その他の回答用選択肢も、同様に、[+ Add Option]を使用して追加します。

（注）　追加した選択肢を削除するには、対応する [Delete] アイコンを使用します。

（注）　顧客が認証プロセス中に [Data Capture] 画面にアクセスすると、指定した回答がドロップダウンリストで使用できるようになっています。顧客は必要な値を選択できます。この値は、プロキシミティ ルールで顧客をフィルタリングするのに使用できます。

ステップ 11　[Save]をクリックします。

（注）　[Data Capture] モジュールは、新しいポータルを作成するときのみ使用できます。WiFi Engage 2.3 以前を使用して作成された既存のポータルには、このモジュールの追加はできません。

ポータルのブランド名の定義

WiFi Engage では、[Brand Name] モジュールを使用して、ポータルにブランド名を追加することができます。ブランド名は、テキストまたはイメージとして追加できます。たとえば、会社ロゴをブランド名として使用することができます。

ポータルのブランド名を定義するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ブランド名を定義するポータルを開きます。

ステップ 2　[Brand Name]モジュールをクリックします。

[Brand Name] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3　ブランドのタイプを選択します。

a. [Text only] を選択する場合は、表示される [Brand Name] フィールドに、ブランド名を入力します。

b. [Logo] を選択する場合は、表示される [Upload]ボタンをクリックし、ロゴ イメージをアップロードします。

ステップ 4　[Save]をクリックします。

ポータルにブランド名が定義されます。

(注)　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション（4-1 ページ）を参照してください。

ポータルへの通知の追加

[Notice] モジュールでは、ポータル内に通知を表示することができます。このモジュールは、顧客に重要な情報を伝える際に便利です。ティッカーおよびテキストの通知を追加できます。テキストの通知とともにイメージを追加することもできます。

通知をいつまでポータル内に表示するかの日付を設定できます。

(注)　デフォルトでは、通知の設定は Experience Zone Manager アプリケーションを使用して行うように設定されています。通知の設定に WiFi Engage ダッシュボードを使用するには、[Configure in] ドロップダウン リストで必要な変更を行う必要があります。

ポータル内の通知をダッシュボードから追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　通知を追加するポータルを開きます。

ステップ 2　[Notice]モジュールをクリックします。

[Notice] ページが表示されます。

ステップ 3　[Configure in] ドロップダウン リストから、[Dashboard]を選択します。

ページに通知機能が表示されます。

ステップ 4　通知のタイプを選択します。次のオプションを使用できます。

- Ticker Text Only：通知は、動くテキストの形式で表示されます。
- Text Only：通知は、テキスト形式で表示されます。
- Text with Image：通知は、アップロードされたイメージを伴うテキストとして表示されます。

a. [Ticker Text Only] の場合、表示される [Notice] テキスト フィールドに通知のテキストを入力します。

b. [Text Only] の場合、表示される [Notice] テキスト フィールドに通知のテキストを入力します。

c. [Text with Image] の場合、以下の手順を実行します。

- [Notice] テキスト フィールドに、通知のテキストを入力します。
- [Notice image] 領域で [Upload]ボタンをクリックし、通知と一緒に表示する必要があるイメージをアップロードします。

ステップ 5　[Hide After] フィールドで、通知をいつまでポータル内に表示するかの日付を選択します。

ステップ 6　[Save]をクリックします。

ポータルに通知が追加されます。

(注)　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション（4-1 ページ）を参照してください。

ポータルへのウェルカム メッセージの追加

[Welcome] モジュールを使用すると、ポータルにウェルカム メッセージを追加することができます。追加されたウェルカム メッセージは、ユーザがポータルにアクセスした際に表示されます。

ポータルにウェルカム メッセージを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ウェルカム メッセージの追加が必要なポータルを開きます。

ステップ 2　[Welcome Message]モジュールをクリックします。

[Welcome Message] ページが表示されます。

ステップ 3　[Configure in] ドロップダウン リストから、[Dashboard]を選択します。

ステップ 4　[First time visitor welcome text] メッセージ ボックスで、ユーザが初めてポータルにアクセスした際に表示する必要があるウェルカム メッセージを入力します。Smart Link 変数を使用すると、ウェルカム メッセージに名、姓、携帯電話の番号などの顧客の個人に関する詳細を含めることができます。Smart Link の詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

ステップ 5　リピート ユーザには別のウェルカム メッセージを表示する場合は、[Add a custom message for Repeat Visitors] チェックボックスがオンになっていることを確認し、その隣のメッセージ ボックスに、リピート ユーザのためのウェルカム メッセージを入力します。

ステップ 6　[Save]をクリックします。

ポータルにウェルカム メッセージが定義されます。

（注）　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション（4-1 ページ）を参照してください。

ポータルでの施設詳細の表示

[Venue Map] モジュールを使用すると、ポータル内に施設の詳細を表示することができます。このモジュールを使用すると、施設に対し、ラベル名の定義、アイコン イメージのアップロード、およびマップの表示をすることができます。

このモジュールのデフォルト名は、[Venue Map] です。モジュール名は、[Label] フィールドで加える変更に応じて変更されます。

ポータルに施設の詳細を追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　施設の詳細を追加するポータルを開きます。

ステップ 2　[Venue Map]モジュールをクリックします。

[VENUE MAP] ページが表示されます。

ステップ 3　[Label] フィールドに、ポータルでの表示が必要な施設マップのラベル名を入力します。

（注）　[Venue Map] モジュールの名前が、[Label] フィールドで指定した名前に変更されます。

ステップ 4　[Icon] 領域で、マップ ラベルの隣に表示が必要なマップ アイコンを、[Upload]ボタンを使用してアップロードします。

注　アイコンを削除するには、[Delete] アイコンを使用します。

ステップ 5　[Store Map] 領域に、この施設のマップが MSE と同様に表示されます。

（注）　マップは、MSE でマップが定義されているロケーションにポータルが関連付けられている場合のみ、表示されます。マップは、キャプティブ ポータル ルールを通じて、ロケーションに関連付けられます。顧客が現在いるロケーションのマップが表示されます。

ステップ 6　[Save]をクリックします。

ポータルに施設マップが設定されます。

(注)　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション(4-1 ページ)を参照してください。

ポータルへのビデオのアップロード

[Videos] モジュールを使用すると、WiFi Engage のポータルにビデオをアップロードすることができます。このモジュールでは、ポータル内のビデオが表示される領域にラベルとイメージを追加することと、ビデオの YouTube URL を指定することができます。

このモジュールのデフォルト名は、[Videos] です。モジュール名は、[Label] フィールドで加える変更に応じて変更されます。

(注)　ポータルに表示できるのは、YouTube のビデオのみです。

ポータルにビデオをアップロードするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ビデオをアップロードするポータルを開きます。

ステップ 2　[Videos]モジュールをクリックします。

[VIDEOS] ページが表示されます。

ステップ 3　[Configure in] ドロップダウン リストから、[Dashboard]を選択します。

ステップ 4　[Label] フィールドに、ポータル内のビデオが表示される領域のために表示が必要なラベルを入力します。

注　[Videos] モジュールの名前が、[Label] フィールドで指定した名前に変更されます。

ステップ 5　[Icon] 領域で、ビデオ ラベルの隣に表示が必要なビデオ アイコンを、[Upload]ボタンを使用してアップロードします。

注　アイコンを削除するには、[Delete] アイコンを使用します。

ステップ 6　[Add a Video]をクリックします。

ステップ 7　表示される [YouTube URL] フィールドに、ポータルに表示するビデオの YouTube URL を入力します。

ステップ 8　[Save]をクリックします。

ポータルにビデオがアップロードされます。

(注)　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション (4-1 ページ) を参照してください。

ポータルでの [Feedback] セクションの提供

WiFi Engage の [Feedback] モジュールを使用すると、顧客からポータルに対するフィードバックを収集することができます。このモジュールでは、[Feedback] セクションに複数の質問を追加することができます。これらの質問には、選択肢による回答または評価による回答を付加できます。顧客がポータルに関するコメントを追加できるテキスト ボックスを提供することもできます。

ポータルに [Feedback] セクションを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ビデオのアップロードが必要なポータルを開きます。

ステップ 2　[Feedback]モジュールをクリックします。

[FEEDBACK] ページが表示されます。

ステップ 3　[Label] フィールドに、[Feedback] セクションのために表示が必要な名前を入力します。

ステップ 4　[Icon] 領域で、フィードバック ラベルの隣に表示が必要なアイコン イメージを、[Upload]ボタンを使用してアップロードします。

ステップ 5　[Question Text] フィールドに、顧客に回答してほしい質問を入力します。

ステップ 6　[Question Image] 領域で、質問の隣に表示が必要なイメージを、[Upload] ボタンを使用してアップロードします。

ステップ 7　[Question Type] 領域で、次のいずれかを選択します。

- Rating:顧客は、評価で質問に回答することができます。
- Multiple Choice:顧客は、提供される選択肢で回答することができます。このオプションを選択した場合、[Option 1] および [Option 2] フィールドに回答の選択肢を入力します。提供する選択肢の数を増やす場合は、[Add option] ボタンを使って選択肢を追加します。

注　[Feedback] セクションに質問を追加するには、[Add Question] ボタンを使用します。

ステップ 8　[Submit Button Label] フィールドに、顧客が回答の提出に使用する送信ボタンの名前を入力します。

ステップ 9　[Thank You/ Success message] フィールドに、顧客が回答を提出した後に顧客に表示する必要があるメッセージを入力します。

ステップ 10　[Post Submission button label] フィールドに、顧客の回答が提出された後に表示されるボタンの名前を入力します。顧客がこのボタンをクリックすると、WiFi Engage ダッシュボードが表示されます。

ステップ 11　顧客がコメントを入力するためのテキスト ボックスを提供するには、[Add a text box for additional comments from end user?] チェックボックスをオンにします。

ステップ 12　[Email to] フィールドに、フィードバックを送信する宛先の電子メール アドレスを入力します。

ステップ 13　[Email from] フィールドに、フィードバック メールの受信者に表示する送信元電子メール アドレスを入力します。

ステップ 14　[Email Subject] フィールドに、フィードバックが含まれる電子メールの件名を入力します。

ステップ 15　[Save]をクリックします。

ポータルに [Feedback] セクションが作成されます。

(注)　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション(4-1 ページ)を参照してください。

ポータルへのヘルプ オプションの追加

[Help] モジュールを使用すると、WiFi Engage のポータルにヘルプ ラインを追加することができます。顧客は、サポートが必要な際に、このヘルプ ラインを使用して連絡することができます。このモジュールでは、ポータル内のヘルプ ラインが表示される領域にラベルとイメージを追加することと、顧客がサポートが必要な際に連絡する番号を指定することができます。

このモジュールのデフォルト名は、[Help] です。モジュール名は、[Label] フィールドで加える変更に応じて変更されます。

ポータルにヘルプ オプションを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　ヘルプ オプションの追加が必要なポータルを開きます。

ステップ 2　[Help]モジュールをクリックします。

[HELP] ページが表示されます。

ステップ 3　[Configure in] ドロップダウン リストから、[Dashboard]を選択します。

ステップ 4　[Button Label] フィールドに、ポータル内のヘルプ ラインが表示される領域のために表示が必要なラベルを入力します。

注　[Help] モジュールの名前が、[Button Label] フィールドで指定した名前に変更されます。

ステップ 5　[Icon] 領域で、ヘルプ ラベルの隣に表示が必要なヘルプ アイコンを、[Upload]ボタンを使用してアップロードします。

注　アイコンを削除するには、[Delete] アイコンを使用します。

ステップ 6　[Contact] フィールドに、ヘルプ ラインの番号を入力します。

ステップ 7　[Save]をクリックします。

ポータルにヘルプ オプションが定義されます。

(注)　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション(4-1 ページ)を参照してください。

ポータルへのアプリケーションの追加

アプリケーション モジュールを使用すると、WiFi Engage のポータルにアプリケーションを追加することができます。アプリケーションは、iTunes と Play Store の両方から追加できます。このモジュールでは、ポータル内のアプリケーションが表示される領域にラベルとイメージを追加することができます。

このモジュールのデフォルト名は、[Get Apps] です。モジュール名は、[Button Label] フィールドで加える変更に応じて変更されます。

ポータルにアプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　アプリケーションの追加が必要なポータルを開きます。

ステップ 2　[Get Apps]モジュールをクリックします。

[GET APPS] ページが表示されます。

ステップ 3　[Button Label] フィールドに、ポータル内のアプリケーションが表示される領域のために表示が必要なラベルを入力します。

注　[Get Apps] モジュールの名前が、[Button Label] フィールドで指定した名前に変更されます。

ステップ 4　[Icon] 領域で、アプリケーション ラベルの隣に表示が必要なアプリケーション アイコンを、[Upload]ボタンを使用してアップロードします。

注　アイコンを削除するには、[Delete] アイコンを使用します。

ステップ 5　[Add an App]をクリックします。

ステップ 6　[Add App] 領域で、次の手順を実行します。

a.　[Platform] ドロップダウン リストから、アプリケーション プラットフォームを選択します。

b.　[App Store URL] フィールドに、そこからアプリケーションを追加する必要があるアプリケーション ストアの URL を入力します。

c.　[App URL Scheme] フィールドに、デバイスにアプリケーションをインストールする際に受け取るアプリケーションの URL スキームを入力します。

d.　デスクトップおよびラップトップには別の URL を提供する場合は、[Show this URL for Desktops and Laptops] チェックボックスをオンにします。

e.　[Show this URL for Desktops and Laptops] チェックボックスをオンにしたら、デスクトップおよびラップトップのための URL を入力します。

注　アプリケーションをさらに追加するには、[Add an App] ボタンを使用します。

ステップ 7　[Save]をクリックします。

ポータルにアプリケーションが追加されます。

（注）　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション（4-1 ページ）を参照してください。

ポータルからのインターネットへのアクセスの提供

[Get Internet] モジュールを使用すると、ポータルからインターネットへのアクセスを提供することができます。[Get Internet] モジュールを使用すると、外部 URL をポータルに追加することができます。このモジュールでは、ポータル内のインターネット リンクが表示される領域にラベルとイメージを追加することができます。

このモジュールのデフォルト名は、[Get Internet] です。モジュール名は、[Button Label] フィールドで加える変更に応じて変更されます。

ポータルからインターネットへのアクセスを提供するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　インターネットへのリンクの提供が必要なポータルを開きます。

ステップ 2　[Get Internet]モジュールをクリックします。

[GET INTERNET] ページが表示されます。

ステップ 3　[Button Label] フィールドに、ポータル内のインターネット リンクが表示される領域のために表示が必要なラベルを入力します。

注　[Get Internet] モジュールの名前が、[Button Label] フィールドで指定した名前に変更されます。

ステップ 4　[Button Icon] 領域で、インターネット リンクの隣に表示が必要なアイコンを、[Upload]ボタンを使用してアップロードします。

注　アイコンを削除するには、[Delete] アイコンを使用します。

ステップ 5　[Launch Page] フィールドに、ポータルからインターネットに接続するための URL を入力します。

ステップ 6　[Interstitial Message] フィールドに、ユーザがインターネットへのリンクをクリックした際にポータルに表示する必要があるメッセージを入力します。

ステップ 7　顧客にインタースティシャル メッセージを表示するには、[Interstitial] チェックボックスをオンにします。

ステップ 8　[Save]をクリックします。

ポータルにインターネットにアクセスするためのオプションが設定されます。

(注)　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション（4-1 ページ）を参照してください。

ポータルへのカスタマイズされたメニュー アイテムの追加

[Add Menu Item] モジュールでは、要件に応じてポータルにカスタマイズされたメニュー アイテムを追加することができます。さまざまな Web ページにリンクできるさまざまなメニュー アイテムをポータルに追加できます。このモジュールでは、各メニュー アイテムにラベル、アイコン、および Web URL を追加することができます。リンク先の Web ページに互換性がある場合、「戻る」ボタンを有効にすることもできます。

ポータルにカスタマイズされたメニュー アイテムを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　カスタム メニュー アイテムの追加が必要なポータルを開きます。

ステップ 2　[Add Menu Item]モジュールをクリックします。

[Menu Item] モジュールがモジュール リストに追加され、そのためのページが開きます。

ステップ 3　[Label] フィールドに、カスタム メニューのために表示が必要なラベルを入力します。

注　[Menu Item] モジュールの名前が、[Label] フィールドで指定した名前に変更されます。

ステップ 4　[Icon] 領域で、メニュー アイテムの隣に表示が必要なアイコンを、[Upload]ボタンを使用してアップロードします。

(注)　アイコンを削除するには、[Delete] アイコンを使用します。

ステップ 5　[Link to URL] フィールドに、メニュー リンクの接続先 URL を入力します。

(注)　Smart Link オプションを使用すると、URL を強化することができます。「$」を入力するか、[Add Variable] ドロップダウン リストをクリックして追加できる変数を表示します。Smart Link を作成するときの詳細については、「Smart Link」セクション（7-42 ページ）を参照してください。

ステップ 6　リンク先 Web ページの「戻る」ボタンを有効にするには、[Enable back button] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7　[Save]をクリックします。

ポータルにカスタマイズされたメニュー アイテムが追加されます。

(注)　追加されたメニュー アイテムは、ポータルのプレビューではテキストとして表示されますが、ランタイムにはリンクとして表示されます。

(注)　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション (4-1 ページ) を参照してください。

ポータルへのプロモーションとオファーの追加

[Promos & Offers] モジュールでは、顧客に提供するプロモーションおよびオファーをポータルに追加することができます。さまざまなプロモーション URL にリンクできるさまざまなプロモーション アイテムをポータルに追加できます。このモジュールでは、各プロモーションにラベル、アイコン、および Web URL を追加することができます。

(注)　プロモーションは回転式で表示されます。

ポータルにプロモーションとオファーを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[Promos & Offers] モジュールの追加が必要なポータルを開きます。

ステップ 2　[Promos & Offers]モジュールをクリックします。

[PROMOS and OFFERS] ページが表示されます。

ステップ 3　[Title] フィールドに、プロモーションとオファーが表示される領域のために表示が必要なラベルを入力します。

ステップ 4　[Promo Name] フィールドに、プロモーション リンクの名前を入力します。

ステップ 5　[Promo Image] 領域で、プロモーション リンクの隣に表示が必要なアイコンを、[Upload]ボタンを使用してアップロードします。

ステップ 6　[Link Promo to URL] フィールドに、プロモーション Web ページにリンクする URL を入力します。

ステップ 7　[Save]をクリックします。

ポータルにプロモーションおよびオファーが追加されます。

(注)　[Add a Promotion] ボタンを使用すると、ポータルに複数のプロモーションを追加できます。

(注)　パブリッシュされているキャプティブ ポータルまたはエクスペリエンス ゾーンにすでに関連付けられているポータルを変更する場合、[Save & Publish] ボタンをクリックして、変更を速やかにパブリッシュします。[Save & Publish] ボタンは、ポータルがキャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられている場合のみ表示されます。キャプティブ ポータル ルールを作成するときの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション(4-1 ページ)を参照してください。

ポータルからのプロモーションの削除

WiFi Engage では、必要な期間の後、ポータルからプロモーションを削除することができます。

ポータルからプロモーションを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　プロモーションを削除するポータルを開きます。

ステップ 2　[Promos & Offers]モジュールをクリックします。

そのポータルに追加されたプロモーションが含まれる [PROMOS and OFFERS] ページが表示されます。

ステップ 3　削除するプロモーションの右上に表示される [Delete]アイコンをクリックします。

ポータルのエクスポート

WiFi Engage では、各種ポータル モジュールを使用して作成したポータルをエクスポートすることができます。

ポータルをエクスポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　エクスポートするポータルを開きます。

ステップ 2　[Export Portal]アイコンをクリックします。

[Export Portal] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3　[Download]をクリックします。

ステップ 4　表示されるウィンドウで、次のいずれかを実行します。

a.　エクスポートされたファイルを直接開くには、[Open]を選択します。

b.　ポータル ファイルをコンピュータに保存するには、[Save]を選択します。

ポータルの zip ファイルがコンピュータのダウンロード フォルダに保存されます。

(注)　ポータルは、zip 形式でエクスポートされます。

ポータルのスタイル シートの編集

WiFi Engage の [Style Sheet Editor] オプションでは、ポータルのスタイル シートを更新することができます。これは、ポータルのフォント プロパティや外観を変更するのに役立ちます。

ポータルのスタイル シートを編集するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　スタイル シートを編集するポータルを開きます。

ステップ 2　[Style Sheet Editor]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[CSS Editor] タブで、スタイル シートに必要な変更を加えます。

ステップ 4　[Save]をクリックします。

スタイル シートを外部ソースからアップロードすることができます。たとえば、別のポータルのためにデザインされた CSS などです。

また、ポータルをダウンロードして必要な更新を行い、編集したスタイル シートをアップロードすることもできます。たとえば、CSS デザイナーにポータルの編集を依頼する場合、[Download] ボタンを使用してスタイル シートをダウンロードすることができます。スタイル シートに必要な変更を加えた後、[Upload] ボタンを使用して、それを WiFi Engage にアップロードすることができます。

スタイル シートへのアセットの追加

ポータルの外観を強化するため、イメージやフォントなどのアセットをポータルの [Style Sheet Editor] に追加することができます。jpeg、png、tif などのイメージ ファイルが追加できます。スタイル シートを編集し、これらのアセットをポータルに組み込みます。

ポータルのスタイル シートにアセットを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　スタイル シートを編集するポータルを開きます。

ステップ 2　[Style Sheet Editor]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Upload Assets]タブをクリックします。

ステップ 4　[Upload file]をクリックして、アセット ファイルをアップロードします。

ファイルがアセット リストに追加されます。

アセット リスト内のアセットに対して表示される [Copy Asset Url] ボタンを使用すると、アセットの URL をコピーすることができます。このアセットをポータルに追加するには、スタイル シートの適切な場所に URL を追加します。

アセットを削除するには、アセット リスト内のそのアセットに表示された [Delete] アイコンを使用します。

ポータルの検索

WiFi Engage では、既存のポータルを検索するための検索オプションが提供されています。ポータルは名前で検索できます。

ポータルを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Portal]を選択します。

ステップ 2　[Search] フィールドにポータル名を入力します。

その名前を持つポータルがリストされます。

ポータルのインポート

WiFi Engage では、外部パスからポータルをインポートすることができます。たとえば、外部アプリケーションを使用してポータルを強化する場合、[Export Portal] アイコンを使用してポータルをエクスポートし、必要な強化を加え、[Import Portal] オプションを使用してポータル ファイルを WiFi Engage にインポートすることができます。

ポータルをインポートするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Portal]を選択します。

ポータル ページが表示されます。

ステップ 2　[Import Portal]をクリックします。

ステップ 3　表示される [Import Portal] ウィンドウで、次の手順を実行します。

a.　[Please Provide Portal Name and Select the Zip File to Import] フィールドに、ポータルのファイル名を入力します。

b.　[Choose File]ボタンをクリックして、インポートするファイルを選択します。

c.　[Import]をクリックします。

(注)　ポータルは、zip 形式でアップロードされます。

ポータルの削除

ポータルを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Portal]を選択します。

WiFi Engage で利用可能なすべてのポータルのリストを含むポータル ページが表示されます。

ステップ 2　削除するポータルの隣のチェックボックスをオンにします。

ステップ 3　[Delete]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Delete Portals] ウィンドウで、[Yes]をクリックします。

ポータルは、WiFi Engage から削除されます。

(注)　削除するポータルの隣のチェックボックスを複数選択すると、複数のポータルを同時に削除できます。

(注)　キャプティブ ポータル ルールまたはエクスペリエンス ゾーンに関連付けられているポータルは、削除できません。

ポータルの編集

ポータルを編集するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Portal]を選択します。

選択されたポータルの [Portal] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2　表示される [Portals] ウィンドウで、編集するポータルをクリックします。

ステップ 3　必要な変更を行い、各モジュールに加えた変更を保存します。

ステップ 4　変更をパブリッシュするには、[Portals] ウィンドウでそのポータルの [Publish]ボタンをクリックします。

ポータル URL の電子メールでの送信

ポータルの URL を電子メールで送信し、受信者がその URL を使用してポータルにアクセスできるようにすることができます。

ポータルの URL を電子メールで送信するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Portal]を選択します。

WiFi Engage で利用可能なすべてのポータルのリストを含むポータル ページが表示されます。

ステップ 2　URL を電子メールで送信するポータルをクリックします。

ポータルが表示されます。

ステップ 3　[Email Portal URL] フィールドに、ポータルの URL を電子メールで送信する宛先電子メール ID を入力します。

ステップ 4　[Email link]をクリックします。

URL が指定された電子メール アドレスに送信されたことを知らせるメッセージが表示されます。

ステップ 5　[OK]をクリックします。

ポータルの QR コードの表示

WiFi Engage では、モバイル デバイスの QR コード リーダーを使用してポータルの QR コードをスキャンすることができます。

(注)　この機能を使用するには、モバイル デバイスに QR コード リーダー アプリケーションをインストールする必要があります。

ポータルの QR コードをスキャンするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　QR コードをスキャンするポータルを開きます。

ステップ 2　モバイル デバイスで QR コード リーダー アプリケーションを開きます。

ステップ 3　ポータルで、[Scan with QR code reader on your mobile device] というラベルの領域にモバイル デバイスでフォーカスします。

モバイル デバイスは QR コードをスキャンして、URL を開くかどうか質問するメッセージを表示します。

ステップ 4　[OK]をクリックします。

モバイル デバイスの画面にポータルが開きます。

エクスペリエンス ゾーン別のポータルのプレビュー

WiFi Engage では、さまざまなエクスペリエンス ゾーンに対して同じポータルをそれぞれ異なるコンテンツで表示することができます。WiFi Engage ダッシュボードを使用すると、各エクスペリエンス ゾーンに対してポータルがどのように表示されるか確認することができます。あるエクスペリエンス ゾーンに向けたポータルを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　プレビューを表示するポータルを開きます。

ステップ 2　[Preview] 領域で、ポータルのプレビューを表示するエクスペリエンス ゾーンを選択します。

そのエクスペリエンス ゾーンに向けたポータルのプレビューが表示されます。

さまざまなデバイス上のポータルのプレビュー

WiFi Engage では、さまざまなデバイス上のポータルの外観を表示することができます。モバイル デバイス、タブレット、およびラップトップでのポータルをプレビューすることができます。

デバイス上のポータルをプレビューするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　プレビューを表示するポータルを開きます。

さまざまなデバイスのイメージが、ポータルの右側に表示されています。

ステップ 2　次のいずれかを実行します。

a. モバイル デバイスでのポータルのプレビューを表示するには、モバイル デバイスのイメージをクリックします。

b. タブレットでのポータルのプレビューを表示するには、タブレットのイメージをクリックします。

c. ラップトップでのポータルのプレビューを表示するには、ラップトップのイメージをクリックします。

選択したデバイスでのポータルのプレビューが表示されます。

注　[Preview] ウィンドウでその他のデバイスでのプレビューを表示するには、対応するタブをクリックします。[Preview] ウィンドウでは、CSS Editor の表示、アセットのアップロード、QR コードのスキャン、ポータルの URL の電子メールでの送信、および向きの変更もできます。

ポータルの管理

ポータル管理者は、モジュールのオン/オフ ボタンを切り替えることで、ポータルに追加するモジュールを表示または非表示にすることができます。

- モジュールを並び替えるには、必要な位置にモジュールをドラッグ アンド ドロップします。プレビュー セクションに変更が反映されます。
- ポータル内では、次のモジュールの位置を並べ替えることはできません。
  - Brand Name
  - Notice
  - Welcome Message
  - Promos & Offers

注　デフォルトでは、上記のモジュールの [Configure In]オプションは、[Experience Zone Manager App] に設定されています。WiFi Engage ダッシュボードでこれらのモジュールを編集するには、[Configure In] オプションを [Dashboard] に変更する必要があります。

Enterprise Mobility Services Platform Studio URL のキャプティブ ポータル URL としての設定

WiFi Engage では、Enterprise Mobility Services Platform Studio を使用して強化した WiFi Engage ポータルを、SSID のためのキャプティブ ポータル URL として設定することができます。

（注）　WiFi Engage ダッシュボードを使用して作成され、Enterprise Mobility Services Platform Studio の WiFi Engage または WiFi Engage V2 のモジュール グループを使用して強化されたポータルのための Studio URL のみを使用します。

(注)　WiFi Engage モジュールは、[Data Capture] モジュールがある新しいポータルではサポートされません。

Studio URL を SSID のためのキャプティブ ポータルとして設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage でポータルを作成し、必要なすべての WiFi Engage モジュールを追加します。

ステップ 2　ポータルを、必要なキャプティブ ポータル ルールに関連付けます。

詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション（4-1 ページ）を参照してください。

ステップ 3　Enterprise Mobility Services Platform Studio を開きます。

ステップ 4　EMSP Studio に新しいサイトを作成します。

ステップ 5　[WiFi Engage Connector] モジュールを、WiFi Engage または WiFi Engage V2 のモジュール グループから [Canvas] にドラッグ アンド ドロップします。

ステップ 6　[Edit Settings] パネルの [WiFi Engage Portal Id] テキスト フィールドに、ステップ 1 で WiFi Engage を使用して作成したポータルの名前を入力します。

ステップ 7　[Edit Settings] パネルで、必要に応じてその他のフィールドを設定し、[Save]をクリックします。

ステップ 8　[Canvas] に、このポータルのために WiFi Engage で設定したその他のすべての WiFi Engage（WiFi Engage）モジュールをドラッグ アンド ドロップします。

すると、WiFi Engage での表示と同じ形式でポータルが表示されます。

(注)　モジュール グループからの [WiFi Engage Connector] を使用している場合、同じモジュール グループのその他の WiFi Engage モジュールも、ドラッグ アンド ドロップします。WiFi Engage のモジュール グループまたは WiFi Engage V2 のモジュール グループの詳細については、『*Enterprise Mobility Services Platform Studio Modules Guide*』を参照してください。

(注)　ポータルにソーシャル認証または SMS 認証を適用するには、WiFi Engage V2 のモジュール グループを使用する必要があります。

ステップ 9　Studio のモジュールを使用してポータルを強化し、設定を保存します。たとえば、ポータルに [Context Aware Container] モジュールを追加すると、ポータル内の特定のコンテンツを、さまざまなパラメータに基づいて表示または非表示にできます。

ステップ 10　[Draft] > [Make Site Live]の順に選択し、サイトをパブリッシュします。

ステップ 11　[Preview]をクリックし、サイトの URL を表示します。

(注)　ドラフト サイトを使用していないことを確認します。

ステップ 12　サイトの URL をコピーします

ステップ 13　ワイヤレス LAN コントローラ を開きます。

ステップ 14　ワイヤレス LAN コントローラのメイン ウィンドウで、[WLANs]タブをクリックします。

ステップ 15　Studio URL を設定する SSID の WLAN をクリックします。

ステップ 16　[Security] > [Layer 3]の順に選択します。

ステップ 17　[Web Auth Type] ドロップダウン リストから、[External]を選択します。

ステップ 18　表示される [URL] フィールドに、コピーしたサイトの URL を貼り付けます。

ステップ 19　[Apply]をクリックします。

ポータルを Enterprise Mobility Services Platform Studio で強化した後でも、ポータルのための各種 WiFi Engage モジュールを WiFi Engage ダッシュボードから管理することができます。たとえば、[WiFi Engage Menu] モジュールのために設定したメニューリンクを、WiFi Engage ダッシュボードを使用して変更することができます。変更は、Studio ページにも反映されます。

WiFi Engage の SMS ゲートウェイの設定

ポータルの認証を SMS を介して制御する場合、WiFi Engage では、サードパーティ ベンダーの SMS ゲートウェイを使用することができます。WiFi Engage に SMS ゲートウェイを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの [Tools] アイコンを選択します。

ステップ 2　[SMS Gateway]タブをクリックします。

ステップ 3　SMS ゲートウェイの [Add]ボタンをクリックします。

SMS ゲートウェイを設定するためのフィールドが表示されます。

ステップ 4　[SMS Gateway Type] 領域で、必要な SMS ゲートウェイのタイプを選択します。

HTTP の場合は、次の詳細情報を入力します。

a. [SMS Gateway name] に、HTTP SMS ゲートウェイの名前を入力します。
b. [SMS Gateway URL] フィールドに、SMS ゲートウェイの URL を入力します。
c. [Success Message Text] フィールドに、メッセージの送信が成功した際に表示する必要があるメッセージを入力します。

SMPP の場合は、次の詳細情報を入力します。

a. [SMS Gateway Name] テキスト フィールドに、SMPP ゲートウェイの名前を入力します。
b. [Host] テキスト フィールドに、SMPP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
c. [Port] テキスト フィールドに、SMPP ゲートウェイのポートを入力します。
d. [System Id] テキスト フィールドに、SMPP ゲートウェイのシステム ID を入力します。
e. [SMS Gateway password] に、SMPP ゲートウェイのパスワードを入力します。
f. [Source Address] テキスト フィールドに、送信元情報を入力します。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

SMS ゲートウェイの変更

SMS ゲートウェイを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの [Tools] アイコンを選択します。

ステップ 2　[SMS Gateway]タブをクリックします。

ステップ 3　変更する SMS ゲートウェイの [Edit]ボタンをクリックします。

[SMS Gateway] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4　必要な変更を加えます。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

ポータルへのソーシャル認証

ポータルへのソーシャル認証を有効にするには、次の手順を実行します。

1. ソーシャル認証のための CUWN の設定（7-29 ページ）
2. ソーシャル認証のためのソーシャル アプリケーションの追加（7-30 ページ）
3. Social Sign In 認証のためのポータル設定（7-8 ページ）
4. ソーシャル認証のためのアプリケーションの設定（7-30 ページ）

ソーシャル認証のための CUWN の設定

CUWN へのソーシャル認証のためには、ワイヤレス LAN コントローラに一定の設定をする必要があります。

ソーシャル認証のために CUWN を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　クレデンシャルを使用してワイヤレス LAN コントローラにログインします。

ステップ 2　[SECURITY] > [Access Control Lists] > [Access Control Lists]の順に選択します。

ステップ 3　表示される [Access Control List] ページで、WiFi Engage のために設定されたアクセス コントロール リストをクリックします。

[Add New Rule] をクリックして、次の情報で 2 つの追加ルールを追加します。

表 1　ACL ルール：ソーシャル認証のためのウォール ガーデンの範囲

No	アクション	送信元 IP アドレス/ネットマスク	宛先 IP アドレス/ネットマスク	プロトコル	送信元ポート範囲	宛先ポート範囲	DSCP	方向
1	Permit	0.0.0.0/0.0.0.0	0.0.0.0/0.0.0.0	TCP	HTTPS	いずれか（Any）	いずれか（Any）	いずれか（Any）
2	Permit	0.0.0.0/0.0.0.0	0.0.0.0/0.0.0.0	TCP	いずれか（Any）	HTTPS	いずれか（Any）	いずれか（Any）

ソーシャル認証のためのソーシャル アプリケーションの追加

ソーシャル ネットワーク サイトを介したポータルへの認証を提供するには、対応するソーシャル アプリケーションを WiFi Engage に設定する必要があります。たとえば、Facebook にサインイン中のユーザに対してポータルへのアクセスを認証する必要がある場合、WiFi Engage に Facebook のアプリケーションを設定する必要があります。WiFi Engage に追加できるソーシャル ネットワーク サイトのアプリケーションは、次のとおりです。

- Facebook
- Twitter
- LinkedIn

ポータルへのソーシャル認証のためのアプリケーションを設定するときの詳細については、「ソーシャル認証のためのアプリケーションの設定」セクション（7-30 ページ）を参照してください。

WiFi Engage にソーシャル アプリケーションを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの [Tools] アイコンを選択します。

ステップ 2　[Social Apps]タブをクリックします。

ステップ 3　アプリケーションを設定するソーシャル ネットワーク サイトに対応する [Add]ボタンをクリックします。

アプリケーションを設定するためのフィールドが表示されます。

ステップ 4　アプリケーションの名前、アプリケーション ID、およびアプリケーションの秘密鍵を、それぞれのフィールドに入力します。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

ソーシャル認証のためのアプリケーションの設定

この項では、さまざまなネットワーキング サイトを介した各種のソーシャル認証のためのアプリケーションに必要な設定を説明します。

- Facebook（7-30 ページ）
- Twitter（7-31 ページ）
- LinkedIn アプリケーション（7-31 ページ）

Facebook

ソーシャル認証のために Facebook アプリケーションを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　developers.facebook.com を開きます。

ステップ 2　[My Apps] ドロップダウン リストから、ソーシャル認証のために WiFi Engage に設定するアプリケーションを選択します。

ステップ 3　[Settings]をクリックします。

ステップ 4　[App Domains] テキスト フィールドに**cisco.wifi-mx.com** と入力します。

(注)　ドメインは、ポータルが作成された Enterprise Mobility Services Platform での設定（live、beta など）に応じて変更されます。

Twitter

ソーシャル認証のために Twitter アプリケーションを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　apps.twitter.com にログインします。
ステップ 2　ソーシャル認証のために WiFi Engage に設定するアプリケーションをクリックします。
ステップ 3　[Settings]タブをクリックします。
ステップ 4　[Callback URL] テキスト フィールドに**http://cisco.wifi-mx.com/socialAuth** と入力します。
ステップ 5　[Enable Callback Locking]チェックボックスをオフにします。
ステップ 6　[Allow this application to be used to Sign in with Twitter]チェックボックスをオンにします。

(注)　ドメインは、ポータルが作成された Enterprise Mobility Services Platform での設定（live、beta など）に応じて変更されます。

LinkedIn アプリケーション

ステップ 1　developer.linkedin.com にログインします。
ステップ 2　[My Apps]をクリックします。
ステップ 3　ソーシャル認証のために設定するアプリケーションをクリックします。
ステップ 4　[Authentication]をクリックします。
ステップ 5　[Default Application Permissions] 領域で、[r_basicprofile] および [r-emailaddress] チェックボックスをオンにします。
ステップ 6　[Authorized Redirect URLs] テキスト フィールドに、**http://cisco.wifi-mx.com/p/linkedin_auth** と入力し、[Add] をクリックします。

Enterprise Mobility Services Platform Studio を使用して作成されたポータルには、http://cisco.wifi-mx.com/socialAuth を使用します。

(注)　ドメインは、ポータルが作成された Enterprise Mobility Services Platform での設定（live、beta など）に応じて変更されます。

ポータルの認定デバイス リスト

ポータルのためにテストされ、認定されているデバイスおよびオペレーティング システムは、次の表のとおりです。

表 7-1　認定デバイス リスト

デバイス	OS バージョン	ブラウザまたは Captive Network Assistant（CNA）
モバイル デバイス		
Moto G2	v6.0	CNA、Google Chrome、Mozilla Firefox.
Sony Experia SP	バージョン 4.3	Google Chrome
Samsung S2	バージョン 4.1.2	Google Chrome
Samsung Galaxy S5	バージョン 6.0.1	Google Chrome
Samsung S6	バージョン 6.0.1	Google Chrome
Micromax	バージョン 5.0 およびバージョン 4.4.4	Google Chrome
Google Nexus 6	バージョン 6.0.1	CNA、Google Chrome
Moto X Play	バージョン 6.0.1	Google Chrome
iPhone 4s	バージョン 9.3.5	CNA、Safari
iPhone 5	バージョン 10.1.1	CNA、Safari
iPhone 5s	バージョン 10.1	CNA、Safari
iPhone 6	バージョン 10.1	CNA、Safari
iPhone 6s	バージョン 9.3.5	CNA、Safari
iPhone 6 Plus	バージョン 9.3.5	CNA、Safari
Huawei honor	バージョン .6.0.1 および 6.0	Google Chrome
Huawei P8	バージョン 5.0.1	Google Chrome
Huawei P8 lite	v6.0	CNA、Google Chrome、Mozilla Firefox
Microsoft Lumia 950	Windows 10	CNA およびネイティブ ブラウザ
Nokia Lumia 1320	Windows 8.1	CNA およびネイティブ ブラウザ
iPad またはタブレット		
Samsung Galaxy Tab 2	バージョン 4.1.2	Google Chrome
Samsung Galaxy Tab 3 Neo	バージョン 4.2.2	Google Chrome
Samsung S5	バージョン 5.0	Google Chrome、Mozilla Firefox、ネイティブ ブラウザ
Samsung S6	バージョン 6.0.1	CNA、Google Chrome、Mozilla Firefox、ネイティブ ブラウザ
Samsung S2	バージョン 4.1.2	Google Chrome、Mozilla Firefox、ネイティブ ブラウザ

表 7-1　認定デバイス リスト(続き)

デバイス	OS バージョン	ブラウザまたは Captive Network Assistant(CNA)
iPad mini	バージョン 8.3	CNA、Safari
iPad 2	バージョン 9.3.2	
ラップトップまたはデスクトップ		
Windows Laptop HP ProBook	Windows 7	Google Chrome、Mozilla Firefox、Internet Explorer
Windows Laptop Lenovo	Windows 10	Google Chrome、Mozilla Firefox、IE Edge.
Macbook Pro 13-inch	OS X El Capitan バージョン 10.11.6	CNA
Macbook Pro 13-inch Retina display	OS X El Capitan バージョン 10.11.6	CNA
Mac	バージョン 10.1.1	CNA、Safari
Mac Book Pro	Mac OS Sierra バージョン 10.12.3	CNA、Safari

WiFi Engage キャプティブ ポータルの動作

さまざまなデバイスでのキャプティブ ポータルの動作は、次のとおりです。

- iOS 7.x、8.x、9.x(7-33 ページ)
- Android 5.x 以降:CNA 使用(7-34 ページ)
- Android 4.x 以前(7-35 ページ)
- Windows Phone(7-35 ページ)
- Windows PC またはラップトップ(7-35 ページ)
- Macbook(7-36 ページ)

iOS 7.x、8.x、9.x

顧客がキャプティブ ポータル URL で設定されている SSID に接続すると、Captive Network Assistant(CNA)ウィンドウが表示されます。CNA によってポータルのコンテンツがロードされ、表示されます。

顧客がポータル内のいずれかのメニューまたはリンクをクリックすると、[Authentication] モジュールの設定に応じた内容のログイン画面が表示されます。ポータルへの認証を設定するときの詳細については、「ポータルへの認証の設定」セクション(7-5 ページ)を参照してください。顧客は、認証手順を実行する必要があります。認証手順は、利用規約の承認のみ、SMS 認証、Email 認証、またはソーシャル認証のいずれかです。各種認証タイプの認証手順の詳細については、「顧客のための認証手順」セクション(7-37 ページ)を参照してください。必要な認証手順が完了すると、当該のデバイスにインターネット プロビジョニングをするよう、WiFi Engage から CUWN に要求が送信されます。インターネット プロビジョニングが正常に行われると、CNA ウィンドウは破棄され、Mobile Safari が開きます。Mobile Safari では、顧客が先にクリックしていたメニューまたはリンクの Web ページが開きます。

あるいは、CNA が無視され、顧客が Mobile Safari または Chrome ブラウザを使用してホワイト リスト化されていない（アクセス コントロール リストにない）URL にアクセスした場合、顧客は、設定されているキャプティブ ポータルの URL にリダイレクトされます。ブラウザによってキャプティブ ポータルのコンテンツがロードされ、表示されます。顧客がポータル内のいずれかのメニューまたはリンクをクリックすると、ログイン画面が表示されます。インターネットを利用するには、顧客はここで、前述した認証手順を完了する必要があります。

（注）　インターネット プロビジョニングの後は、顧客は、それ以上の認証なしでポータル内のメニューやリンクに移動できます。

（注）　インターネット プロビジョニング中にエラーが生じると、キャプティブ ポータルが再表示されます。

Android 5.x 以降：CNA 使用

顧客がキャプティブ ポータル URL で設定されている SSID に接続すると、[Sign in to {SSID name}] オプションが通知領域に表示されます。通知をクリックすると、Android 5.x 以降を搭載したデバイスでは、CNA ウィンドウが立ち上がります。CNA によってポータル URL からコンテンツがロードされ、ポータルが表示されます。顧客がポータル内のいずれかのメニューまたはリンクをクリックすると、[Authentication] モジュールの設定に応じた内容のログイン画面が表示されます。ポータルへの認証を設定するときの詳細については、「ポータルへの認証の設定」セクション（7-5 ページ）を参照してください。顧客は、認証手順を実行する必要があります。認証手順は、利用規約の承認のみ、SMS 認証、Email 認証、またはソーシャル認証のいずれかです。各種認証タイプの認証手順の詳細については、「顧客のための認証手順」セクション（7-37 ページ）を参照してください。必要な認証手順が完了すると、当該のデバイスにインターネット プロビジョニングをするよう、WiFi Engage から CUWN に要求が送信されます。インターネット プロビジョニングが正常に行われると、CNA ウィンドウは破棄されます。

あるいは、顧客は通知を無視してネイティブ ブラウザまたは Chrome ブラウザの使用に進むこともできます。顧客がホワイト リスト化されていない（アクセス コントロール リストにない）URL にアクセスした場合、顧客は、設定されているキャプティブ ポータルの URL にリダイレクトされます。ブラウザによってキャプティブ ポータルのコンテンツがロードされ、表示されます。顧客がポータル内のいずれかのメニューまたはリンクをクリックすると、ログイン画面が表示されます。インターネットを利用するには、顧客はここで、前述した認証手順を完了する必要があります。インターネット プロビジョニングが正常に行われると、顧客が先にクリックしていたメニューまたはリンクの Web ページが表示されます。

（注）　インターネット プロビジョニングの後は、顧客は、それ以上の認証なしでポータル内のメニューやリンクに移動できます。

（注）　インターネット プロビジョニング中にエラーが生じると、キャプティブ ポータルが再表示されます。

Android 4.x 以前

顧客がキャプティブ ポータル URL で設定されている SSID に接続すると、[Sign in to {SSID name}] オプションが通知領域に表示されます。通知をクリックすると、Android 4.x 以前を搭載したデバイスでは、デフォルトのブラウザが立ち上がります。ブラウザは、デバイスによって生成される URL をロードしようとします。この URL は WLC でホワイト リスト化されていないため、顧客はキャプティブ ポータルにリダイレクトされます。顧客がポータル内のいずれかのメニューまたはリンクをクリックすると、[Authentication] モジュールの設定に応じた内容のログイン画面が表示されます。ポータルへの認証を設定するときの詳細については、「ポータルへの認証の設定」セクション（7-5 ページ）を参照してください。顧客は、認証手順を実行する必要があります。認証手順は、利用規約の承認のみ、SMS 認証、Email 認証、またはソーシャル認証のいずれかです。各種認証タイプの認証手順の詳細については、「顧客のための認証手順」セクション（7-37 ページ）を参照してください。必要な認証手順が完了すると、当該のデバイスにインターネット プロビジョニングをするよう、WiFi Engage から CUWN に要求が送信されます。インターネット プロビジョニングが正常に行われると、同じブラウザに、顧客が先にクリックしていたメニューまたはリンクの Web ページが表示されます。

（注）　インターネット プロビジョニングの後は、顧客は、それ以上の認証なしでポータル内のメニューやリンクに移動できます。

（注）　インターネット プロビジョニング中にエラーが生じると、キャプティブ ポータルが再表示されます。

Windows Phone

顧客がキャプティブ ポータル URL で設定されている SSID に接続すると、Captive Network Assistant（CNA）が表示されます。CNA によってキャプティブ ポータル URL のコンテンツがロードされ、表示されます。顧客がポータル内のいずれかのメニューまたはリンクをクリックすると、[Authentication] モジュールの設定に応じた内容のログイン画面が表示されます。ポータルへの認証を設定するときの詳細については、「ポータルへの認証の設定」セクション（7-5 ページ）を参照してください。顧客は、認証手順を実行する必要があります。認証手順は、利用規約の承認のみ、SMS 認証、Email 認証、またはソーシャル認証のいずれかです。各種認証タイプの認証手順の詳細については、「顧客のための認証手順」セクション（7-37 ページ）を参照してください。必要な認証手順が完了すると、当該のデバイスにインターネット プロビジョニングをするよう、WiFi Engage から CUWN に要求が送信されます。インターネット プロビジョニングが正常に行われると、CNA ウィンドウは破棄されます。

（注）　インターネット プロビジョニング中にエラーが生じると、キャプティブ ポータルが再表示されます。

Windows PC またはラップトップ

顧客が、キャプティブ ポータル URL で設定されている SSID に正常に接続した後で、ホワイト リスト化されていない（アクセス コントロール リストにない）URL を参照した場合、顧客は、その SSID のために設定されているキャプティブ ポータル ページにリダイレクトされます。顧客がポータル内のいずれかのメニューまたはリンクをクリックすると、[Authentication] モジュールの設定に応じた内容のログイン画面が表示されます。ポータルへの認証を設定するときの詳

細については、「ポータルへの認証の設定」セクション（7-5 ページ）を参照してください。顧客は、認証手順を実行する必要があります。認証手順は、利用規約の承認のみ、SMS 認証、Email 認証、またはソーシャル認証のいずれかです。各種認証タイプの認証手順の詳細については、「顧客のための認証手順」セクション（7-37 ページ）を参照してください。必要な認証手順が完了すると、当該のデバイスにインターネット プロビジョニングをするよう、WiFi Engage から CUWN に要求が送信されます。インターネット プロビジョニングが正常に行われると、同じブラウザに、顧客が先にクリックしていたメニューまたはリンクの Web ページが表示されます。

Windows 10 の場合、顧客がキャプティブ ポータル URL で設定されている SSID に接続すると、Captive Network Assistant（CNA）が表示されます。CNA によってキャプティブ ポータル URL のコンテンツがロードされ、表示されます。顧客がポータル内のいずれかのメニューまたはリンクをクリックすると、[Authentication] モジュールの設定に応じた内容のログイン画面が表示されます。ポータルへの認証を設定するときの詳細については、「ポータルへの認証の設定」セクション（7-5 ページ）を参照してください。顧客は、認証手順を実行する必要があります。認証手順は、利用規約の承認のみ、SMS 認証、Email 認証、またはソーシャル認証のいずれかです。各種認証タイプの認証手順の詳細については、「顧客のための認証手順」セクション（7-37 ページ）を参照してください。必要な認証手順が完了すると、当該のデバイスにインターネット プロビジョニングをするよう、WiFi Engage から CUWN に要求が送信されます。インターネット プロビジョニングが正常に行われると、CNA ウィンドウは破棄されます。

（注）　インターネット プロビジョニングの後は、顧客は、それ以上の認証なしでポータル内のメニューやリンクに移動できます。

（注）　インターネット プロビジョニング中にエラーが生じると、キャプティブ ポータルが再表示されます。

Macbook

顧客がキャプティブ ポータル URL で設定されている SSID に接続すると、Captive Network Assistant（CNA）ウィンドウが表示されます。CNA によってキャプティブ ポータル URL のコンテンツがロードされ、表示されます。顧客がポータル内のメニューまたはリンクをクリックすると、[Authentication] モジュールの設定に応じた内容のログイン画面が表示されます。ポータルへの認証を設定するときの詳細については、「ポータルへの認証の設定」セクション（7-5 ページ）を参照してください。顧客は、認証手順を実行する必要があります。認証手順は、利用規約の承認のみ、SMS 認証、Email 認証、またはソーシャル認証のいずれかです。各種認証タイプの認証手順の詳細については、「顧客のための認証手順」セクション（7-37 ページ）を参照してください。必要な認証手順が完了すると、当該のデバイスにインターネット プロビジョニングをするよう、WiFi Engage から CUWN に要求が送信されます。インターネット プロビジョニングが正常に行われると、顧客のデフォルトのブラウザに、顧客が先にクリックしていたメニューまたはリンクの Web ページが表示されます。ブラウザは、顧客がクリックしていたリンクに加え、CNA 内のホーム ページを別のタブで開きます。

あるいは、顧客は、キャプティブ ポータルのウィンドウを破棄してブラウザの使用に進むこともできます。顧客がホワイト リスト化されていない（アクセス コントロール リストにない）URL にアクセスした場合、顧客は、設定されているキャプティブ ポータルの URL にリダイレクトされます。ブラウザによってキャプティブ ポータル URL のコンテンツがロードされ、表示されます。顧客がポータル内のいずれかのメニューまたはリンクをクリックすると、ログイン画面が表示されます。インターネットを利用するには、顧客はここで、前述した認証手順を完了する必要があります。インターネット プロビジョニングが正常に行われると、同じブラウザに、顧客が先にクリックしていたメニューまたはリンクの Web ページが表示されます。

(注)　インターネット プロビジョニングの後は、顧客は、それ以上の認証なしでポータル内のメニューやリンクに移動できます。

(注)　インターネット プロビジョニング中にエラーが生じると、キャプティブ ポータルが再表示されます。

顧客のための認証手順

さまざまな認証タイプで、インターネットを利用するために顧客が完了する必要がある認証手順は、次のとおりです。

- 利用規約による認証（7-37 ページ）
- Soft SMS による認証（7-38 ページ）
- Hard SMS with Verification Code による認証（7-38 ページ）
- 電子メールによる認証（7-40 ページ）
- ソーシャル認証の認証手順（7-41 ページ）

利用規約による認証

顧客へのインターネット プロビジョニングを、顧客が利用規約を承認することのみを条件として行うように設定することができます。

利用規約の承認のみが必要な認証を完了するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　キャプティブ ポータルで、いずれかのメニュー アイテムをクリックまたはタップします。

ステップ 2　表示されるログイン画面で、[Accept Terms and Continue]を押します。

インターネット プロビジョニングのプロセスが開始し、インターネットが利用できるようになります。

利用規約の承認によるリピート ユーザの認証手順

キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、インターネットが利用できるようになります。

(注)　定義された利用規約に変更がある場合、顧客がキャプティブ ポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、[Terms and Conditions] 画面が表示されます。インターネットにアクセスするには、顧客は [Accept Terms and Continue] ボタンを押さなくてはなりません。

Soft SMS による認証

Soft SMS 認証を完了するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　キャプティブ ポータルで、いずれかのメニュー アイテムをクリックまたはタップします。

ステップ 2　表示されるログイン画面で、携帯電話の番号を入力します。

ステップ 3　[Accept Terms and Continue]を押します。

インターネット プロビジョニングが行われ、ポータルにアクセスするためのリンクが含まれた SMS が、入力された携帯電話の番号に送信されます。

Soft SMS 認証によるリピート ユーザの認証手順

キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、インターネットが利用できるようになります。

（注）　定義された利用規約に変更がある場合、顧客がキャプティブ ポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、[Terms and Conditions] 画面が表示されます。インターネットにアクセスするには、顧客は [Accept Terms and Continue] ボタンを押さなくてはなりません。

Hard SMS with Verification Code による認証

Hard SMS with Verification Code 認証を完了するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　キャプティブ ポータルで、いずれかのメニュー アイテムをクリックまたはタップします。

ステップ 2　表示されるログイン画面で、携帯電話の番号を入力します。

（注）　顧客が通知の受け取りを停止するには、[Opt In to Receive notification] チェックボックスをオフにします。

（注）　[Opt In to receive notification] チェックボックスがログイン画面に表示されるのは、ポータルの [Authentication] モジュールを設定する際に、Hard SMS with Verification Code について [Allow users to Opt in to receive message] チェックボックスをオンにしていた場合のみです。

ステップ 3　[Accept Terms and Continue]を押します。

ステップ 4　表示される画面で、SMS を通じて受け取った認証コードを入力します。

ステップ 5　[Verify]を押します。

認証コードの検証が成功すると、[Data Capture] モジュールが設定されていれば、登録フォームが表示されます。

ステップ 6　登録のためのすべての必須フィールドに入力し、[Connect]を押します。

(注)　すべてのフィールドが任意である場合、[Skip]と [Connect]という 2 つのボタンが表示されます。[Skip] ボタンをクリックすると、顧客はデータを入力せずに続行することができます。登録フォームに変更がある場合のみ、顧客が [Skip]をクリックした際に、顧客に対して登録フォームが表示されます。

登録が成功すると、インターネット プロビジョニングのプロセスが開始し、インターネットが利用できるようになります。

(注)　[Data Capture] モジュールが設定されていない場合、インターネットは、認証コードの検証後、すぐに利用できるようになります。

Hard SMS with Verification Code によるリピート ユーザの認証手順

さまざまなシナリオでのリピート ユーザの認証手順は、次のとおりです。

- **[Data Capture] モジュールが設定されていない**：キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、インターネットが利用できるようになります。
- **[Data Capture] モジュールが設定されており、顧客は登録を完了している**：キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、インターネットが利用できるようになります。
- **[Data Capture] モジュールが設定されており、登録情報が無効化している**：キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、以前に入力されたデータを含む登録フォームが表示されます。顧客は、フォームを更新して [Connect] ボタンを押すと、インターネットにアクセスできます。

  以下は、登録情報が無効化するシナリオの一部です。

  - **新しい必須フィールドの追加**：[Data Capture] モジュールに新しい必須フィールドが追加されています。たとえば、次のような場合です。[Gender] フィールドなしで [Data Capture] モジュールを設定。顧客が登録を完了。その後、[Data Capture] モジュールに [Gender] フィールドを必須フィールドとして追加。
  - **任意フィールドの必須フィールド化**：[Data Capture] モジュールを変更し、顧客が登録時に入力しなかった任意フィールドが必須フィールドになっています。たとえば、次のような場合です。[Last Name] を任意にして [Data Capture] モジュールを設定。顧客は SSID に接続し、姓を入力せずに登録を完了。その後、[Data Capture] モジュールを変更し、[Last Name] を登録のために必須とする。
  - **選択肢の変更**：選択可能だった選択肢が、削除または置き換えされています。たとえば、次のような場合です。「Child」および「Adult」という選択肢を伴う必須のビジネス タグ、「Age Criteria」を設定。顧客は「Age Criteria」に「Child」を選択して登録を完了。その後、選択肢の表示を「Kids」と「Adult」に変更。
  - **前回ログイン時に無効な電子メール ID を入力**：キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、前回ログイン時に入力された無効な電子メール ID を含む登録フォームが表示されます。続行するには、顧客は有効な電子メール ID を入力する必要があります。

(注)　上述のすべてのシナリオにおいて、定義された利用規約に変更がある場合、顧客がキャプティブ ポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、[Terms and Conditions] 画面が表示されます。インターネットにアクセスするには、または次の認証手順に進むには、顧客は [Accept Terms and Continue] ボタンを押さなくてはなりません。

電子メールによる認証

Email 認証を完了するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　キャプティブ ポータルで、いずれかのメニュー アイテムをクリックまたはタップします。

ステップ 2　表示されるログイン画面で、電子メール ID を入力します。

ステップ 3　顧客が通知の受け取りを停止するには、[Opt In to Receive notification] チェックボックスをオフにします。

(注)　[Opt In to receive notification] チェックボックスがログイン画面に表示されるのは、ポータルの [Authentication] モジュールを設定する際に、認証タイプ [Email] について [Allow users to Opt in to receive message] チェックボックスをオンにしていた場合のみです。

ステップ 4　[Accept Terms and Continue]を押します。

入力された電子メール ID が有効であれば、インターネットが利用できるようになります。

ステップ 5　[Data Capture] モジュールが Email 認証に設定されている場合、顧客が [Accept Terms and Continue]をクリックすると、登録画面が表示されます。

ステップ 6　登録のためのすべての必須フィールドに入力し、[Connect]を押します。

(注)　すべてのフィールドが任意である場合、[Skip]と [Connect]という 2 つのボタンが表示されます。[Skip] ボタンをクリックすると、顧客はデータを入力せずに続行することができます。登録フォームに変更がある場合のみ、顧客が [Skip] をクリックした際に、リピート ユーザに対して登録フォームが表示されます。

インターネット プロビジョニングのプロセスが開始し、インターネットが利用できるようになります。

Email 認証によるリピート ユーザの認証手順

さまざまなシナリオでのリピート ユーザの認証手順は、次のとおりです。

- **前回ログイン時に無効な電子メール ID を入力**：キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、前回ログイン時に入力された無効な電子メール ID を含むログイン画面が表示されます。続行するには、顧客は有効な電子メール ID を入力する必要があります。
- **[Data Capture] モジュールが設定されていない**：キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、インターネットが利用できるようになります。

- **[Data Capture] モジュールが設定されており、顧客は登録を完了している**：キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、インターネットが利用できるようになります。
- **[Data Capture] モジュールが設定されており、登録情報が無効化している**：キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、以前に入力されたデータを含む登録フォームが表示されます。顧客は、フォームを更新して [Connect] を押すと、インターネットにアクセスできます。

  以下は、登録情報が無効化するシナリオの一部です。

  - **新しい必須フィールドの追加**：[Data Capture] モジュールに新しい必須フィールドが追加されています。たとえば、次のような場合です。[Gender] フィールドなしで [Data Capture] モジュールを設定。顧客が登録を完了。その後、[Data Capture] モジュールに [Gender] フィールドを必須フィールドとして追加。
  - **任意フィールドの必須フィールド化**：[Data Capture] モジュールを変更し、顧客が登録時に入力しなかった任意フィールドが必須フィールドになっています。たとえば、次のような場合です。[Last Name] を任意にして [Data Capture] モジュールを設定。顧客は SSID に接続し、姓を入力せずに登録を完了。その後、[Data Capture] モジュールを変更し、[Last Name] を登録のために必須とする。
  - **選択肢の変更**：選択可能だった選択肢が、削除または置き換えされています。たとえば、次のような場合です。「Child」および「Adult」という選択肢を伴う必須のビジネス タグ、「Age Criteria」を設定。顧客は「Age Criteria」に「Child」を選択して登録を完了。その後、選択肢の表示を「Kids」と「Adult」に変更。

（注） 上述のすべてのシナリオにおいて、定義された利用規約に変更がある場合、顧客がキャプティブ ポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、利用規約を表示する [Terms and Conditions] 画面が表示されます。インターネットにアクセスするには、または次の認証手順に進むには、顧客は [Accept Terms and Continue] ボタンを押さなくてはなりません。

ソーシャル認証の認証手順

ポータルへのソーシャル認証を完了するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　顧客がキャプティブ ポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、ポータルへのすべての Social Sign In オプションが使用できる画面が表示されます。

（注） サインイン オプションは、ポータルに設定されているソーシャル ネットワークのみに表示されます。ポータルにソーシャル アプリケーションを設定するときの詳細については、「Social Sign In 認証のためのポータル設定」セクション（7-8 ページ）を参照してください。

ステップ 2　認証を完了するために使用するソーシャル ネットワークのサインイン オプションをクリックします。ソーシャル ネットワークのログイン ページが表示されます。

たとえば、Facebook のサインイン オプションをクリックすると、Facebook のログイン画面が表示されます。

ステップ 3　ソーシャル ネットワークのログイン クレデンシャルを入力して、ログイン ボタンを押します。

ステップ 4　表示される画面で、[Allow]を押します。

リダイレクト URI がロードされ、[Terms and Conditions] 画面が表示されます。

ステップ 5　[Accept Terms and Continue]を押します。

（注）　Facebook および Twitter には、リダイレクト URI の設定は不要です。リダイレクト URI は、Linked In の場合に設定が必要です。Linked In のリダイレクト URI を設定するときの詳細については、「ソーシャル認証のためのアプリケーションの設定」セクション（7-30 ページ）を参照してください。

ステップ 6　インターネット プロビジョニングが行われると、[Continue] 画面が表示されます。

ステップ 7　先にクリックしていたリンクのページを表示するには、[Continue]を押します。

（注）　WiFi Engage 2.3 以前を使用して作成されたポータルには、認証プロセス中、常に通常の画面ではなく、ポップアップ メッセージが表示されます。

ソーシャル認証によるリピート ユーザの認証手順

キャプティブ ポータルがロードされ、顧客がポータル内のいずれかのメニュー アイテムまたはリンクをクリックすると、設定されているすべてのソーシャル ネットワークについて、接続のためのオプションが表示されます。顧客が以前に認証のために使用したソーシャル ネットワークは、「Continue with [social network]」というラベルで表示されます。たとえば、顧客が以前、キャプティブ ポータルを通じたインターネットへのアクセスに Facebook 認証を使用していた場合、Facebook のオプションが、[Continue with Facebook] というラベルで表示されます。これまで認証に使用されていないソーシャル ネットワークについては、サインイン オプションが表示されます。たとえば、[Signin with Linkedin] です。

- 顧客が以前に認証のために使用したソーシャル ネットワークを継続して使用する場合、インターネットは、認証プロセスなしで利用できます。ただし、利用規約に変更がある場合は、[Terms and Conditions] 画面が表示されます。このとき、インターネットにアクセスするには、顧客は [Accept Terms and Continue] ボタンを押さなくてはなりません。
- 顧客がこれまで認証に使用されていないソーシャル ネットワークを使用してサインインする場合、顧客は、そのソーシャル ネットワークの認証プロセスの全体を完了する必要があります。顧客がいずれかのソーシャル ネットワークを介したソーシャル認証を使用してインターネットにアクセスした場合、認証プロセス中に [Terms and Conditions] 画面は表示されません。ただし、利用規約に変更がある場合は、認証プロセス中に [Terms and Conditions] 画面が表示されます。このとき、インターネットにアクセスするには、顧客は [Accept Terms and Continue] ボタンを押さなくてはなりません。

Smart Link

Smart Link オプションでは、次のことができます。

- 顧客に Web ページ のパーソナライズされたビューを提供。Smart Link オプションを使用して、キャプティブ ポータル内のカスタム メニュー リンクへの URL や 通知メッセージ内のエンゲージメント URL をカスタマイズし、パーソナライズされたビューを提供することができます。サイトのページをユーザ別またはユーザのグループ別にパーソナライズすることができます。

たとえば、ポータル内のカスタム メニュー アイテムに「optedinstatus」パラメータを設定することができます。すると、このカスタム メニュー アイテムの Web ページで、オプトイン ユーザと非オプトイン ユーザに対して異なるコンテンツを表示するように設定することができます。オプトイン ユーザがキャプティブ ポータルでカスタム メニュー リンクをクリックすると、オプトイン ユーザ用のコンテンツが表示されます。非オプトイン ユーザが同じカスタム メニュー リンクをクリックすると、非オプトイン ユーザ用のコンテンツが表示されます。

注　これらのパラメータを使用して顧客にパーソナライズされたビューを表示するためには、Web ページをそれに応じて設定する必要があります。

- 名前、携帯電話の番号、性別などの個人に関する詳細を追加した通知メッセージの顧客およびビジネス ユーザへの送信。デフォルトでは、通知には顧客の姓名が記載されます。Smart Link を使用すると、顧客のさらなる詳細を追加できます。

  たとえば、顧客に SMS 通知を送信するエンゲージメント ルールを作成し、SMS 通知の [message] テキスト ボックスに変数「mobile」および「gender」を設定していたとします。この場合、顧客がこのエンゲージメント ルールに基づく SMS メッセージを受信すると、メッセージには、顧客の携帯電話の番号と性別の詳細も表示されます。

Smart Link は、以下のオプションで追加できます。

- ポータルに追加されたカスタム メニュー アイテムに追加されたリンク
- SMS、電子メール、BLE、アプリケーション、または API 通知に含まれるエンゲージメント URL
- 顧客、ならびに従業員や API エンド ポイントなどのビジネス ユーザに送信される通知メッセージ テキスト

WiFi Engage は、[Data Capture] モジュールを使用して、ユーザの個人に関する詳細を収集します。つまり、Smart Link に名、姓、性別などの個人に関する詳細を含めるためには、ポータルに [Data Capture] モジュールを設定する必要があります。

（注）　Soft SMS および Hard SMS with Verification Code のメッセージに含まれるキャプティブ ポータルの URL は、Smart Link 機能ではサポートされません。

WiFi Engage は、特定の事前定義された変数を提供しています。Web ページのパーソナライズされたビューの提供と、通知メッセージへの顧客の詳細の追加には、これらの変数を使用する必要があります。

Smart Link には、静的および動的変数を含めることができます。

Smart Link に含めることができる静的パラメータは、次のとおりです。

- macaddress：デバイスの MAC アドレス
- encryptedMacAddress：デバイスの暗号化された MAC アドレス
- deviceSubscriberId：データベース内でのデバイスのサブスクライバ ID
- firstName：顧客の名
- lastName：顧客の姓
- email：顧客の電子メール ID
- Mobile：顧客の携帯電話の番号
- gender：顧客の性別
- optinStatus：顧客のオプトイン ステータス

（注）　変数「macaddress」、「encryptedMacAddress」、「deviceSubcriberId」、および「optinStatus」は、API 通知と通知内のエンゲージメント URL のみに使用できます。

Smart Link には、次の動的変数を含めることができます。

- Business Tags：顧客が属するビジネス タグ。[Data Capture] モジュールで設定されるビジネス タグは、変数としてリストされています。ビジネス タグを作成するときの詳細については、「ポータルへの [Data Capture] モジュールの追加」セクション（7-9 ページ）を参照してください。
- Location Metadata：顧客のロケーションのロケーション メタデータ。定義されたロケーション メタデータのキーは、変数としてリストされています。ロケーション メタデータを定義するときの詳細については、「ロケーション要素のメタデータの定義」セクション（3-7 ページ）を参照してください。

URL に Smart Link を挿入するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[URL] または [Link] フィールドに「$」を入力するか、または対応する [Add Variable] ドロップダウン リストをクリックします。

追加できる変数がリストされています。

ステップ 2　追加する変数を選択します。

通知メッセージに Smart Link を挿入するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　[Notification] テキストボックスに「$」を入力するか、または対応する [Add Variable] ドロップダウン リストをクリックします。

追加できる変数がリストされています。

ステップ 2　追加する変数を選択します。

CHAPTER 8

既存のエクスペリエンス ゾーンの管理

WiFi Engage では、EMSP の旧バージョンを使用して作成されたエクスペリエンス ゾーンを表示できます。WiFi Engage 3.0 以降はエクスペリエンス ゾーンの作成をサポートしません。以降は、キャプティブ ポータル ルールを使用してキャプティブ ポータルを表示するように設定できます。キャプティブ ポータル ルールの詳細については、「キャプティブ ポータル ルールの作成」セクション(4-1 ページ)を参照してください。

エクスペリエンス ゾーンとは、特定のロケーションから特定の SSID にアクセスするユーザに表示されるポータルのことです。エクスペリエンス ゾーンは、SSID、ポータル、およびロケーションに対応して作成されます。各エクスペリエンス ゾーンでは、ビジネスに固有およびそのロケーションや領域に関連するサービスとコンテンツのメニューが訪問者に提供されます。

ABC は、世界中に数多くのホテルを持つ業界トップクラスのホテル チェーンです。このホテルでは、すべての顧客にフリー Wi-Fi が提供されています。ABC は WiFi Engage に対応しています。ホワイト氏はビジネスマンであり、出張で ABC のさまざまなホテルを使用する常連の顧客です。彼は、出張の一環としてニューヨークおよびロンドンを訪問する必要があり、それぞれの場所で ABC のホテルを予約しました。ニューヨーク滞在時、ホワイト氏は ABC の Wi-Fi を介してインターネットに接続します。すると、ニューヨークの観光地、ショッピング センター、ローカル ニュース、および地域の広告が掲載されたポータルが表示されます。ホワイト氏はロンドンに移動し、ABC の Wi-Fi にアクセスします。ここでは、ロンドンの観光地、ショッピング センター、ローカル ニュース、および地域の広告が掲載されたポータルが表示されます。同様に、顧客がさまざまな場所から同一の Wi-Fi ID にアクセスすると、さまざまなエクスペリエンス ゾーンが顧客に提供されます。

(注) アンカー制御の導入モデルはサポートされません。

エクスペリエンス ゾーンの表示

エクスペリエンス ゾーンを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 WiFi Engage ダッシュボードで、[Experience Zones]を選択します。

ダッシュボードの右ペインにエクスペリエンス ゾーンが表示されます。

(注) [Experience Zones] オプションは、WiFi Engage アカウントに既存のエクスペリエンス ゾーンがある場合にのみ、WiFi Engage ダッシュボードで使用可能です。

エクスペリエンス ゾーンの編集

エクスペリエンス ゾーンを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Experience Zones]を選択します。

ステップ 2　[Experience Zones] ページで、変更するエクスペリエンス ゾーンの変更アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Edit Experience Zone] ウィンドウで、必要な変更を行います。

ステップ 4　[Update Zone]をクリックします。

ここで顧客は自分のデバイスで更新されたキャプティブ ポータルを表示できます。

エクスペリエンス ゾーンの削除

エクスペリエンス ゾーンを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Experience Zones]を選択します。

ステップ 2　[Experience Zones] ページで、削除するエクスペリエンス ゾーンの変更アイコンをクリックします。

ステップ 3　表示される [Delete Experience Zone] ウィンドウで、[Yes]をクリックします。

エクスペリエンス ゾーンが削除されます。

ロケーション要素のエクスペリエンス ゾーンの変更

MSE、グループ、ロケーションなどのロケーション要素に対してエクスペリエンス ゾーンを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、エクスペリエンス ゾーンを変更するロケーション要素の [Experience Zones]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Experience Zones] ページで、変更するエクスペリエンス ゾーンの変更アイコンをクリックします。

ステップ 4　[Edit Experience Zone] ウィンドウで、必要な変更を行います。

ステップ 5　[Update Zone]をクリックします。

ここで顧客は自分のデバイスで更新されたキャプティブ ポータルを表示できます。

ロケーション要素のエクスペリエンス ゾーンの削除

MSE、グループ、ロケーションなどのロケーション要素に対してエクスペリエンス ゾーンを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、エクスペリエンス ゾーンを削除するロケーション要素の [Experience Zones]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Experience Zones] ページで、削除するエクスペリエンス ゾーンの削除アイコンをクリックします。

ステップ 4　表示される [Delete Experience Zone] ウィンドウで、[Yes]をクリックします。

エクスペリエンス ゾーンが削除されます。

WiFi Engage 設定の管理

この章では、MSE グループ、ビルディング、フロア、ゾーン、および WiFi Engage のアクセス ポイントを管理する方法について説明します。また、アプリケーション、および BLE ビーコンを管理する方法についても説明します。

- 顧客名の管理（9-1 ページ）
- MSE アカウントの管理（9-2 ページ）
- キャンパスの管理（9-4 ページ）
- ビルディングの管理（9-6 ページ）
- フロアの管理（9-7 ページ）
- グループの管理（9-10 ページ）
- ゾーンの管理（9-13 ページ）
- アクセス ポイントの管理（9-14 ページ）
- キャプティブ ポータル ルールの管理（9-15 ページ）
- エンゲージメント ルールの管理（9-17 ページ）
- プロファイル ルールの管理（9-19 ページ）
- アプリケーションの管理（9-21 ページ）
- ソーシャル ネットワーク アプリケーションの管理（9-22 ページ）
- BLE ビーコンの管理（9-24 ページ）

顧客名の管理

WiFi Engage ではデフォルトの顧客名を変更できます。

- 顧客名の変更（9-1 ページ）

顧客名の変更

顧客の名前を変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]をクリックします。

ステップ 2 [Locations] ページで、顧客名の右端のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3 [Rename Root]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Rename - Root] ウィンドウに必要な顧客名を入力します。

ステップ 5　[Rename]をクリックします。

MSE アカウントの管理

WiFi Engage により、MSE マップおよび MSE へのアクセス権があるユーザを表示できます。また、MSE の名前を変更し、独立した MSE を削除し、MSE の詳細を編集できます。

- MSE の名前変更（9-2 ページ）
- MSE の編集（9-2 ページ）
- MSE の削除（9-3 ページ）
- MSE のマップの表示（9-3 ページ）
- MSE のユーザの管理（9-3 ページ）

MSE の名前変更

MSE の名前を変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、名前を変更する MSE のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Rename mse]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Rename - MSE] ウィンドウに、MSE の新しい名前を入力します。

ステップ 5　[Rename]をクリックします。

MSE の編集

MSE 接続のクレデンシャルを編集できます。

MSE を編集するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、編集する MSE のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Edit MSE]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Add MSE] ウィンドウで、MSE の一部にするロケーション要素を選択します。

ステップ 5　[Edit]をクリックします。

MSE の削除

MSE を削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、削除する MSE のドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Delete MSE]をクリックします。

（注）　[Delete location] オプションを MSE に使用できるのは、その MSE の下にロケーション要素がないときのみです。つまり、MSE を削除するには、その MSE の下のロケーション要素とサブ グループを（存在する場合）、先に削除する必要があります。

（注）　エクスペリエンス ゾーンまたはプロキシミティ ルールに関連付けられた MSE は削除できません。

MSE のマップの表示

MSE のマップを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、マップを表示する MSE の [Maps] アイコンをクリックします。
マップが [Maps] タブに表示されます。

（注）　MSE のマップは、その MSE の下に少なくとも 1 つのキャンパスがあるときにのみ表示されます。マップは MSE から表示されます。

MSE のユーザの管理

ユーザを作成するときに、MSE 全体へのアクセス権を提供できます。その MSE の下にあるそれらのユーザを検索できます。

MSE のユーザの検索

MSE のユーザを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、その MSE の [Users]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Users and Permission] タブで、[Search] テキスト フィールドに検索するユーザの名前を入力します。
ユーザがウィンドウに表示されます。

キャンパスの管理

WiFi Engage により、キャンパス マップおよびキャンパスへのアクセス権があるユーザを表示できます。また、キャンパスの名前を変更し、独立したキャンパスを削除できます。

- キャンパスの名前変更（9-4 ページ）
- キャンパスの削除（9-4 ページ）
- キャンパスのマップの表示（9-5 ページ）
- キャンパスのユーザの管理（9-5 ページ）

キャンパスの名前変更

キャンパスの名前を変更するには、次の手順を実行します

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、名前を変更するキャンパスのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Rename campus]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Rename- campus] ウィンドウに、キャンパスの新しい名前を入力します。

ステップ 5　[Rename]をクリックします。

キャンパスの削除

キャンパスを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、削除するキャンパスのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Delete campus]をクリックします。

（注）　[Delete campus] オプションをキャンパスに使用できるのは、そのキャンパスの下にビルディングがないときのみです。つまり、キャンパスを削除するには、そのキャンパスの下のロケーション要素を（存在する場合）、先に削除する必要があります。

（注）　エクスペリエンス ゾーンまたはプロキシミティ ルールに関連付けられたキャンパスは削除できません。

キャンパスのマップの表示

キャンパスのマップを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、マップを表示するキャンパスの [Maps] アイコンをクリックします。

マップが [Maps] タブに表示されます。

（注）　キャンパスの MSE に設定されているマップが表示されます。

キャンパスのユーザの管理

ユーザを作成するときに、特定のキャンパスのみにアクセス権を制限することができます。そのキャンパスの下にあるそれらのユーザを検索できます。

キャンパスのユーザの検索

キャンパスのユーザを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、そのキャンパスの [Users]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Users and Permission] タブで、[Search] テキスト フィールドに、検索するユーザの名前を入力します。

ユーザがウィンドウに表示されます。

ビルディングの管理

WiFi Engage により、ビルディングのマップおよびビルディングへのアクセス権があるユーザを表示できます。また、ビルディング名を変更し、独立したビルディングを削除できます。

- ビルディング名の変更（9-6 ページ）
- ビルディングの削除（9-6 ページ）
- ビルディングのマップの表示（9-7 ページ）
- ビルディング内のユーザの管理（9-7 ページ）

ビルディング名の変更

ビルディング名を変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、名前を変更するビルディングのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Rename network]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Rename - network] ウィンドウに、ビルディングの新しい名前を入力します。

ステップ 5　[Rename]をクリックします。

ビルディングの削除

ビルディングを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、削除するビルディングのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Delete building]をクリックします。

（注）　[Delete building] オプションは、アクセス ポイントを持つフロアまたはゾーンがそのビルディングの下にないときにのみ使用できます。つまり、ビルディングを削除するには、先にそのビルディングの下のフロアまたはゾーン（ある場合）を削除する必要があります。

（注）　エクスペリエンス ゾーンまたはプロキシミティ ルールに関連付けられたビルディングは削除できません。

ビルディングのマップの表示

ビルディングのマップを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、マップを表示するビルディングの [Maps] アイコンをクリックします。
マップが [Maps] タブに表示されます。

(注)　特定のビルディングの MSE に設定されているマップが表示されます。

ビルディング内のユーザの管理

ユーザを作成するときに、特定のビルディングにのみアクセスを制限できます。その下のビルディングのユーザを検索できます。

ビルディング内のユーザの検索

ビルディング内のユーザを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、そのビルディングの [Users]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Users and Permission] タブで、[Search] テキスト フィールドに、検索するユーザの名前を入力します。
ユーザがウィンドウに表示されます。

フロアの管理

WiFi Engage により、フロア マップを表示し、そのフロアにアクセス権があるユーザを管理できます。また、フロアの名前を変更して、独立したフロアを削除できます。

- フロアの名前変更(9-8 ページ)
- フロアの削除(9-8 ページ)
- フロアのマップの表示(9-9 ページ)
- フロアのユーザの管理(9-10 ページ)

フロアの名前変更

フロアの名前を変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、名前を変更するフロアのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Rename floor]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Rename - floor] ウィンドウに、フロアの新しい名前を入力します。

ステップ 5　[Rename]をクリックします。

フロアの削除

フロアを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、削除するフロアのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Delete floor]をクリックします。

(注)　削除するフロアの下にゾーンがある場合、そのゾーンは、フロアの削除の後、ビルディングの下に移動します。

(注)　エクスペリエンス ゾーンまたはプロキシミティ ルールに関連付けられたフロアは削除できません。

フロアのマップの管理

マップはデフォルトで CUWN のマップ設定に基づいて表示されます。WiFi Engage により、フロアの Micello マップを表示できます。また、フロアの外部マップをアップロードできます。

- フロアのマップの表示(9-9 ページ)
- Micello マップの設定(9-9 ページ)
- 外部マップのアップロード(9-9 ページ)

フロアのマップの表示

フロアのマップを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、マップを表示するフロアの [Maps] アイコンをクリックします。
マップが [Maps] タブに表示されます。

Micello マップの設定

WiFi Engage により、フロアまたはゾーンの Micello マップを設定できます。

Micello マップを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、Micello マップを設定するフロアまたはゾーンの [Maps] アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Micello]タブをクリックします。

ステップ 4　[Map Name] テキスト フィールドに、マップの名前を入力します。

ステップ 5　[Enter Micello details] 領域で、Micello マップを表示するように [Map ID] または [Map URL] を設定するかどうかを選択します。

ステップ 6　次のテキスト フィールドに、前の選択に基づき、[Map ID] または [Map URL] を入力します。

ステップ 7　[API Key] テキスト フィールドに、Micello マップの API キーを入力します。

ステップ 8　[Save]をクリックします。
Micello からマップがロードされ、ページに表示されます。

(注)　Micello マップを設定するには、Micello アカウントが必要です。Micello アカウントについては、support@micello.com にお問い合わせください。

外部マップのアップロード

WiFi Engage により、フロアまたはゾーンの選択に応じた外部マップを設定できます。

外部マップを設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、外部マップを設定するフロアまたはゾーンの [Maps] アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Image]タブをクリックします。

ステップ 4　[Map Name] テキスト フィールドに、マップの名前を入力します。

ステップ 5　[Browse]ボタンをクリックし、マップのイメージ ファイルをアップロードします。

ステップ 6　[Save]をクリックします。

（注）　png、jpeg、および gif 形式のマップ イメージ ファイルをアップロードできます。

フロアのユーザの管理

ユーザを作成するときに、特定のフロアのみにアクセス権を制限することができます。そのフロアの下にあるそれらのユーザを検索できます。

フロアのユーザの検索

フロアのユーザを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、ユーザを検索するフロアの [Users]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Users and Permission] タブで、[Search] テキスト フィールドに、検索するユーザの名前を入力します。

ユーザがウィンドウに表示されます。

グループの管理

WiFi Engage により、グループ マップを表示し、そのグループにアクセス権があるユーザを表示できます。また、グループの名前を変更して、独立したグループを削除できます。

- グループの名前変更（9-11 ページ）
- グループの編集（9-11 ページ）
- グループの削除（9-11 ページ）
- グループのマップの表示（9-12 ページ）
- グループのユーザの管理（9-12 ページ）

グループの名前変更

グループの名前を変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、名前を変更するグループのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Rename group]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Rename - group] ウィンドウに、グループの新しい名前を入力します。

ステップ 5　[Rename]をクリックします。

グループの編集

ロケーション要素をグループに追加またはグループから削除できます。

グループを編集するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、編集するグループのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Edit group]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Edit Group] ウィンドウで、グループの一部にするロケーション要素を選択します。

ステップ 5　[Update]をクリックします。

グループの削除

グループを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、削除するグループのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Delete group]ボタンをクリックします。

（注）　[Delete group] オプションをグループに使用できるのは、そのグループの下にロケーション要素またはサブ グループがないときのみです。つまり、グループを削除するには、そのグループの下のロケーション要素とサブ グループを（存在する場合）、先に削除する必要があります。

(注)　エクスペリエンス ゾーンまたはプロキシミティ ルールに関連付けられたグループは削除できません。

グループのマップの表示

グループのマップを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、マップを表示するグループの [Maps] アイコンをクリックします。
マップが [Maps] タブに表示されます。

(注)　グループのマップは、そのグループの下に少なくとも 1 つのロケーションがあるときにのみ表示されます。マップは MSE から表示されます。

グループのユーザの管理

ユーザを作成するときに、特定のグループのみにアクセス権を制限することができます。そのグループの下にあるそれらのユーザを検索できます

グループ内のユーザの検索

グループのユーザを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、そのグループの [Users]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Users and Permission] タブで、[Search] テキスト フィールドに検索するユーザの名前を入力します。
ユーザがウィンドウに表示されます。

ゾーンの管理

WiFi Engage により、ゾーン マップおよびゾーンへのアクセス権があるユーザを表示できます。また、ゾーンの名前を変更したり、ゾーンを削除したりできます。

- ゾーンの名前変更（9-13 ページ）
- ゾーンの削除（9-13 ページ）
- ゾーンのマップの表示（9-14 ページ）
- ゾーンのユーザの管理（9-14 ページ）

ゾーンの名前変更

ゾーンの名前を変更するには、次の手順を実行します

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、名前を変更するゾーンのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Rename zone]をクリックします。

ステップ 4　表示される [Rename- zone] ウィンドウに、ゾーンの新しい名前を入力します。

ステップ 5　[Rename]をクリックします。

ゾーンの削除

ゾーンを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、削除するゾーンのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Delete zone]をクリックします。

（注）　エクスペリエンス ゾーンまたはプロキシミティ ルールに関連付けられたゾーンは削除できません。

ゾーンのマップの表示

マップはデフォルトで MSE のマップ設定に基づいて表示されます。WiFi Engage により、ゾーンの Micello マップを表示できます。また、ゾーンの外部マップをアップロードできます。

- Micello マップの設定（9-9 ページ）
- 外部マップのアップロード（9-9 ページ）

ゾーンのマップを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、マップを表示するゾーンの [Maps] アイコンをクリックします。

マップが [Maps] タブに表示されます。

ゾーンのユーザの管理

ユーザを作成するときに、特定のゾーンのみにアクセス権を制限することができます。そのゾーンの下にあるそれらのユーザを検索できます。

ゾーン内のユーザの検索

ゾーンのユーザを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、そのゾーンの [Users]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Users and Permission] タブで、[Search] テキスト フィールドに、検索するユーザの名前を入力します。

ユーザがウィンドウに表示されます。

アクセス ポイントの管理

ゾーンへのアクセス ポイントを追加または削除できます。

- ゾーンへのアクセス ポイントの追加（9-15 ページ）
- ゾーンからのアクセス ポイントの削除（9-15 ページ）

ゾーンへのアクセス ポイントの追加

ゾーンにアクセス ポイントを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、アクセス ポイントを追加するゾーンをクリックします。

ステップ 3　[Modify Access Points]をクリックします。

ステップ 4　追加するアクセス ポイントのチェックボックスをオンにします。

ステップ 5　[Modify Access Points]をクリックします。
アクセス ポイントが、ゾーンに追加されます。

(注)　そのゾーンの下にアクセス ポイントがない場合、ボタンの名前は [Add Access Points]になります。

ゾーンからのアクセス ポイントの削除

ゾーンからアクセス ポイントを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、アクセス ポイントを削除するゾーンをクリックします。

ステップ 3　[Modify Access Points]をクリックします。

ステップ 4　削除するアクセス ポイントのチェックボックスをオフにします。

ステップ 5　[Modify Access Points]をクリックします。
アクセス ポイントが、ゾーンから削除されます。

キャプティブ ポータル ルールの管理

要求されるたびに、キャプティブ ポータル ルールを一時停止したり、再度有効にしたりできます。必要に応じて、キャプティブ ポータル ルールを変更したり、削除したりできます。ロケーション要素に固有のキャプティブ ポータル ルールを作成し、ロケーション階層から表示できます。

- キャプティブ ポータル ルールの一時停止 (9-16 ページ)
- キャプティブ ポータル ルールの再起動 (9-16 ページ)
- キャプティブ ポータル ルールの変更 (9-16 ページ)
- キャプティブ ポータル ルールの削除 (9-17 ページ)
- ロケーション要素のキャプティブ ポータル ルールの表示 (9-17 ページ)

キャプティブ ポータル ルールの一時停止

キャプティブ ポータル ルールを一時停止するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Captive Portal Rule]の順に選択します。

作成されたキャプティブ ポータル ルールがリストされます。

ステップ 2　一時停止するキャプティブ ポータル ルールの右端に表示される [Pause]アイコンをクリックします。

キャプティブ ポータル ルールが一時停止します。

（注）　複数のキャプティブ ポータル ルールを一時停止するには、一時停止するキャプティブ ポータル ルールのチェックボックスをオンにし、ページの下部に表示される [Pause] ボタンをクリックします。

キャプティブ ポータル ルールの再起動

キャプティブ ポータル ルールを再起動するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Captive Portal Rule]の順に選択します。

作成されたキャプティブ ポータル ルールがリストされます。

ステップ 2　再起動するキャプティブ ポータル ルールの右端に表示される [Make Rule Live]アイコンをクリックします。

キャプティブ ポータル ルールを再起動します。

（注）　複数のキャプティブ ポータル ルールを再起動するには、再起動するキャプティブ ポータル ルールのチェックボックスをオンにして、ページの下部に表示される [Make Rule Live] ボタンをクリックします。

キャプティブ ポータル ルールの変更

キャプティブ ポータル ルールを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Captive Portal Rule]の順に選択します。

作成されたキャプティブ ポータル ルールがリストされます。

ステップ 2　変更するキャプティブ ポータル ルールをクリックします。

ステップ 3　必要な変更を加えます。

ステップ 4　変更を保存するには、[Save]をクリックします。変更をパブリッシュするには、[Save and Resume]をクリックします。

注　ライブ ルールにあるのは [Save and Resume] オプションのみです。[Save and Resume] ボタンをクリックすると、その変更を反映したルールがパブリッシュされます。

キャプティブ ポータル ルールの削除

キャプティブ ポータル ルールを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Captive Portal Rule]の順に選択します。
作成されたキャプティブ ポータル ルールがリストされます。

ステップ 2　削除するキャプティブ ポータル ルールの右端に表示される [Delete]アイコンをクリックします。

(注)　複数のキャプティブ ポータル ルールを削除するには、削除するキャプティブ ポータル ルールのチェックボックスをオンにし、ページの下部に表示される [Delete] ボタンをクリックします。

ロケーション要素のキャプティブ ポータル ルールの表示

グループ、ビルディング、フロアなどのロケーション要素のキャプティブ ポータル ルールを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　キャプティブ ポータル ルールを表示するロケーション要素の [Proximity Rules]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Captive Portal Rule]タブをクリックします。
ロケーション要素のキャプティブ ポータル ルールがリストされます。

エンゲージメント ルールの管理

- エンゲージメント ルールの一時停止 (9-18 ページ)
- エンゲージメント ルールの再起動 (9-18 ページ)
- エンゲージメント ルールの変更 (9-18 ページ)
- エンゲージメント ルールの削除 (9-19 ページ)
- ロケーション要素のエンゲージメント ルールの表示 (9-19 ページ)

エンゲージメント ルールの一時停止

エンゲージメント ルールを一時停止するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Engagement Rule]の順に選択します。
作成されたエンゲージメント ルールがリストされます。

ステップ 2　一時停止するエンゲージメント ルールの右端に表示される [Pause]アイコンをクリックします。
エンゲージメント ルールが一時停止します。

（注）　複数のエンゲージメント ルールを一時停止するには、一時停止するエンゲージメント ルールのチェックボックスをオンにし、ページの下部に表示される [Pause] ボタンをクリックします。

エンゲージメント ルールの再起動

エンゲージメント ルールを再起動するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Engagement Rule]の順に選択します。
作成されたエンゲージメント ルールがリストされます。

ステップ 2　再起動するエンゲージメント ルールの右端に表示される [Make Rule Live]アイコンをクリックします。
エンゲージメント ルールが再起動します。

（注）　複数のエンゲージメント ルールを再起動するには、再起動するエンゲージメント ルールのチェックボックスをオンにし、ページの下部に表示される [Make Rule Live] ボタンをクリックします。

エンゲージメント ルールの変更

エンゲージメント ルールを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Engagement Rule]の順に選択します。
作成されたエンゲージメント ルールがリストされます。

ステップ 2　変更するエンゲージメント ルールをクリックします。ライブ ルールについては、ルールの右端に表示される編集アイコンをクリックします。

ステップ 3　必要な変更を加えます。

ステップ 4　変更を保存するには、[Save]をクリックします。変更をパブリッシュするには、[Save and Resume]をクリックします。

注　ライブ ルールにあるのは [Save and Resume] オプションのみです。[Save and Resume] ボタンをクリックすると、その変更を反映したルールがパブリッシュされます。

エンゲージメント ルールの削除

エンゲージメント ルールを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Engagement Rule]の順に選択します。
作成されたエンゲージメント ルールがリストされます。

ステップ 2　削除するエンゲージメント ルールの右端に表示される [Delete]アイコンをクリックします。

(注)　複数のエンゲージメント ルールを削除するには、削除するエンゲージメント ルールのチェックボックスをオンにし、ページの左上に表示される [Delete] ボタンをクリックします。

ロケーション要素のエンゲージメント ルールの表示

グループ、ビルディング、フロアなどのロケーション要素のエンゲージメント ルールを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。
ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　エンゲージメント ルールを表示するロケーション要素の [Proximity Rules]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Engagement Rule]タブをクリックします。
ロケーション要素のエンゲージメント ルールがリストされます。

プロファイル ルールの管理

要求されるたびに、プロファイル ルールを一時停止したり、再度有効にしたりできます。必要に応じて、プロファイル ルールを変更したり、削除したりできます。ロケーション要素に固有のプロファイル ルールを作成し、ロケーション階層から表示できます。

- プロファイル ルールの一時停止 (9-20 ページ)
- プロファイル ルールの再起動 (9-20 ページ)
- プロファイル ルールの変更 (9-20 ページ)
- プロファイル ルールの削除 (9-21 ページ)
- ロケーション要素のプロファイル ルールの表示 (9-21 ページ)

プロファイル ルールの一時停止

プロファイル ルールを一時停止するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Profile Rule]の順に選択します。
作成されたプロファイル ルールがリストされます。

ステップ 2　一時停止するプロファイル ルールの右端に表示される [Pause]アイコンをクリックします。
プロファイル ルールが一時停止します。

（注）　複数の契約のプロファイル ルールを一時停止するには、一時停止するプロファイル ルールのチェックボックスをオンにし、ページの下部に表示される [Pause] ボタンをクリックします。

プロファイル ルールの再起動

プロファイル ルールを再起動するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Profile Rule]の順に選択します。
作成されたプロファイル ルールがリストされます。

ステップ 2　再起動するプロファイル ルールの右端に表示される [Make Rule Live]アイコンをクリックします。
プロファイル ルールが再起動します。

（注）　複数のプロファイル ルールを再起動するには、再起動するプロファイル ルールのチェックボックスをオンにし、ページの下部に表示される [Make Rule Live] ボタンをクリックします。

プロファイル ルールの変更

プロファイル ルールを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Profile Rule]の順に選択します。
作成されたプロファイル ルールがリストされます。

ステップ 2　変更するプロファイル ルールをクリックします。

ステップ 3　必要な変更を加えます。

ステップ 4　変更を保存するには、[Save]をクリックします。変更をパブリッシュするには、[Save and Resume]をクリックします。

注　ライブ ルールにあるのは [Save and Resume] オプションのみです。[Save and Resume] ボタンをクリックすると、その変更を反映したルールがパブリッシュされます。

プロファイル ルールの削除

プロファイル ルールを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Proximity Rules] > [Profile Rule]の順に選択します。

作成されたプロファイル ルールがリストされます。

ステップ 2　削除するプロファイル ルールの右端に表示される [Delete]アイコンをクリックします。

（注）　複数の契約のプロファイル ルールを削除するには、削除するプロファイル ルールのチェックボックスをオンにし、ページの下部に表示される [Delete] ボタンをクリックします。

ロケーション要素のプロファイル ルールの表示

グループ、ビルディング、フロアなどのロケーション要素のプロファイル ルールを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　プロファイル ルールを表示するロケーション要素の [Proximity Rules]アイコンをクリックします。

ステップ 3　[Profile Rule]タブをクリックします。

ロケーション要素のプロファイル ルールがリストされます。

アプリケーションの管理

プッシュ通知を送信するように設定されているアプリケーションの名前を変更したり、変更、または削除できます。

アプリケーションの名前の変更

アプリケーションの名前を変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの [Tools] アイコンを選択します。

ステップ 2　[Notification Channels]タブをクリックします。

[Apps] ウィンドウに、設定されたすべてのアプリケーションの詳細が表示されます。

ステップ 3　名前を変更するアプリケーションのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 4　[Rename]をクリックします。

ステップ 5　編集が有効になっている [app name] フィールドに、アプリケーションの新しい名前を入力します。

ステップ 6　[Rename]をクリックします。

アプリケーションの変更

アプリケーションを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの [Tools] アイコンを選択します。

ステップ 2　[Notification Channels]タブをクリックします。

[Apps] ウィンドウに、設定されたすべてのアプリケーションのリストが表示されます。

ステップ 3　変更するアプリケーションの名前をクリックします。

アプリケーションの詳細が表示されます。

ステップ 4　必要な変更をアプリケーションに加えます。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

アプリケーションの削除

アプリケーションを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの [Tools] アイコンを選択します。

ステップ 2　[Notification Channels]タブをクリックします。

[Apps] ウィンドウに、設定されたすべてのアプリケーションの詳細が表示されます。

ステップ 3　削除するアプリケーションのドロップダウン メニュー アイコンをクリックします。

ステップ 4　[Delete]をクリックします。

アプリケーションが削除されます。

（注）　[Delete] オプションは、アプリケーションがプロキシミティ ルールに関連付けられていないときにのみ表示されます。

ソーシャル ネットワーク アプリケーションの管理

ソーシャル認証が設定されたソーシャル ネットワーク アプリケーションの詳細を変更できます。WiFi Engage により、Facebook、Twitter、LinkedIn のアプリケーションを設定できます。

- Facebook アプリケーションの変更（9-23 ページ）
- Twitter アプリケーションの変更（9-23 ページ）
- LinkedIn アプリケーションの変更（9-23 ページ）

Facebook アプリケーションの変更

Facebook アプリケーションを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの[Tools] アイコンを選択します。

ステップ 2　[Social Apps]タブをクリックします。

ステップ 3　Facebook アプリケーションの [Edit]ボタンをクリックします。

ステップ 4　必要な変更を加えます。

(注)　アプリケーションの名前は編集できません。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

(注)　[Edit] ボタンは Facebook アプリケーションを追加済みのときのみ使用できます。

Twitter アプリケーションの変更

Twitter アプリケーションを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの[Tools] アイコンを選択します。

ステップ 2　[Social Apps]タブをクリックします。

ステップ 3　Twitter アプリケーションの [Edit]ボタンをクリックします。

ステップ 4　必要な変更を加えます。

(注)　アプリケーションの名前は編集できません。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

(注)　[Edit] ボタンは Twitter アプリケーションを追加済みのときのみ使用できます。

LinkedIn アプリケーションの変更

LinkedIn アプリケーションを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの[Tools] アイコンを選択します。

ステップ 2　[Social Apps]タブをクリックします。

ステップ 3　LinkedIn アプリケーションの [Edit]ボタンをクリックします。

ステップ 4　必要な変更を加えます。

(注)　アプリケーションの名前は編集できません。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

(注)　[Edit] ボタンは LinkedIn アプリケーションを追加済みのときのみ使用できます。

BLE ビーコンの管理

BLE UUID を削除、およびビルディング、フロア、ゾーンに追加された BLE ビーコンを変更や削除できます。

- ビーコン UUID の削除（9-24 ページ）
- BLE ビーコンの変更（9-25 ページ）
- BLE ビーコンの削除（9-25 ページ）

ビーコン UUID の削除

ビーコン UUID を削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインの [Tools] アイコンをクリックします。

ステップ 2　[BLE UUIDs]タブをクリックします。

ステップ 3　削除する BLE UUID に対応する [Delete]をクリックします。

BLE UUID が削除されます。

(注)　BLE ビーコンに関連付けられている UUID は削除できません。つまり、UUID を削除するには、先に UUID に関連するすべての BLE ビーコンを削除する必要があります。

BLE ビーコンの変更

ビルディング全体、フロアまたはゾーンに BLE ビーコンを割り当てることができます。

ビルディング、フロアまたはゾーンの BLE ビーコンを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、BLE ビーコンを変更する、ビルディング、フロアまたはゾーンの [BleBeacons] アイコンをクリックします。

[BLE Beacons] ページに、ビルディング、フロアまたはゾーンに追加されたすべての BLE ビーコンのリストが表示されます。

ステップ 3　変更する BLE ビーコンをクリックします。

[Edit BLE Beacon] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4　BLE ビーコンに必要な変更を行います。

ステップ 5　[Save]をクリックします。

BLE ビーコンの削除

ビルディング、フロアまたはゾーンから BLE ビーコンを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Manage Locations]を選択します。

ロケーション階層を含む [Locations] ページが表示されます。

ステップ 2　ロケーション階層で、BLE ビーコンを削除する、ビルディング、フロアまたはゾーンの [BLEBeacons] アイコンをクリックします。

ステップ 3　[BLE Beacons]タブをクリックします。

[BLE Beacons] ページに、ビルディング、フロアまたはゾーンに追加されたすべての BLE ビーコンのリストが表示されます。

ステップ 4　削除する BLE ビーコンに対応する [Delete]をクリックします。

BLE ビーコンが正常に削除されます。

CHAPTER 10

レポート

この章では、WiFi Engage を使用して表示できるさまざまな種類のレポートについて説明します。

レポートの表示

[Reports] には、WiFi Engage が有効化されているロケーションでの顧客のアクティビティの詳細が表示されます。また、WiFi Engage を使用してこれまでに収集することができた顧客データも表示されます。顧客とは、事業拠点内で Wi-Fi が有効なデバイスを持っている任意の人で、事業所を以前に購入している人、潜在的な購入者、または訪問者です。レポートを使用することで、さまざまなロケーションでの顧客のアクティビティを分析し、適切なビジネス上の意思決定を行うことができます。

(注) レポートを表示するには、MSE/CMX に一定の設定をする必要があります。MSE/CMX の設定の詳細については、「通知を送信するための MSE/CMX の設定」セクション(5-2 ページ)を参照してください。MSE/CMX の設定が未実施のままレポートにアクセスしようとすると、WiFi Engage は、設定が未実施であることを通知するメッセージを表示し、設定を自動的に行うか質問してきます。[Yes] をクリックすると、MSE/CMX での設定が自動的に実行されます。

レポートを表示するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 WiFi Engage ダッシュボードで、[Reports] を選択します。

レポートが表示されます。

(注) デフォルトでは、レポートは、WiFi Engage をインストールした日以降、すべてのロケーションについて表示されます。

ステップ 2 [FILTERs] フィールドで、レポート表示の対象とするロケーションを選択します。

デフォルトでは、[All]が選択されています。ロケーションを選択するには、隣にある [Edit] アイコンをクリックし、表示される [Choose Locations] ウィンドウでレポート表示の対象とするロケーションを選択して、[Apply] をクリックします。

ステップ 3 [Date] フィールドで、レポート表示の対象とする期間を指定します。

デフォルトでは、レポートは、ユーザがアクセス権を持つロケーションについて過去 365 日分が表示されます。期間を指定するには、隣にある [Edit] アイコンをクリックし、表示される [Choose Date] ウィンドウで日付範囲を指定して、[Apply] をクリックします。

ステップ 4　特定のタイプのレポートを表示するには、表示したいレポート タイプのタブをクリックします。たとえば、ユーザ アクティビティのレポートを表示するには、[User Activity] をクリックします。

レポート ヘッダーには、さまざまなデータの件数が表示されます。件数は、WiFi Engage がインストールされた日以降について表示されます。レポート ヘッダーには、次の詳細情報が表示されます。

- **Devices Connected**：Wi-Fi に接続してキャプティブ ポータルを表示した一意のデバイスの総数。
- **Devices Acquired**：WiFi に接続してキャプティブ ポータルの利用規約を承認した一意のデバイスの総数。
- **Devices Opted In**：サブスクリプションにオプトインする一意のデバイスの総数。オプトイン ユーザの詳細については、「オプトイン ユーザ」セクション（6-6 ページ）を参照してください。

注　ソーシャル認証または Email 認証を試行してサブスクリプションにオプトインしたものの、認証プロセスを正常に完了できなかったデバイスも考慮されます。

- **Users Acquired**：キャプティブ ポータルの利用規約を承認した、EMSP によって識別された一意の顧客の総数。顧客が、携帯電話の番号などの同一の識別情報を使用して複数のデバイスでインターネットにアクセスしている場合、1 件のみのユーザ獲得が考慮されます。たとえば、顧客が認証のために同一の携帯電話番号を 3 台のデバイスに入力している場合、1 件のユーザ獲得とみなされます。

また、WiFi Engage では、次のタイプのレポートが表示できます。デフォルトでは、これらのレポートには、過去 1 年分のデータが表示されます。レポートにフィルタを適用すると、特定のロケーションおよび期間のデータを表示することができます。

- 顧客獲得レポート（10-2 ページ）
- ユーザ アクティビティ レポート（10-4 ページ）
- エンゲージメント レポート（10-5 ページ）

顧客獲得レポート

顧客獲得レポートには、指定されたロケーションおよび期間において獲得された顧客の詳細が表示されます。

顧客獲得レポートには、次の情報が含まれます。

- **Customer Acquisition Graph**：このグラフには、選択した期間の次の詳細情報が、日次で表示されます。指定された期間の総件数は、グラフの左側に表示されます。
  - **Devices Connected**：Wi-Fi に接続してキャプティブ ポータルを表示したデバイスの総数。
  - **Devices Acquired**：Wi-Fi に接続してキャプティブ ポータルの利用規約を承認した一意のデバイスの総数。
  - **Devices Opted In**：サブスクリプションにオプトインする一意のデバイスの総数。オプトイン ユーザの詳細については、「オプトイン ユーザ」セクション（6-6 ページ）を参照してください。

注　ソーシャル認証または Email 認証を試行してサブスクリプションにオプトインしたものの、認証プロセスを正常に完了できなかったデバイスも考慮されます。

- **Users Acquired**：キャプティブ ポータルの利用規約を承認した、EMSP によって識別された一意の顧客の総数。顧客が、携帯電話の番号などの同一の識別情報を使用して複数のデバイスでインターネットにアクセスしている場合、1 件のみのユーザ獲得が考慮されます。たとえば、顧客が認証のために同一の携帯電話番号を 3 台のデバイスに入力している場合、1 件のユーザ獲得とみなされます。

グラフの左側には、次の詳細情報が表示されます。

- **New Devices Connected**：指定された期間に選択されたロケーションから Wi-Fi に接続し、キャプティブ ポータルを表示した新規デバイスの総数。
- **Devices Acquired**：指定された期間に選択されたロケーションから Wi-Fi に接続し、キャプティブ ポータルの利用規約を承認した一意のデバイスの総数。
- **Devices Opted In**：選択したロケーションについて指定した期間サブスクリプションにオプトインする一意のデバイスの総数。オプトイン ユーザの詳細については、「オプトイン ユーザ」セクション（6-6 ページ）を参照してください。

注　ソーシャル認証または Email 認証を試行してサブスクリプションにオプトインしたものの、認証プロセスを正常に完了できなかったデバイスも考慮されます。

- **Users Acquired**：指定された期間に選択されたロケーションからキャプティブ ポータルの利用規約を承認した、EMSP によって識別された一意の顧客の総数。顧客が、携帯電話の番号などの同一の識別情報を使用して複数のデバイスでインターネットにアクセスしている場合、1 件のみのユーザ獲得が考慮されます。たとえば、顧客が認証のために同一の携帯電話番号を 3 台のデバイスに入力している場合、1 件のユーザ獲得とみなされます。

- ユーザ プロファイル
  - Total Users：電話番号、電子メール ID など、いずれかのタイプの個人識別情報を入力することで認証を完了した一意の顧客の総数を表示。
  - Tag Pie Chart：タグ付きおよびタグなしのユーザが [Total Users] に占めるパーセンテージを表示。タグ付きのユーザのパーセンテージは、グラフの中央に表示されます。
  - Male/Female Pie Charts：タグ付きの顧客の男女比を示す円グラフを表示。
  - Tags Added：顧客の数が上位に入るタグの円グラフを表示。1 つのタグの円グラフは、そのタグに属する顧客が [Total Users] に占めるパーセンテージを表示します。各タグに属する顧客の総数も、それぞれの円グラフの下に表示されます。顧客が複数のタグに属する場合、その顧客は、それらのタグすべてについてカウントされます。
- **Captured Data**：このセクションには、特定の期間およびロケーションにおいて収集された電子メール アドレス、電話番号、名前、および性別の詳細など、顧客に関する詳細が表示されます。このデータは、顧客が個人に関する詳細へのアクセスを許可している場合、データ キャプチャ フォーム（ソーシャル認証および Email 認証で使用可能）、またはデータ キャプチャ フォーム のないソーシャル認証を通じて収集することができます。
  - Email：指定された期間に指定されたロケーションから収集された一意の電子メール アドレスの総数。
  - Phone Numbers：指定された期間に指定されたロケーションから収集された一意の電話番号の総数。

- Names：指定された期間に指定されたロケーションから名前（姓/名）が収集されたデバイスの総数。
- Gender：指定された期間に指定されたロケーションから性別が収集されたデバイスの総数。

ユーザ アクティビティ レポート

ユーザ アクティビティ レポートは、指定された期間における指定されたロケーションへの顧客による訪問の詳細、顧客がそのロケーションに滞在した時間、および各顧客がそのロケーションを訪問した回数を表示します。

最短の訪問継続時間は 20 分です。顧客が Wi-Fi から切断してネットワーク圏外となり、当初の接続の時刻から 20 分以内に再接続した場合、1 件の訪問とみなされます。顧客が当初の接続の時刻から 20 分後以降に再接続した場合は、別途の訪問とみなされます。

（注）　顧客が SSID に 1 度でも接続したことがある場合、その顧客が Wi-Fi スイッチがオンになっているデバイスを保有していれば、その顧客の再訪問は、SSID に接続していない場合であっても、すべて考慮されます。

ユーザ アクティビティ レポートには、次の情報が含まれます。

- **User Activity Graph**
  - **User Per Day/Visits Per Day**：ユーザ アクティビティ マップは、選択された期間について、「1 日あたりの訪問総数」に対する「1 日あたりの一意の訪問顧客数」の割合を日次で表示します。

  グラフの左側には、次の詳細情報が表示されます。

  - **Total Distinct Users**：指定された期間に指定されたロケーションを訪問した一意の顧客の総数。使用された認証タイプが顧客の識別をサポートしていない場合、訪問した一意のデバイスの数が考慮されます。
  - **Daily Active Users**：指定された期間に指定されたロケーションで Wi-Fi を「オン」にしていた顧客の 1 日あたりの平均数。
  - **Total Visits**：指定された期間における指定されたロケーションへの訪問の総数。顧客が複数の訪問を行うこともあります。
- **Dwell Time**：指定された期間における指定されたロケーションへの訪問それぞれの継続時間を表示する円グラフを表示します。平均滞在時間は、円グラフの中央に表示されます。このセクションには、さまざまな滞在時間範囲での訪問件数も表示されます。たとえば、[<5 MINS] の件数は、滞在時間が 5 分未満の訪問の件数を表します。
- **Average Number of Visits - Unique Users**：指定された期間に一意の顧客それぞれが指定されたロケーションを訪問した回数を示す円グラフを表示します。一意の顧客による訪問の平均回数は、円グラフの中央に表示されます。このセクションには、さまざまな訪問回数範囲範囲での訪問件数も表示されます。たとえば、[1 VISITS]の件数は、指定された期間に指定されたロケーションを 1 度だけ訪問した一意の顧客の数を表します。

エンゲージメント レポート

エンゲージメント レポートは、指定されたロケーションのために設定されたキャプティブ ポータルでの顧客のエンゲージメントの詳細を表示します。

このレポートには、次の詳細情報が含まれます。

- **New VS Returning Devices**: この棒グラフは、そのロケーションのために設定された SSID に接続した新規デバイスとリターン デバイス(指定されたロケーションから SSID に接続したことが以前にあるデバイス)の総数を、日次で表示します。
- **Captive Portal Engagement**
  - **Welcome Page Views**: 指定された期間に指定されたロケーションからキャプティブ ポータルにアクセスし、[Welcome] ページを表示した顧客の総数(インターネット プロビジョニングの前)。
  - **Internet Provisioned**: 指定された期間に指定されたロケーションからキャプティブ ポータル経由でインターネットに接続することができた顧客の総数。
  - **Landing Page Views**: 指定された期間およびロケーションで、顧客がランディング ページにアクセスし、表示した回数の合計(インターネット プロビジョニングの後)。

注　インターネット プロビジョニングの後に顧客が外部リンクにリダイレクトされた場合は、[Landing Page Views] にカウントされません。

  - **Number of Clicks per Menu Item**: 顧客によって最も頻繁にクリックされたキャプティブ ポータルのメニュー アイテムまたはキャプティブ ポータル。合計クリック数に対する各メニュー アイテムのクリック数のパーセンテージが円グラフとして表示されます。これらのメニュー アイテムごとのクリック数も、円グラフの下に表示されます。
- **Engagement Rules - Consumer Notifications**: 選択されたロケーションおよび期間において、さまざまなエンゲージメント ルールを使用して SMS、電子メール、またはプッシュ通知として顧客に送信された通知の件数を示す棒グラフ。棒の中のどの色が SMS、電子メール、およびアプリケーション通知を示すかは、グラフの右上に表示されています。グラフ中の棒は、それぞれエンゲージメント ルールを表します。選択されたロケーションおよび期間においてエンゲージメント ルールを使用して送信された SMS、電子メール、およびプッシュ通知の総数は、グラフの左側に表示されます。
- **Engagement Rules - Business User Notifications**: 選択されたロケーションおよび期間において、さまざまなエンゲージメント ルールを使用して SMS、電子メール、または API 通知としてビジネス ユーザに送信された通知の件数を示す棒グラフ。棒の中のどの色が SMS、電子メール、および API 通知を示すかは、グラフの右上に表示されています。グラフ中の棒は、それぞれエンゲージメント ルールを表します。選択されたロケーションおよび期間においてエンゲージメント ルールを使用して送信された SMS、電子メール、および API 通知の総数は、グラフの左側に表示されます。
- **Engagement Rule - Profile Tags**: 指定された期間および指定されたロケーションにおいて、さまざまなプロファイル ルールを使用してタグに追加された、またはタグから削除された顧客の総数を示す棒グラフ。グラフ中の棒は、それぞれプロファイル ルールを表します。各種のプロファイル ルールを通じて追加および削除されたタグの総数は、グラフの左側に表示されます。

ユーザとアカウントの管理

この章では、さまざまなタイプの WiFi Engage ユーザについて説明します。また、WiFi Engage および CUWN のアカウントを管理する方法も説明します。

- WiFi Engage ユーザの管理（11-1 ページ）
- WiFi Engage アカウントの管理（11-3 ページ）

WiFi Engage ユーザの管理

WiFi Engage は、ユーザに対し、その実行するロールに基づいてさまざまな権限を付与します。

- WiFi Engage へのユーザの招待（11-1 ページ）
- ユーザ権限の編集（11-2 ページ）
- WiFi Engage ユーザの削除（11-3 ページ）
- WiFi Engage ユーザの検索（11-3 ページ）

WiFi Engage へのユーザの招待

アカウント管理者ユーザは、WiFi Engage に他のユーザを追加して、必要な管理権限を付与することができます。ユーザは、特定のロケーションに対して作成できます。WiFi Engage により、次のタイプのユーザを定義できます。

- アカウント管理者：このユーザには WiFi Engage ダッシュボードの完全な管理権限があります。
- 管理者：このユーザには、特定のロケーションのユーザの管理を除くすべての権限があります。たとえば、管理者は、WiFi Engage に参加するようにユーザを招待することはできません。
- ポータル デザイナー：このユーザには、ポータル上での WiFi Engage のポータル機能へのアクセス権だけがあります。
- AccessCode マネージャ：このユーザはアクセス コードを作成および管理するためにのみアクセスできます。
- 読み取り専用アクセス：このユーザは、特定のロケーションの WiFi Engage ダッシュボードを表示するアクセス権だけがあります。つまり、このユーザが WiFi Engage の設定を編集することはできません。

WiFi Engage ユーザを追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Team]を選択します。

ステップ 2　[Invite User]をクリックします。

ステップ 3　[Invite Users] ウィンドウで、次の詳細を入力します。

a. [Email Address] フィールドで、追加するユーザの電子メール アドレスを入力します。

b. [Access] ドロップダウン リストから、このユーザに指定するアクセス タイプを選択します。

選択に基づいて、追加のフィールドが表示されます。このフィールドは、アカウント管理者およびポータル デザイナーには表示されません。

- [Admin] または [Read Only Access] を選択している場合、[Choose Location] オプションが表示されます。アクセスを可能にするロケーションを選択します。
- [AccessCode Manager] を選択している場合、[Choose Location] フィールドが表示されます。

c. [Send Invite]をクリックします。

（注）　[Invite User] ボタンは、アカウント管理者ユーザのみが使用できます。

（注）　[AcessCode Manager] オプションは、WiFi Engage アカウントにエクスペリエンス ゾーンがある場合のみ表示されます。

ユーザ権限の編集

WiFi Engage では、既存の WiFi Engage ユーザの権限を変更することができます。たとえば、アカウント管理者ユーザは、ポータル ユーザを管理者ユーザに昇格させることができます。

WiFi Engage ユーザのユーザ権限を変更するには、以下の手順に従います。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Team]を選択します。

WiFi Engage ユーザのリストを含む [Team] ページが表示されます。

ステップ 2　ユーザ権限を変更するユーザをクリックします。

[Update User] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3　[Access] ドロップダウン リストから、ユーザに付与するアクセスのタイプを選択します。

ステップ 4　表示される [Choose Location] ドロップダウン リストから [Admin]、[AccessCode Manager]、または [Read Only Access] を選択した場合は、ユーザにアクセス権を与えるロケーションを選択します。

ステップ 5　[Apply Changes]をクリックします。

（注）　ユーザ権限の変更を知らせるメールが当該のユーザに送信されます。

（注）　[AcessCode Manager] オプションは、WiFi Engage アカウントにエクスペリエンス ゾーンがある場合のみ表示されます。

WiFi Engage ユーザの削除

ユーザが WiFi Engage へのアクセスを必要としなくなった場合、そのユーザを WiFi Engage のユーザ リストから削除することをお勧めします。

既存の WiFi Engage ユーザを削除するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Team]を選択します。

WiFi Engage ユーザのリストを含む [Team] ページが表示されます。

ステップ 2　削除するユーザの隣のチェックボックスをオンにします。

[Delete User] ボタンが表示されます。

ステップ 3　[DELETE USER]をクリックします。

WiFi Engage ユーザの検索

WiFi Engage は、WiFi Engage ユーザの検索ができる検索機能を提供しています。

既存の WiFi Engage ユーザを検索するには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、[Team]を選択します。

WiFi Engage ユーザのリストを含む [Team] ページが表示されます。

ステップ 2　[Search] フィールドに、検索するユーザの電子メール ID を入力します。

WiFi Engage ユーザ リストが短縮され、[Search] フィールドでの指定に一致する名前が表示されます。

WiFi Engage アカウントの管理

この項では、WiFi Engage アカウントを管理する方法について説明します。

WiFi Engage パスワードの変更

アプリケーションのセキュリティ向上のため、WiFi Engage パスワードを頻繁に変更することをお勧めします。

WiFi Engage アカウントのパスワードを変更するには、以下の手順に従います。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインに表示される [User Account] アイコンを選択します。

ステップ 2　[Change Password]をクリックします。

ステップ 3　表示されるウィンドウで、次の手順を実行します。

a. [Current Password] テキスト フィールドに、WiFi Engage アカウントの現在のパスワードを入力します。

b. [New Password] フィールドに、WiFi Engage アカウントの新しいパスワードを入力します。

c. [Confirm Password] フィールドに、確認のために新しいパスワードを再入力します。

d. [Change Password]をクリックします。

（注）　必要なパスワード強度は 8 です。パスワードに特殊文字や数字を追加して、パスワードのセキュリティを強化します。

WiFi Engage からのサインアウト

WiFi Engage からサインアウトするには、次の手順を実行します。

ステップ 1　WiFi Engage ダッシュボードで、左ペインに表示される [User Account] アイコンを選択します。

ステップ 2　[Sign out]をクリックします。